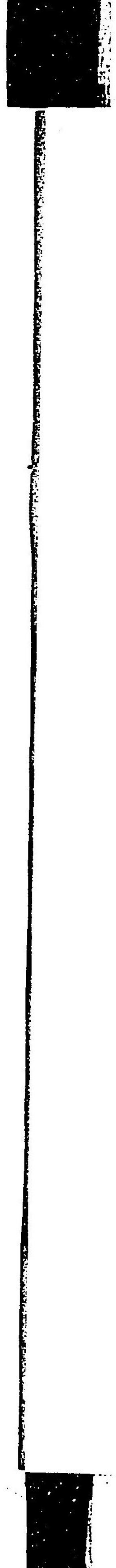


暹羅王國之瞥見

特70

57

四十五年三月刊行
社記事第九卷第壹號附錄



序

本稿ハ今回本艦カ御名代トシテ暹羅國王陛下戴冠式ニ參列アラセラレタル
伏見宮博恭王殿下ノ供奉艦トシテ同國ニ回航セルヲ好機トシ兩三年前倫敦ニ
於テ刊行セラレタル前暹羅國文部省直轄學校長アーネスト、ヤングノ原著「ピ
ープス、アット、メニー、ランツ、サイアム」(Peeps at many lands Siam)ヲ基礎トシ
テ東洋友邦ノ研究ヲ試ミ(但軍機ニ關スルモノヲ省ク)傍ラ若干ノ參考書ヲ涉
獵シテ更ニ自己ノ實際的觀察ト鄙見トヲ加味シタルモノナリ然レトモ戴冠式
中十日間ノ盤谷湄南滯泊ハ長キニ非ス而モ公務ノ繁劇ニ追ハレテ何等研究ノ
時間ヲ得サリシヲ以テ豈敢テ暹羅ノ大體ヲモ查覈シ得タリト謂ハンヤ加フル
ニ歸航ノ時恰モ北東半年風季ノ最盛ニ際シ三千哩ヲ通シテ終始狂瀾怒濤ニ翻
弄セラレツ、纒ニ得タル海洋上ノ成果ニ外ナラサレハ讀者幸ニ之ヲ諒セヨ

本稿ノ修作ニ關シ甚大ノ援助ヲ與ヘラレタル暹羅政府法律顧問法學博士政尾藤吉氏及ヒ書上ノ間接ニハアレ須ラク宗教信仰ノ精髓ニ依リテ解釋セサレハ到底暹羅國萬般ノ社會ニ現ハル、色彩ヲ見ルコト能ハスト謂フアーネストヤング氏ノ一大教訓ニ對シテ深厚ノ謝意ヲ表スト云爾

明治四十五年一月四日

於吳軍艦旋編

者 識

暹羅王國ノ瞥見

目 錄

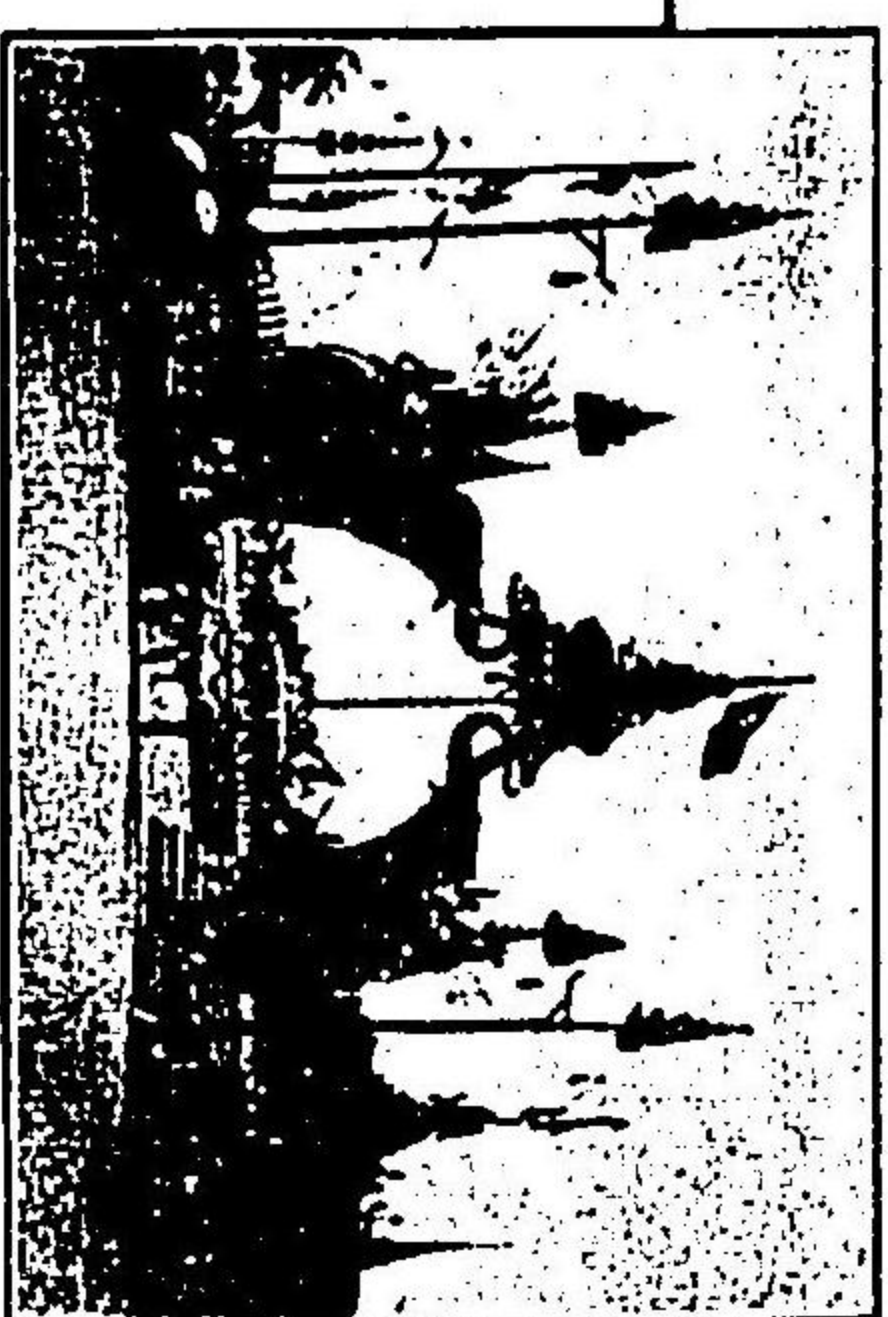
緒 言	一
第一章 歷史	四
第二章 國勢	八
第三章 王室	九
第四章 盤谷	二一
第五章 湄南	一七
第六章 兒童	二二
第七章 學校	二三
第八章 娛樂	二六

第九章	宗	教	二八
第十章	佛	陀	三〇
第十一章	僧	侶	三五
第十二章	寺	院	三九
第十三章	剃	髮	四三
第十四章	家	屋	四六
第十五章	衣	食	四九
第十六章	漁	撈	五四
第十七章	米		五六
第十八章	祭	典	五九
第十九章	象		六二
第二十章	白	象	六六

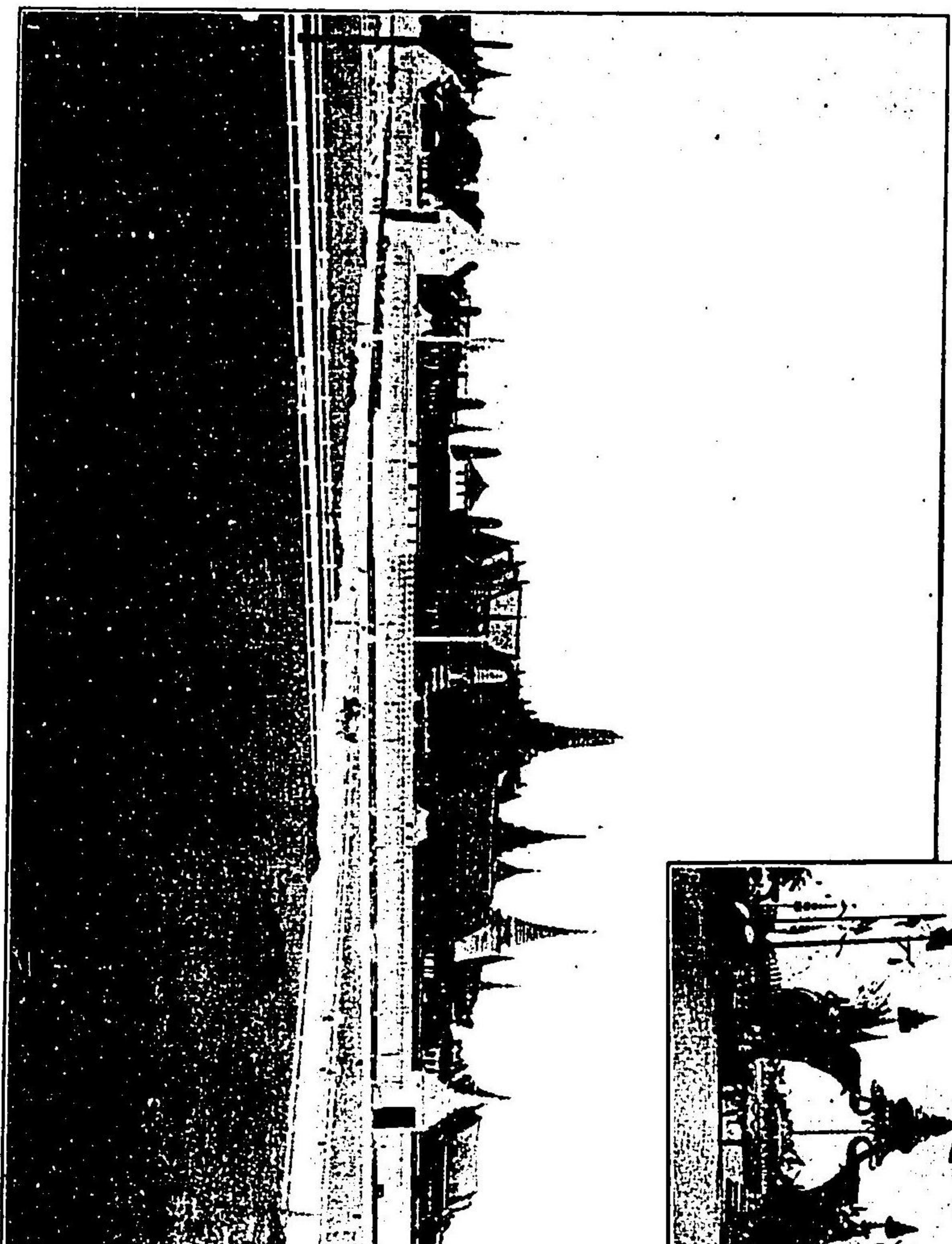
第廿一章	行	政	六八
第廿二章	司	法	七三
第廿三章	支那	卜暹羅卜ノ關係	七八
第廿四章	貿	易	八〇
第廿五章	財	政	八二
結尾			八五



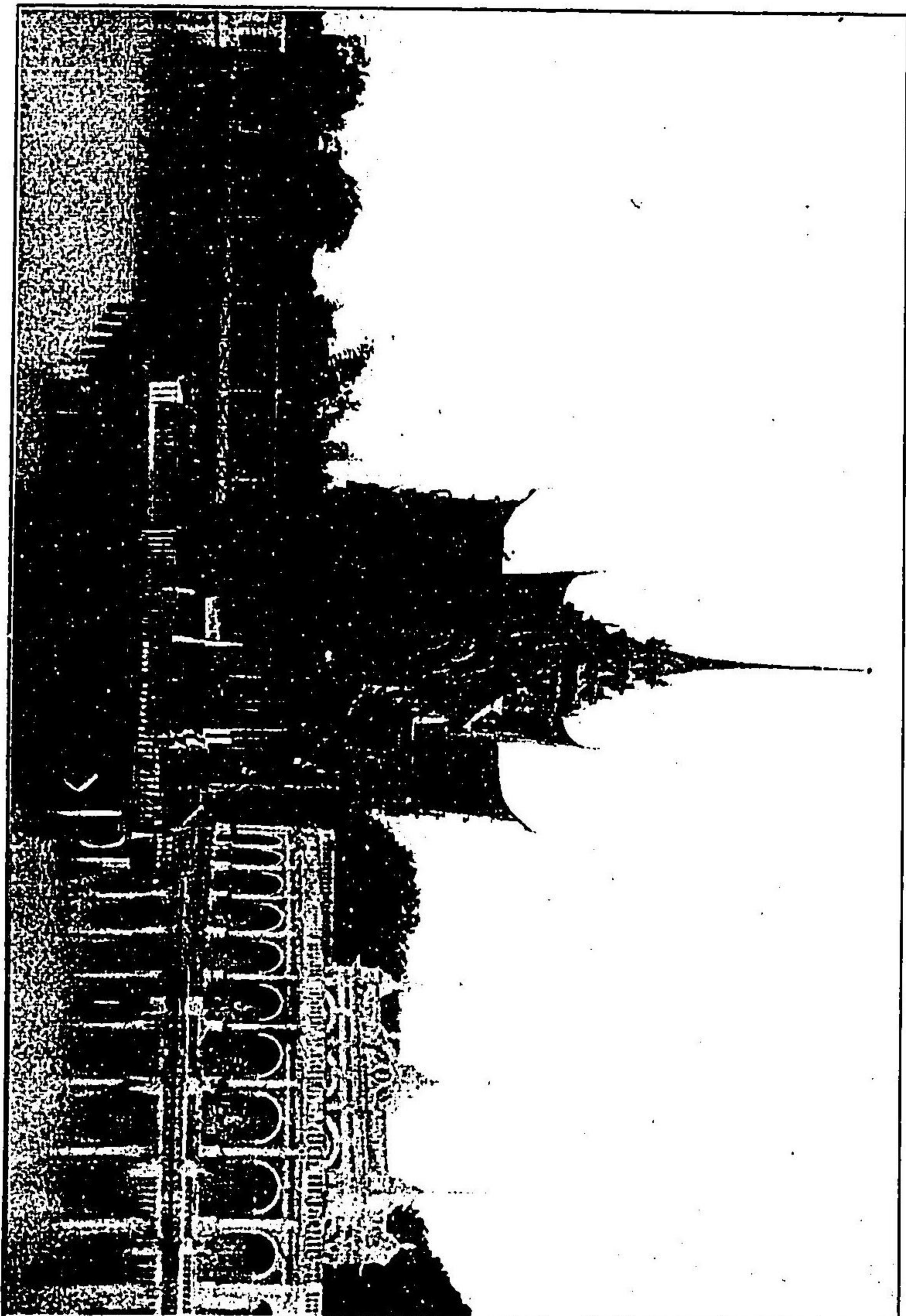
今回戴冠セララタル王国陛下下



嚴寒時節之冬宮門



玉宮之側面觀



國 王 埠 頭 (支那式建築)

暹羅王國ノ瞥見

海軍大主計 名尾 玄 乘

緒 言

暹羅紀元第百三十年暹羅國王陛下戴冠式次第書抜萃

十一月三十日(木)

午前陛下「アマリンドラ、ホール」(Amarindra Hall)ニ於テ王國八十ノ高僧ニ禮應及ヒ法衣ヲ賜フ
終ツテ波羅門教祈禱式御執行 (但賓客ヲ加ヘス)

十二月一日(金)

午前四時ヨリプラケオ寺院(Wat Phra Keo)ニ於テ戴冠式用神聖水祈禱式執行陛下御臨幸
(但白大禮服)

夜陛下光飾(Illuminations)御御覽ノ爲メ河上御舟遊

十二月二日(土)

午前九時四十分ヨリチュエーシット、マハ、プラザド宮廷 (Dusit Maha Prasad) ニ於テ戴冠式 (Coronation Ceremony) 御執行 (但白大禮服)

陛下玉體ヲ清メラレタル後出御八角玉座ニ就カセラレ順次各州献上ノ神聖水ヲ受ケサセラル

儀式終ツテ御退場王裳ヲ召サセラル

午前十時四十分ヨリ王旗御物及ヒ古代ノ王劍ヲ捧ケタル貴族ノ鹵簿編整

陛下鹵簿ヲ從ヘテプラサド宮廷ニ出御古來戴冠石 (Ancient Coronation Stone) ニ座シテ親ラ戴冠シ玉ヒ

波羅門教僧御祈禱ノ後王族ノ御祝儀ヲ受ケサセラル

終ツテ内裏ニ御退場、更ニブラケオ寺院ニ御臨幸、全國八十高僧ノ面前ニ於テ暹羅國教長バジラア

ーンナ (Vajirana) 法親王統管ノ下親カラ宗教信仰ノ擁護者タルヘシト御宣言

終ツテグランド、パレーム (Grand Palace) ニ御還幸

午後王室御一族ノ御會宴

夜陛下陸上ノ光飾御叙覽

十二月三日(日)

午後二時ヨリ陛下古代式鹵簿 (Ancient Custom Procession) ニテ市街御巡幸ノ途次バツラニブス寺院

(Wat Bavunives) ニ立寄り古佛像「ナラ、シナ、シン」(Phra Jina Sila) 御禮拜、次ニ假屋ニ於テ歐洲

各國代表者(日本人代表者ヲ含ム)ノ御祝儀ヲ受ケサセラレ更ニポー寺院 (Wat Pho) ニ於テ王朝ノ

創立者チャクリ第一世陛下ノ御神龕御禮拜

終ツテグランド、パレームニ御還幸

(但列外は白大禮服
但列員は白大禮服)

十二月四日(月)

午後三時ヨリ古代式鹵簿ヲ從ヘテ河流ヲ遡リ國王埠頭ヨリ陸上チエン寺院 (Wat Chiang) ニ御臨幸、

神龕御禮拜ノ上御還幸

午後陛下「アマリンドラ、ホール」ニ於テ大饗應ヲ賜フ (但白大禮服)

十二月五日(火)

午後三時ヨリ陛下陸軍ニ對スル新軍旗神聖ノ爲メブラケオ寺院ニ御臨幸

午後九時ヨリ王國劇場ノ祝祭興行 (但白大禮服)

十二月六日(水)

午後三時半ヨリ陛下ソン、サナム、リユーアン (Jhong Suanam Yunnan) ノ假屋ニ於テ陸軍各聯隊ニ對ス

ル軍旗親授式御執行

(但白大禮服)

十二月七日(木)

午後三時ヨリソンサナム、リユーアンニ於テ觀兵式御執行

十二月八日(金)

午後三時半ヨリ鹵簿ニテ陛下支那人及ヒ印度人代表者ノ御祝儀ヲ受ケサセラル

十二月九日(土)

各親王等各國皇族以下ノ御招待

十二月十日(日)

午後陛下隊俱樂部ニ於ケル虎兵隊ノ御招待ニ臨御 (但軍服夜衣)

(終)

第一章 歴史

現今暹羅王國 (Kingdom of Siam) ノ國民ハ他國民ト其揆ヲ一ニシ土着ノ人民ヲ追ヒテ侵略シタル北狄ノ後裔ニ屬ス而シテ其何處ヨリ來ルカハ明カナラスト雖モ祖先ノ故郷ハ西藏ノ高原ナルニ邇シ其祖先ハ初メ身ニ剗青ヲ施シタルカ如キ蠻勇ナル種族ナリト雖モ一度西藏高原ヲ去リテ支那ニ移住



址城古ノ郭外ヲチーユイア

ルヤ農業牧畜ニ從事シ多少其殘忍ナル野性ヲ和ケテ戰爭ヲ好マサル平和的人民ト爲リタルモノ、如シ「シヤン」人即チ是ナリ然ルニ一朝没入シ來レル一大流民群ニ追ハレ奴隸トシテ其順使ニ甘ンスルモノノ外皆西ニ漂泊シテ現時ノ緬甸ニ移住シ其餘波ハ終ニ北方暹羅ノ國境ヲ侵スニ至レリ是レ即チ同國最初ノ殖民者ノ名タルシヤンガ實ニ暹羅ノ語源ヲ成セル所以ナリ詳言スレハ歐洲ニ於テ該國交通ノ先鞭者タル葡萄牙人カ歸來印度ノ東方ニ於テ發見シタル國民ノ歴史ニ就テ語ル所或ハ「シヤン」ヲ以テ「シヤム」ノ如ク發音シタル結果暹羅ノ名ヲ胚胎シタルニハ非ラサルカ然リト雖モ該國民ハ此名ヲ稱セスシテ常ニ其固有ノ名タル「Thai」(自由ヲ意味ス)ヲ用ヒ國名ヲ「Mung Thai」(自由國ノ意)ト云フ予ハ此ニ暹羅國民カ數百年間其隣邦即チ柬埔寨、ベキユ、安南及緬甸人ト干戈ヲ交ヘタル長キ歴史ヲ詳論スルヲ止ム何トナレハ其歴史ハ唯一言以テ勇猛殘忍ナル族羣ノ奇譚ニ過キスト云フノ外何等ノ價值ナケレハナリ唯北方國境ニ遊牧各民群ノ酋長タル土侯散在割據シ中ニ湄南ノ上流チエンマイ(Chiangmai)盤谷トノ距離約五百哩)ニ都ヲ建テタルモノアルハ事實ナリ然ルニ日本紀元二千十年ニ至リ湄公上流西岸ノウットン土侯湄南ノ中流アイニューチャ(Anhui)盤谷ヲ距ル約五十哩)ニ都ヲ定メ勢威四方ニ及ンテ二十四ノ土侯ヲ朝貢セシムルニ至リヌ

靈元天皇ノ代ナリケンコンスタンチン、ポールコント稱スル希臘人ノ暹羅ニ往ケルヲ聞ク其印度海岸

ニ難船スルヤ同乗者タル數多暹羅ノ官吏ハ氏ヲ自國ニ招キテ王 (King) ニ謁セシメシカ資性伶俐ナル
ホールコンハ直ニ國王ノ信任ヲ得テ一躍之カ顧問ト爲リ城砦及ヒ王宮ヲ建テ繞ラスニ王宮ノ堡砦タル
タル可キ市街ヲ以テシ序テ首府ノ周圍ニ堅牢ナル城壁ヲ設ケヌ而シテ此王宮ノ古跡ハ今猶舊市アイユ
ーチアニ存スルヲ見ル斯クテ「アイユーチヤ」王朝ハ約二百年間隆盛ヲ極メタリト雖モ紀元二千二百二
十八年興隆セル緬甸軍ノ爲メニ首府ヲ占領セラル、ニ至リシカ紀元二千二百三十九年天正中本邦未曾
有ノ傑士日本人町ノ首領山田長政(駿河ノ人)ノ援助ヲ得テ敵軍ヲ破リ首府ヲ回復シテ更ニ第二王朝ノ
基礎ヲ定メヌ

爾來葡萄牙人、和蘭人、佛國宣教師等相次テ來リ國王ナライハ約一百年間打續ケル大平ノ裡大ニ泰西ノ
文物ヲ吸收シテ國威ノ宣揚ヲ計リシカ紀元二千四百二十七年強大ナル緬甸軍ノ侵襲ニ會ヒテ首府再ヒ
陷落シウトン建設ノ王朝ハ三十六代ニシテ全ク亡フルニ至リヌ

當時暹羅ニ於テ大ニ權力ヲ高メタル支那人ノ子孫フキヤ、タツクスハ緬甸軍ノ侵入ヲ防カントシテ
同志ヲ糾合シ猛烈ナル匪賊ヲ以テ組織セル軍隊ヲ派シテ之ヲ追ヒ勝ニ乘シテ四境ノ征服ニ努メ都ヲ盤
谷 (Bangkok) 爾來今日ニ至ル迄同國ノ首府タリ。ニ建テ自ラ王冠ヲ戴キタリト雖モ紀元二千四百
四十二年亂心シテ長ク王位ヲ保ツコト能ハス寺院ニ遁レテ僧侶ト爲リシカ終ニ其身ヲ護ルコト能ハス

忽チ僭輩ニ虐殺セラレテ王位ハ爲メニ奪ハレヌ

紀元二千四百四十二年光格天皇ノ朝ニ當リ東埔塞ニ大守タリシ暹羅人チャヤ、フキヤ、チャクリ歸
來國內ノ騷亂ヲ鎮定シテ自立シ王冠ヲ冒シテ以テチャクリ王朝ノ基礎ヲ定メヌ是レ即チ先王ノ祖先ナ
リ先王ハチャクリ王統第五世ニシテ其諱名及尊號ハヒズ、マゼスチー、フラバ、ソムデツチ、フラ、バラ
ミンドル、マハ、チユーラロンコーン、フラ、チユーラ、チヨム、クラヲ、チャヤ、ユー、フユーアナリ其
即位ハ滿十七歳以前ニシテ本邦ノ明治元年ニ屬ス當時健康ハ甚タ羸弱ナリシモ戴冠當日ニ於テ降雨
潤澤ナリシカハ臣民舉テ其天惠ヲ祝福セリ(熱帶諸國ニ在リテハサモアリナン思想ノ轉倒定ニ奇ナリ
ト謂フ可シ)是レ即チ國王在位ノ長キ吉兆ナルカ故ナリト宜ナル哉本年其薨去ニ至ル迄在位既ニ三十
二年ノ久シキ暹羅國ヲ圍繞セル英佛二列強(英ハ南馬來北緬甸ヨリ佛ハ東東埔塞、湄公上流ヨリ)ノ
鋒鏖ニ憚ミナカラ幼稚ナル國防ヲ以テ力克ク二十一萬五千方哩ノ廣袤ヲ保全シ四境洋西ノ羈絆ニ苦シ
ミ唇衰ヘテ齒酷々寒キ東洋ノ裡猶天南ニ唯一獨立國ノ體而ヲ保持シタリシコトヤ而シテ隆昌ナル國運
ノ下光榮アル前途ヲ負フテ戴冠セラレタル第六世バジラブード (Vajiravudh) 國王陛下ハ玉齒三十一維
時チャクリ王朝第三百三十年十二月二日ナリ

第二章 國勢

暹羅王國ハ北緯四度三十五分ヨリ同二十度十五分ニ至リ東經九十七度ヨリ同百度ノ間ニ跨ル國境ハ西南山脈河川ヲ以テ英領ニ接シ北東平地ヲ以テ佛領ニ隣ス西メクロン (Mekong) 中央湄南 (Menam) ノ大河流通シテ灌溉ニ利ス

氣候ハ熱帶圏内ナルカ故ニ一年中唯乾燥期ト雨季 (Wet season) ノニアルノミ雨季ハ西南「ムンスーン」 (South west monsoon) ノ季節ニシテ五月ヨリ十月ニ至リ乾燥期ハ北東「ムンスーン」 (North east monsoon) ノ季節ニシテ十一月ヨリ四月ニ至ル乾燥期ハ氣候最モ爽快ニシテ四月ニ於テ温度最モ高シ今盤谷ニ於ケル氣象統計ヲ見レハ一年ノ平均温度華氏八十二度九、最高温度九十七度二、最低温度六十九度三、雨量五十一吋一ナリ宜ナル哉戴冠式ノ時期トシテ十二月ヲ撰ヒシコトヤ本艦ノ海圖室ニ於ケル最高温度華氏八十九度 (艦長室最高温度ハ華氏九十五度) ナリシカ如キ本年ハ例年ニ比シテ温度頗ル高カリシトカ

元來暹羅ニハ戶籍ナク現今漸ク調査中ニ屬シ未タ全州ノ調査ヲ終ヘサルカ故ニ確實ナル數ヲ知ルコト能ハスト雖全人口ハ六百萬内外ニシテ一方哩ニ對スル平均ハ僅ニ三十人強ニ過キサカ如シ (本邦ハ一方哩二百四十六人) 而シテ全人口ノ三分ノ一ハ支那人他三分ノ一ハ馬來東埔塞安南及ヒ緬甸人等ニシテ暹羅人ハ僅ニ三分ノ一ニ過キス然モ熱帶地方一般ノ趨勢ニ伴ヒテ早熟速衰シ從テ人口減少ノ傾向アルハ一方炎熱ノ天然力ニ壓伏セラレテ日中活動ノ元氣ヲ失ヒ他方自然ノ富ハ衣食住ノ活計ニ憂ナク彼等ヲシテ懶惰ナラシムルカ故ニ益體格ノ脆弱ヲ來シ安逸ナル生活ノ結果ハ終ニ彼等ヲシテ短命ナラシムルニ由ルモノ日中ハ午睡ニ費シ日没ノ冷涼ヲ追フテ遊樂ニ耽リ中宵ニ至ルマテ寢ニ就カス從テ起床遅ク業務ニ從事スルハ僅ニ午前中ノ一二時間ニ過キスシテ睡生夢死其吞氣ナル到底想像ス可ラサルナリ然モ天然ノ炎威ハ終ニ我同胞ノ在留民ヲモ壓倒シテ何時シカ暹羅化セシムルヲ如何セン去レハニヤ在留邦人間ニモ暹羅式ナル語ノ流行ヲ聞ク之レ暹羅國上下一般ノ狀態ニシテ常ニ新來邦人ノ切齒扼腕スル所遮莫劇場若クハ活動寫眞等ノ開場ハ多ク夜ノ九時ニシテ又戴冠ニ關スルレセブシヨノ多クハ夜陰ヨリ始マルカ如キ晝夜轉倒ノ弊風ハ實ニ已ム可カラサル天然的要求ニ從フモノ熱帶地ニ於ケル國民ノ慣習ト衛生法ノ改良モ亦難イ哉

第三章 王室

先王屢々歐洲ニ遊ヒ專ラ泰西ノ文物ヲ採リテ施政教育ノ改善ヲ計リ銳意綱紀ヲ張リテ國力ノ充實ニ努

メラレシカハ國歩ノ進展大ニ觀ル可キモノアリシカ不幸天其壽ヲ與ヘ賜ハス今春崩御セラレ、ニ及ンテ此ニ現王陛下ノ即位ヲ見ルニ至レリ

元來暹羅ニハ憲法ナク亦王室典範ナキカ故ニ王位ノ繼承ハ一ニ皇太子ヲ冊立スヘキ王族會議ノ議決ニリテ定マルモノ現國王陛下バジラブード親王ハ聖壽三十一歳資性穎聰ニ渡ラセ玉ヒ夙ニ英國ニ遊ヒテ留學中十五歳ノ時皇太子ニ冊立セラレ玉ヒ士官學校、射擊學校ニ入り或ハ「オックスフォード」大學ニ歴史ヲ修メ廣ク東西ノ列強ヲ歴訪シテ歸朝セラレ玉ヒシハ數年前ノ事ニ屬ス暹羅國ノ前途ヤ光榮アリト謂フヘシ

暹羅ハ一夫多妻ニシテ支那ト同シク後宮ニ數多ノ妃アリ而シテ第一順位即チ皇太子ノ生母ニ當タラセラル、ヲ皇后(Queen)陛下ト稱ス現母后(Queen mother)陛下ハ即チ先王ノ異母妹ニシテ第五順位ノ妃ニ渡ラセ玉ヒシカト現王陛下ノ皇太子トシテ冊立セラレ玉ヒシヨリ一躍第一順位ニ登リテ皇后陛下ノ光榮ヲ擔ヒ現ニ母后トシテ一國ノ尊崇ヲ集メ玉フコト何ソ幸福ナルヤ何トナレハ皇太子ノ生母ヲ以テ皇后ト稱スルハ王室不文ノ典範ナレハナリ

暹羅ノ王族ハ二種ニ分タル即チ國王ノ兄弟及ヒ子ヲ第一王族ト稱シ他ヲ第二王族ト稱シ第二王族ハ五代ノ後貴族籍ニ入ルヲ慣習法則トス然モ王配頗ル多キカ故ニ國生亦從テ茂リ現王陛下ノ兄弟ハ實ニ四名ノ多キニ達セラレ、トカヤ而シテ唯皇太子ハ實ニ現王陛下ノ同母弟ニシテ勢威赫々現ニ陸軍參謀總長トシテ陸軍ノ實權ヲ掌握セラレ、陸軍少將ビスヌローク(Bisnuloke)親王ニ在ラセ玉フ然モ唯皇太子ノ意義タルヤ推定皇太子ト云フヘク前後何等ノ故障ナケレハ王位ヲ繼承ス可キ順位ニ在ル皇太子ト推定スルノ意味ニ外ナラサルカ故ニ若シ王族會議ニ於テ他ニ皇太子ヲ冊立スルカ如キコトアラハ王位繼承ノ資格ナキニ至ルヤ明カナリ

暹羅ニハ憲法ナク亦王室典範ナシ而シテ堂々六百五十萬銖(Trial)一銖ハ邦貨約七十四錢)ノ歳費ヲ要スル王室ノ血脈關係ヤ斯クノ如ク王位繼承ト皇后ノ地位ヤ此ノ如シ、サレハ王國統治ノ基本法トシテ憲法ヲ制定シ王室ノ根本法トシテ典範ヲ制定スルコト暹羅國現下ノ最大急務ナルヲ認ムルニ憚ラサルナリ

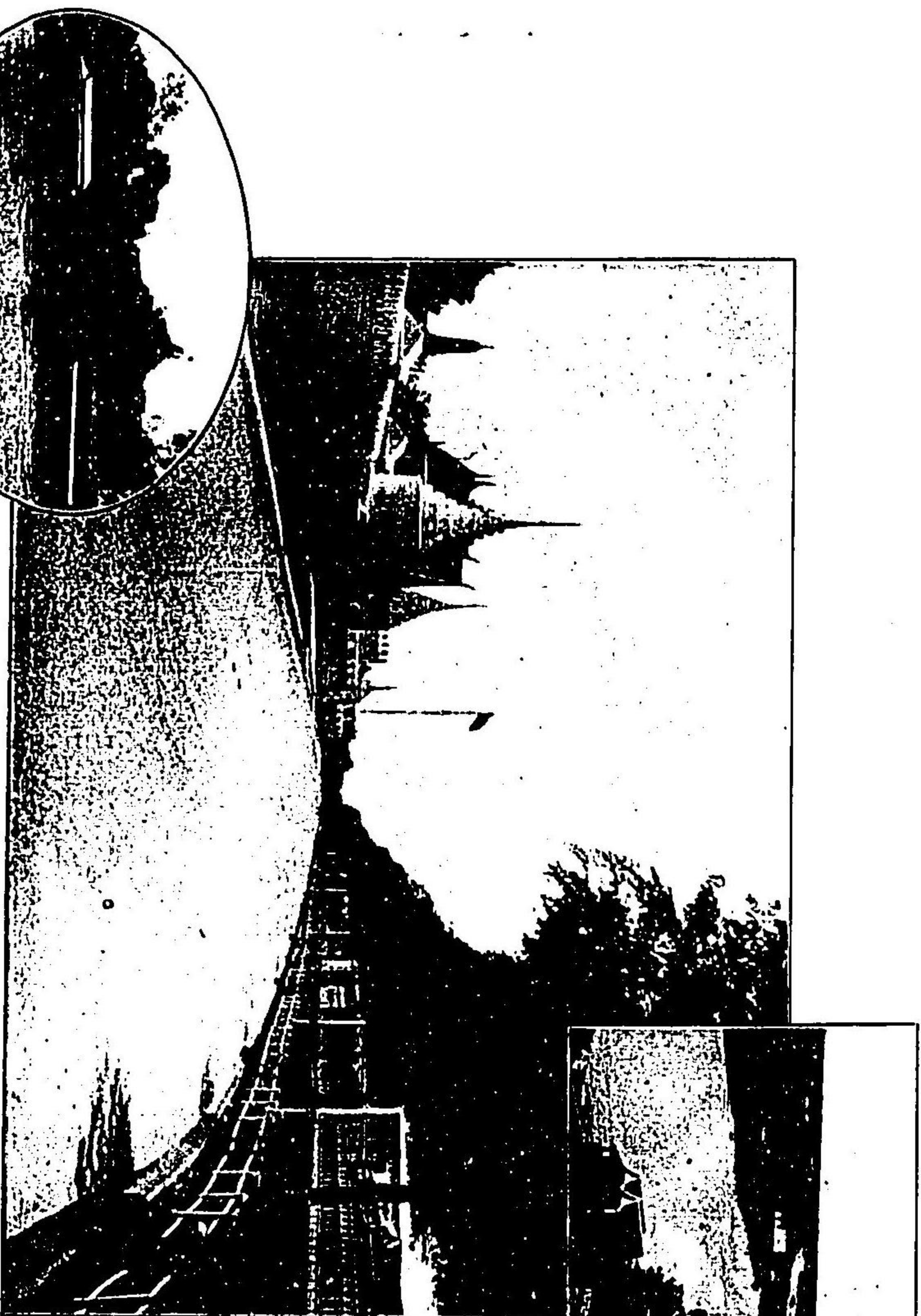
第四章 盤谷

人口五十萬ノ都會タル暹羅現在ノ首府盤谷ハ河流多キノ故ヲ以テ東洋ヅエニスノ名アリ全市幾條ノ運河貫通シ或ハ原野及ヒ園圃ニ産スル米穀果物等ヲ運搬スヘキ大船舟ノ往來頻繁ナル大廣渠アリ或ハ風雅ナル「コ、ナット、バルム」ノ廣大ナル葉ガ遅緩ナル水上ニ陸ヲ浸シ或ハ綠色ノ鸚鵡カ綠樹ノ間

ヨリ人ヲ呼ヒ或ハ醜惡ナル黒色ノ鰐魚カ泥土ノ中ニ横臥セル細流アリ
 河流ヲ以テ唯一ノ通路ト爲スカ故ニ河ニ面スル建築兩岸ニ連ナルヲ觀ル又河岸ニ沿フテ人民ノ居住ス
 ル長大ナル浮漂家屋アリ各戸皆竹束ノ筏上ニ浮フ若シ此竹束腐朽セハ何等筏上ニ累ヲ及スコトナクシ
 テ順次之レヲ置換フルコトヲ得而シテ筏ハ水中ノ杭ニ繋留セラル、カ故ニ家屋ハ潮汐ノ干満ニ隨ヒテ
 上下ス可シ家屋ノ前面ニハ昇降所即チ廊下ヲ設ク或ハ貨物店ヲ其上ニ張り或ハ洋櫛ヲ以テ水ヲ掬ミ之
 ヲ頭上ヨリ注キテ此處ニ沐浴ス

是等浮漂家屋ノ主人移轉セント欲スル時ハ何等家具運搬車若クハ荷車ヲ要セスシテ唯簡單ニ且同時ニ
 家屋家具及家族ノ全部ヲ移ス若シ相當裕福ナル時ハ小蒸汽ヲ借リテ河又ハ運河ヲ上下ス時ニ或ハ晝ケ
 ルノアノ大船ノ如キ家屋ヲ曳航シ其昇降所ノ上ニ兒童ノ歡樂嬉娛スルヲ見ルコト屢ミナリ之ニ反シ家
 貧ニシテ小蒸汽ヲ借ルコト能ハサル時ハ他ノ加勢ヲ得杓子形ノ大槳ヲ以テ之ヲ移轉ス

水上生活者ノ中或ハ浮漂家屋ニ住ムコトナク單ニ小舟内ニ生活シ隨時其欲スル所ノ市場及職業地ニ歷
 遊ス而シテ一生ヲ舟上ニ送ルモノ多ク此處ニ生レ此處ニ成長シ此所ニ放任的教育ヲ受ケ此所ニ結婚シ
 死ニ至ル迄管テ水ヲ去ラス斯クテ歸ラス長キ人生ノ旅行ヲ水上ニ爲スヲ見ル船内多クノ艙室ナシト雖
 モ其境遇ニ満足セルモノ、如シ事實遊羅人ハ時ト處トヲ問ハス常ニ幸福ニ満足セリ即チ彼等ハ地球上



浮漂家ノ岸河用運

(地位) 在八國團 皇光ノ近附宮王



運河ヲ埃メタル盤谷市街ノ眺望

最モ愉快ニ歡樂スル國民ナルヲ認ム

水上生活者ハ完全ニ獨立シ未タ嘗テ陸上生活者ノ援助ヲ求ムルコトナシサレハ浮漂家屋ノミナラスシテ浮漂料理店、浮漂劇場及ヒ浮漂監獄ニ至ル迄萬般ノ設備ヲ有ス其他首府ノ中央ヲ貫流スル大河沿南ノ中心ニハ自己ノ市場ヲ設ク其開場時間ハ熱帶地ノコト、テ午前零時ヨリ朝七八時迄トシ賣買品ノ主タルモノヲ魚類、玉子、米及ヒ果物トス其賣買者ハ多ク婦人ナリ是レ婦人ハ男子ニ比シテ伶俐ニ且強力ナルニ因ル夜間ハ船首ニ小燈ヲ備フ其鈍キ黄色ノ光線カ河流ノ光澤アル水面ヲ照スノ所瞥見スヘキハ商品ヲ賣ルニ忙ハシキ喋々快活ノ婦人ニシテ其狀恰カモ行樂ニ從フ愉快ナル兒童ノ集團ニ似タリ太陽東天ニ登ルヤ彼等ハ忽チ家ニ歸リ小舟及婦人ノ群團ヲ集中シタリシ河心又何等ノ片影ヲ留メサルニ至ル

人若シ河中ニ墜落スト雖モ何等不安ナシ是レ暹羅人ニシテ泳クコト能ハサルモノ一人モナキカ故ナリ兒童幼少ナレハ母其兒童ノ腕ニ縛スルニ大ナル浮漂ヲ以テシ頓テハ之ヲ水中ニ投ス何トナレハ兒童カ河流ノ溫暖ナル水上ニ浮ヒテ唸喘游泳スルハ恰モ生氣アル鶯色「コルク」ノ木片同様ナレハナリ特ニ首府ニ於テハ多數ノ陸上生活者アルハ勿論ナリ之レハ後章ニ於テ述フル所アルヘシト雖モ首府ノ陸上部分ハ王宮及寺院等ノ建築物以外何等注意スヘキモノナク唯煉瓦建築ノ新屋及ヒ其街道ハ醜惡ニ

シテ木造ノ古屋及ヒ其市街ハ甚シク惡臭ヲ感スト謂フ可キノミ
數年前王宮ヨリ埠頭ニ至ル馬車鐵道アリシカ一朝歐羅巴ノ技師ヲ聘シテ電車鐵道ト爲スヤ土人ノ驚キ
一方ナラサリシハ察スルニ餘アリ彼等ハ電車ノ走ルヲ目撃シタリト雖モ之ヲ曳キ若クハ推ス人馬ナキ
理由ヲ解スルコト能ハス結局鬼神ノ力ニ依ルモノナリト斷定シ地ニ膝キテ軋聲轟々タル鬼神ヲ敬拜シ
敢テ一人ノ乗車ヲ企圖スルモノナカリシカ國王及ヒ皇后ノ臨幸セラレタル先例ニ安ンシテ乗車スルニ
至リ現時首府各主要道路ニ敷設セラレタル電路ニ依リテ各方面ニ數千人ヲ運搬セリ市中暹羅固有ノ車
ナク又首府ヲ出ツレハ殆ント道路ナシ人民ハ只水運ニ依リテ交通スルノミ、サレハ真正ノ暹羅ハ盤谷
府ニ過キスト謂フノ至當ナルヲ觀ル斯クテ交通機關ノ缺乏ハ中央ト地方トノ連絡ヲ杜絶ス當初盤谷ニ
道路出來シ運搬車ノ必要生シタリシカハ暹羅人ハ日本ヨリ人力車ヲ輸入シ支那人多ク之ヲ曳キ賃金
半「ベンス」ニテ能ク遠方迄行クコトヲ得又印度ヨリ輸入セルハ馬車 (Horse) ニシテ馬來人若クハ
暹羅人馭者ト爲リ赤色ノ「フエズ」帽ヲ戴キ白色ノ「リンネル」服ヲ着ス降雨ノ際ハ之ヲ雷サ、ラン
カ爲メ之ヲ脱キテ「シート」ノ下ニ藏シ雨止メハ直ニ馬車ヲ止メテ再ヒ之ヲ着用ス馬具ハ綱ヲ以テ作
レルモノ多キカ故ニ往々ニシテ切レルコトアリ此場合ニ於テハ馭者カ走リテ近傍ノ商店ヨリ絲ヲ求メ
之ヲ修繕スル間待タサル可ラス

サレハ此交通機關ノ缺陷ヲ補ハンカ爲メ近來頻リニ鐵道ノ敷設ニ努メテ地方トノ關係ヲ密接ナラシメ
ント計ルニ至リヌ今盤谷ヲ中心トスル鐵道ノ各線ヲ一覽スレハ左ノ如シ

- 一、東北官線 (コーラットニ至ル、將來國境ノンカイニ達セシムル計畫)
- 二、北方官線 (ノンウイワードヨリ分レテメボークニ至ル、又バンダラヨリ分レテ西方ニ向フ支線
アリサンカローク迄延長二十九料)
- 三、フラーバート私設輕便線 (北方線タルアヨリ岐ル)
- 四、東方官線 (ベトリユニ至ル)
- 五、南方私線 (河口バクナムニ至ル)
- 六、西南私線 (メクロンニ至ル)
- 七、西南官線 (ベチャブリーニ至ル)

以上列記シタルカ如ク四官線三私線アル等一見鐵道ノ發達ヲ想像ス可シト雖モ概シテ軌幅狹ク規模小
ニシテ鐵道線ノ延長亦充分ナラス近年之カ擴張ニ努メ第四官線ノ如キハ將來コーシチャン (Causichi-
三) 島ノ對岸バンブラ及ヒシラチャニ延長シコーシチャンニ揚陸セル船舶貨物ノ盤谷輸送ヲ計リ他方
シラチャノ避暑地ニ對スル交通ヲ便ナラシメント計畫シ殊ニ第二北方官線 (延長五百二十七料) ノ如

キハ將來國境チエンセンニ達セシムル計畫アリ北方鐵道ニ對シ本年度公債ニ依ル特別會計歲出豫算額百三十一萬五千銖ヲ計上シ第七西南官線(延長百五十一杆)ニアリテモ國防上ノ必要ヨリ將來馬來半島ヲ縱貫シテ比南ニ達セシムル計畫ナルカ英國ノ抱懷セル希望トノ投合ニヤ資金必要ノ場合ニ於テハ何時ニテモ英領馬來聯邦政府ニ對シテ無利子ノ出資ヲ要求シ得ヘキ契約ヲ締結シ大ニ之カ完成ニ努メツ、アルハ事實ナリ本年度公債ニ依ル特別會計歲出豫算額ハ六百四十九萬一千四百三十九銖之ヲ要スルニ暹羅國交通ノ不便ハ行政上中央集權ノ不如意ヲ來シ經濟上所在產業ノ不振ト爲リ通商上貨物ノ滯滞ヲ來シ國防上邊疆ニ對スル權力ノ薄弱ヲ胚胎スル等一國ノ不利甚シキカ故ニ道路ノ外鐵道ノ敷設ヲ以テ暹羅國運ノ伸張ニ對スル唯一ノ緊急要策ナルヲ認ム而シテ政府ノ外人傭聘官吏中英人ノ勢力大ナルニモ拘ラス四年間先王カ歐洲漫遊ノ際獨帝トノ口約ニ基キ近來工部省ノ管理事業タル鐵道、郵便(本邦紀元二千五百四十五年萬國郵便聯合條約ニ加入ス、局數二百餘)電信(全長三千哩局數七十海外ニ通スル東北方ノ三線)電話(府中ノミ)等ニ關スル官吏ハ概ネ獨逸人ニシテ工業ハ殆ント獨逸占有ノ形勢ナレハ鐵道、電信等ノ諸材料ノ如キ多クハ獨逸ノ輸入品ニ屬ス、サレハ獨逸人ノ經營ニ係ル北方線ノ完成モ亦期スヘク徒ニ英佛カ政治方面ニ對スル空權ノ樹立ヲ圖ルニ反シテ海ニ陸ニ商工業上ノ權利ヲ收メントスル獨逸ノ實質的政策ハ實ニ注意ス可キ一大要點ナリ

第五章 湄 南

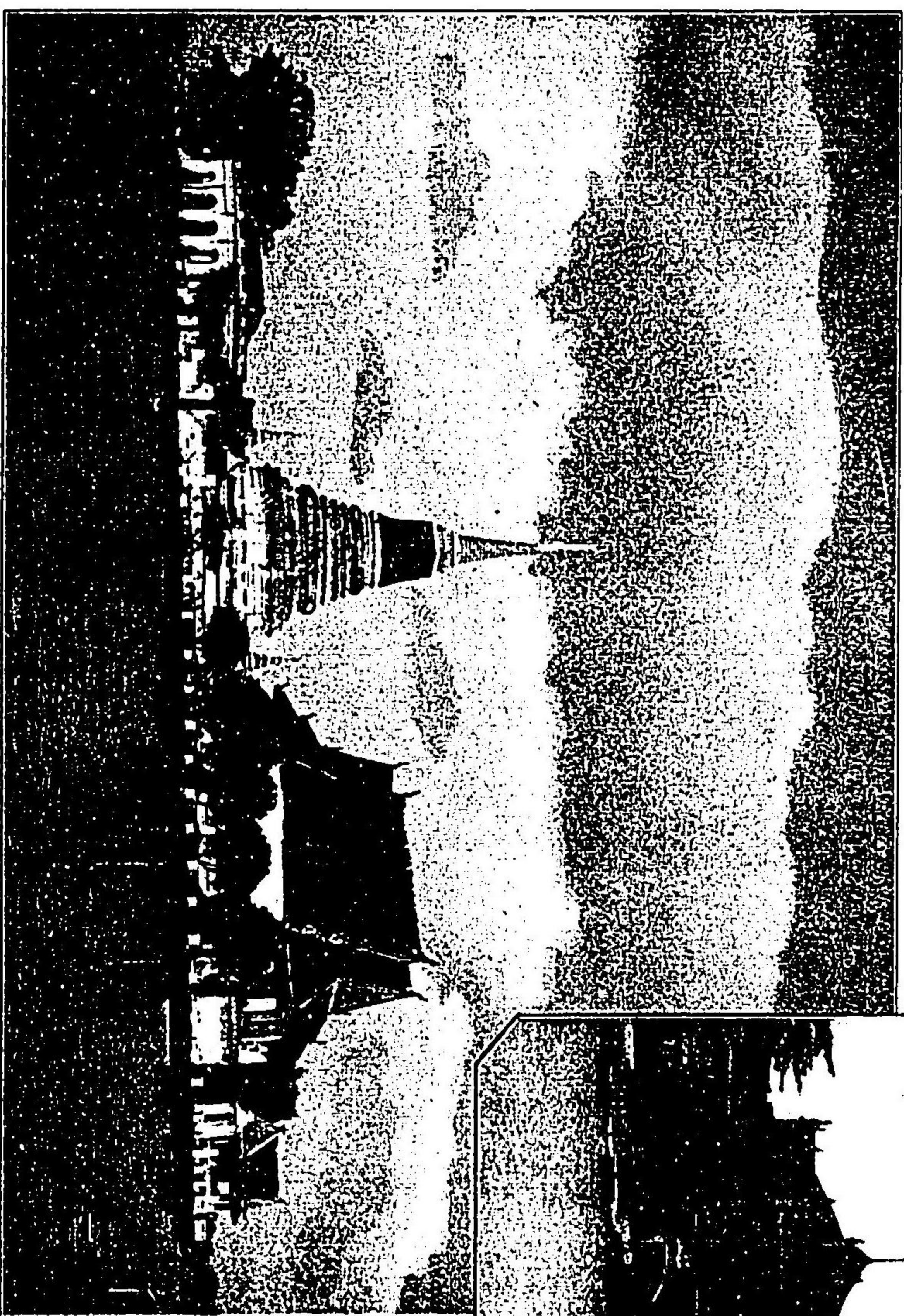
暹羅第一ノ河ヲ湄南(Meuam)ト稱ス其實名ハメナンチャラ、フキヤナリ抑々 Meuam、ma、nanノ二語ヨリ成ル ma、ハ母 nam、ハ水ニシテ即チ河川ノ母ナル意ナリ去レハ「メナン」ハ國內全川ノ稱ニシテ我河流ト同意義ナリ而シテ湄南ハ單ニ河川ノ母ナルノミナラス又陸地ノ母ナリ何トナレハ暹羅ノ下方ハ此ノ河川ノ三角洲ヨリ成レル一大平地ナレハナリ湄南河ノ全長實ニ九百哩河口ヨリ二十五哩ハ吃水十三呎ノ船舶ヲ遡航セシムルヲ得ヘク本艦(淀)ノ碇泊セシハ盤谷ノ中樞東亞正金銀行(Bank of Siam Co. Ltd.)ノ前面ニシテ軍港ヨリ稍下方ニ屬ス河幅平均二百米然モ流水ノ湍濁甚シク本邦ニ於ケル雨後ノ河水ノ如ク到底雜用水ニモ適セス又大陸平野ノコトトテ朝夕潮ノ干満ニ伴フ流水ノ強速ナル到底安全ナル錨地ヲ見出ス能ハサルナリ遮莫時ノ平戰ニ差異コソアレ彼ノ湄公上流ノ領域問題ヨリシテ干戈ヲ交ヘ三隻ノ砲艦ヲ遡航セシメテ盤谷府ヲ威嚇シタル結果暹國上下永遠ノ怨恨ヲ買ヒタル佛國以外、外國ノ軍艦ニシテ此湄南ヲ遡航シタルハ實ニ淀ヲ以テ嚆矢トスト聞ク盤谷ニ在ル小蒸氣船ノ數ハ約二百艘小舟ノ水路通行統計ニ依レハ一日平均七百艘ナリ

人若シ舟筏ヲ備ヒ帆ヲ揚ケテ盤谷ヨリ湄南ノ河口ニ下ランカ一直線ノ距離僅ニ二十哩ヲ越ヘスト雖モ

蜿蜒セル河流ハ猶三時間ヲ要ス可シ然リト雖モ其間視ルヘキモノ多キカ故ニ時ノ移ルヲ知ラサルナリ

河内到處ニ同型同大ノ船舟在リ支那人ノ所有ニ屬シ皆其船首ニ眼ヲ畫ケリ支那人曰ク舟ト雖モ眼ヲ有セサレハ見ルコトヲ得サルニ非スヤト暹羅人ニ屬スルモノハ多クハ空舟ウツボネ若クハ長狹ノ「ルア、チャンヂス」船ナリ其ノ船材ハ産出夥シク從テ價格廉ニ然モ所謂白蟻ニ侵サル、コトナキ「チーク」ナリ空舟ハ漕キ易ク轉覆亦容易ナリ「ルア、チャンヂス」ハ比較的大ニシテ多ク乗用ニ供セラレ彼ノ乗合馬車ニ相似タリ腰部以外總テ裸體ナル船員之カ運轉ニ從事シ唯舷上ニ樹テル棒ノ上端ニ固定セル一本ノ橈ヲ操リ悠々タル長漕ト同時ニ舵ヲ取リテ船ヲ進マシム旅客ハ太陽ノ威壓ヲ遁レンカ爲メ紙傘ノ下ニ蹲踞シ輝キ渡ル水面ヨリ反射セル烈シキ光線ヲ避ケンカ爲メ綠色眼鏡ノ裡ニ瞬クヲ觀ル

首府漸ク遠サカリテ遙カ左後方ニ見ユルノ時人家漸ク減シテ右岸ニ樹木ヲ迎フ河口ニ近ケハ高潮時ニ於テ海水ニ没サル、沼澤ハ左右ニ在リ兩岸ニハ泥土ニ繁茂スル羊齒類ノ「アッタツブ、バルム」カ大ニ彎曲シテ其長葉ノ一端ヲ汚水ニ没スアリ後方堅地ニハ巍然トシテ「コ、ナット」及ヒ「アレカ、ナット、バルム」ノ聳ユルヲ見ル東洋ノ諺ニ曰ハク「アレカ、ナット、バルム」ハ人聲ノ音響ヲ離レテハ繁茂スルコトヲ得スト「コ、ナット」カ暹羅人ノ聲ヲ好ムヤ否ヤハ斷言スルコト能ハスト雖モ種々ノ用



此處ハ河口ヨリ二十里ノ河上ニテ本艇ハ此處ニ碇泊シ此後橋ヨリ陸上トシテ交相ヲ取リテ左ニ見ユルハ「ナリエンタル、ホタル」ナリ

「ナリエンタル」ハ河口ニ碇泊スル船

具ヲ得ル上ニ於テ暹羅人カ「コ、ナット、バルム」ヲ愛スルハ明ナリ人若「シコ、ナット」ヲ得ント欲スレハ直ニ樹ニ攀チテ之ヲ探ルコトヲ得ヘシ其所有者ハ之レヲ怒ラサルノミカ縱令其所有主ニ就テ「コ、ナット」採取用ノ小刀貸與ヲ乞フコトアリト雖モ何等驚ケル顔色モナシ其熟スルヤ纖維ハ「コ、ナット」莖等ヲ製造スル所ノ茶褐色ニ變シテ核ハ胡桃ト化ス

噸テ達スルハ河口ニシテ此處ニ流水ノ海ニ合スルヲ觀ル其流水ハ砂泥ノ幾噸ヲ運ヒ來ルト雖モ海ハ水ニ向テ「之ハハヤ遠方御苦勞様、イヤモー此處マテ、澤山テス」ト挨拶スルニ似タリ

斯クテ泥土ハ此所ニ沈澱堆積シテ終ニ河口ヲ封鎖スル門洲(Bay)ヲ造リヌ而シテ低潮時ニ於ケル門洲上ノ水深僅ニ三呎ニ過キス高潮時ニ於テモ猶十五呎ヲ越ヘサルナリ、サレハ大船船南ニ入ルヲ許サスト雖モ猶舢舨ノ媒介ニ依リテ貨物ノ搭載揚陸ニ支障ナシ聞ク約五十年前暹羅カ東埔塞ト戰フヤ敵艦ノ首府ニ襲來センコトヲ恐レ四大船ニ石ヲ積ミテ共ニ此河口ニ沈メタリト船ハ噸テ朽チタリト雖モ石ハ泥土ノ混合作用ニ依リテ堅キ岩石ヲ成シ今ヤ「ダイナマイト」ノ力ヲ借ラサレハ到底此障害物ヲ撤去ス可ラサルニ至レリト云フ

湄南河上ニ現ハレタル最初ノ汽船ハ國王ノ熱望ニ依リテ遠ク英國ヨリ輸入シタル英人所有ノモノナリ然モ國王ト英人トノ間價額ノ交渉成ラスシテ更ニ送還セラレタリ然ルニ翌年ニ至リテ國王ノ令弟ハ

其敏捷ナル技術ト英人ノ汽船ナシト雖モ些ノ痛痒ヲ感セサルコトヲ示サンカ爲メ何等歐人ノカヲ借ラ
 スシテ汽船ヲ建造シタリ此ノ新造船ハ長サ四十二呎ニシテ汽船ノ如キ煙突ヲ設ケタリト雖モ其欺罔ナ
 ルハ燃燒機關若クハ汽罐ナキニ依リテ明白ナリ、然ルニ外輪ヲ設ケタル船舟見ハレ暹羅國民ハ縱令一
 ノ進運ニ驅ラレタル結果二千五百十五年暹羅人ハ終ニ汽船ヲ造リ又然モ其機關ハニューヨークヨリ輸
 入シタルモノニシテ其進水ニ當リテハ盛大ナル式典ヲ設ケ船首ニハ王冠及ヒ國王ノ紙傘ヲ飾リ甲板上
 特ニ玉座ヲ設ケ外輪ヲ飾ルニ黄金ヲ以テシ大橋ニ王旗ヲ懸シタリ乃チ之カ建造者ヲ船長ニ充テ喜悅ノ
 餘更ニ三隻ノ汽船ヲ建造センコトヲ命シヌ而シテ其一艘ニハ砲門ヲ備ヘ海賊船トシテ使用セラレタリ
 トカ

河口バクナム(Paknam)ニ於テ人目ヲ聳カス可キハ河心ノ堂塔(アイランド、バゴダ)トシテ其名高
 キ莊嚴無比ナル五重ノ塔ナリ塔ハ小島上ニ建立セラレ築材ハ清酒ナル石及ヒ瓦ニシテ周圍ニハ其境内
 ヲ成セル殿堂アリ河幅最モ廣クシテ千二百米内外ト覺シク毎歲此處ニ端艇競漕ノ施行ヲ見ル
 由來都會ノ河流ニ沿ツテ發達スルハ是レ交通ノ利便ニ基クモノナル可シト雖今猶道路ナクシテ陸上交
 通ノ不便ナル暹羅國ニ於テハ殊ニ其然ルヲ見ル、サレハ全國ニ流通スル此湖南ノ本支流ニ沿ツテ幾



(スニ横ス必ハニク抱チ子兒ハテニ羅暹) 兒愛ト母

百千ノ村落アルハ地圖ノ明示スル所古代ノ都タルチエンマイ(盤谷ヨリ舟行三十六日)然リ、中古ノ都タルアイユーチヤ然リ現時ノ首府タル盤谷亦然リ而シテ斯ク都ノ移轉ガ漸次河口ニ近ツケルヲ觀レハ文明ト海外交通トノ關係ニ於テ深キ理由ノ存在ヲ認ムルニ難カラサルナリ然モ海上ノ交通ハ獨逸ノ勢力範圍ニ屬シ統計表ノ示ス所ニ依レハ全噸數ノ二分ノ一強ヲ有ス我カ日本郵船會社ノ敗レタル敵ハ即チ獨逸ノロイド會社ニシテ佛國郵船會社亦之レニ敗レ今ハ獨逸獨占ノ姿ナルカ如キハ豈ニ一考ノ値ナシトセンヤ

第六章 兒童

暹羅ノ兒童ハ可憐ニシテ言行共ニ爭鬪ヲ避ケ談笑嬉娛毫モ我儘ノ風ナシ新シキ自轉車若クハ時計ヲ有スル兒童ハ之ヲ朋友ニ貸與スルニ吝ナラス快ク之ヲ貸與シ他人ノ喜フ有様ヲ見テ自ラ満足スルモノ、如シ其ノ丈ナス黒髮ト茶褐色ノ顔貌ヲ有スル兒童ヲ一見スレハ吾人ノ眼ニハ寧ロ奇妙ニ見ユルト雖モ時ノ經過ニ從ヒテ見慣レナハ彼等ノ身體ニ備ハレル可憐ノ特美ヲ認ムルニ至ルヘシ而シテ其人種ハ「モンゴリヤ」ニ屬ス其顔色ハ黄色ノ素質カ茶褐色ニ變シタルモノ其形ハ寧ロ扁平ニ顴骨著シク高ク鼻小ニシテ毛髮ハ長直ニシテ眞黒、眼目細クシテ下カリ眼光炯々タリ

生レテ約一箇月ノ後髮ヲ剃リ頓テ命名ス而シテ最初總テノ嬰兒ニ命スル男女通有ノ名ハダングニシテ赤色ノ義ナリ然レトモ其最良ノ名ハ黄色ナル可シ何トナレハ肝臟病ニ罹リタルカ如ク全身黄色姫ヲ以テ塗ラル、カ故ナリ此藥劑ハ蚊刺ヲ防クノ目的ナル可ク犬猫皆然ラサルナシ而シテ其名ハ吉凶禍福ニ依リテ改ムルト謂フ弱年ヨリ喫烟ヲ始メ烟草入若クハ卷烟草入ヲ携ヘ通學ノ途次盛ニ之ヲ吹カシ登校上猶殘餘アレハ其尖端ノ火ヲ攘ツテ之ヲ耳ニ挿ム授業終ルヤ歸途又之ヲ吹ス恰カモ小煙突ノ煙ヲ吐クニ似タリ

兒童ハ朝起ルモ洗面所ニ行クコトナシ何トナレハ洗面所ノ設備ナキカ故ナリ、サレハ屋外ニ出テ「コ、ナツト」ノ柄杓ニ依リテ流水ヲ汲ミ顔ヲ洗フ又炎熱能ク體ノ水濕ヲ蒸發セシムルカ故ニ曾テ「タオ」ノ必要ナシ彼等ハ又齒ノ黒キヲ貴フカ如シ骨テ齒磨揚子ヲ用フルコトナク又頭頂豚尾ヲ除クノ外全部剃髮セルカ故ニ之ヲ梳ルコトナシ

朝餐終レハ男兒ハ屋外ニ遊ヒ女兒ハ留守居シナカラ家ニ遊フ女兒ノ遊戲ハ所謂「飯事」ニシテ大ニ本邦ト其俗ヲ同フス而シテ勝敗ヲ爭フ兒童ノ遊戲甚タ多シト雖モ後章ニ讓ルヘキカ故ニ此ニハ贅セス要スルニ暹羅ノ兒童ハ其兩親教師等總テノ上長者ニ對シテ從順ニ且ツ謹慎ナリ故ニ骨テ上長者ニ向ヒ爭論ヲ爲サス而シテ其階級ヲ尊敬スルハ恰モ年齡ニ於ケルト同一ナリト雖モ猶他方ニ於テハ屈從ヲ肯

セサル不羈獨立ノ氣象ヲ有ス

第七章 學校

暹羅ノ兒童ハ幼少ナル間ハ衣服若クハ學校ニ就テ何等ノ懸念ヲ要セス彼等ハ唯裸體ニテ水牛ニ跨リ樹ニ攀チ喫煙シ空舟ヲ漕キ食ヒ且ツ寢テ時ヲ費スノミナレトモ相當ノ年齢ニ達スレハ通學ス然モ義務教育ノ強制ナキカ故ニ學校ニ行クハ各人ノ自由ニ任セリ然レトモ都鄙ノ論ナク兒童ノ大多數ハ多少ノ教育ヲ受ケサルモノナク漸ク功名心ヲ發シテ出世ヲ望ムニ至リ少ナクトモ讀ミ書キ算盤ヲ學フノ必要ヲ感シテ通學スルニ至ルハ事實ナリ然レトモ其登校ハ不規則不秩序ニシテ唯僅ニ數年間ニ於テ其必要トスル科目ヲ習得セント欲スルニ過キサルナリ

暹羅ノ學校ハ多ク寺院ノ濕陰ナル敷地ニ在リテ建築一般ニ平屋ナリ教師ハ一般僧侶ナレトモ普通ノ教育家ナキニアラス教師ハ生徒ト同様輕衣短裳ニシテ長裾其脚ニ垂ル、ト雖體ノ上部ハ大半裸體ナリ或ハ白麻ノ上衣ヲ有スルモノアリト雖モ校堂ニ入レハ直ニ之ヲ脱シテ腕ニ懸ク是レ即チ其授業時間内ニ汚レンコトヲ恐ル、カ故ナリ教師ハ一般ニ喫煙ヲ續ケ喫煙セサル間ハ檳榔子ヲ嚙ムコト普通ナリ校堂ハ椅子ナク机ナク生徒ハ唯砂上ニ座禪ヲ組ミ常ニ讀書ヲ學フ現今暹羅ノ國語ハ「トニック」(Tonic)語

ト稱スル所ノモノ詳言スレハ言語ノ意味ハ或ル程度迄發音ノ調子ニ在リ例ヘハ「マ」(M)ナル語ハ發音ノ方法三種ニ依リテ、來ル、馬及ヒ犬ト爲ルヘキカ故ニ「此處ニ御入來ナサイ」ト言ハントシテ其發音ヲ誤レハ「此處ニ犬ヨ」ト謂フカ如キ侮辱トナル場合アリ若シ農夫ニ對シテ「汝ノ畠ヲ通ツテモ差シ聞ヘナキヤ」ト問ハントスルトキ最後ノ一語惡調子ナレハ「汝ノ顔ヲ通ツテモイ、カ」ト云フ侮辱トナルヘク農夫ニシテ若シ大兵ナランカ殊ニ面倒ヲ惹起スニ至ルヘシ又或語ハ五調子ヲ有スルカ如ク發音ノ變化甚シキカ故ニ外人ノ能ク正確ナル意味ヲ發表スルモノ稀レナリ斯ク正確ナル意味ハ唯格段ナル發音ニアルカ故ニ凡テノ讀書ハ高音ニテ爲シ面白シ生徒ハ各個獨立ノ個所及ヒ科目ヲ學フカ故ニ數多ノ聲時々高低シテ琅々音樂ノ如シ

書ク爲メニ用ヒラル、モノハ石盤、石筆及ヒ鉛筆ニシテ田舎ノ學校ニ於テハ管テ「インキ」ヲ使用スル者アルヲ見サルナリ或學校ニ於テハ簡單ナル數學ノ科目アリト雖モ大多數ノ學校ニ於テハ之ナシ是レ教師ノ毫モ數學ヲ解セサルニ由ル分數小數ハ言フモ更ナリ幾何代數三角ノ如キニ至テハ未タ嘗テ夢想タモ爲サ、ルカ如シ若シ教師ニシテ聊カナリトモ文法ヲ知レルモノハ之ヲ教フルコトアリ而シテ賢ナリト思ハレント欲スルモノハ誠心誠意經文ヲ習ハサル可ラス而シテ何等ノ滯滞ナク之ヲ誦スル如クナラサル可ラス然レトモ彼等經文ノ意味ヲ解スルコトナシ是レ何人モ用ヒサル且何人モ了解スルコト

能ハサル死語(「バリー」語)ニ依リテ記サレタルモノナルヲ以テナリ其ノ他地理歴史科學ナク亦農工商其他圖畫等ノ科目モナシ又學校ニハ更ニ懸札、圖誌、黑板、机ナク唯砂上ニ座シテ其前ノ手文庫ヲ臺トシテ石盤及ヒ書籍ヲ載スル有様ハ一奇觀ナラスンハアラサルナリ市中ニ販ク此等文庫ノ外面ニハ商品箱ノ如ク種々ノ布告ヲ彫刻セリ

始業時間ハ午前九時ニシテ生徒十一二人登校スレハ教師ハ朝食ヲ了リテ出席ス終業時間ハ唯規則正シク嚴守セラル、不文ノ時間表ニ依ルノミ

斯クノ如ク寺小屋的教育時代モ漸ク過キテ今ハ新制度ノ學校ヲ設クルニ至リヌ是レ一ハ第二世紀ノ文運ニ驅ラレタルモノニシテ一ハ基督教會附屬學校ノ續出ニ刺戟セラレタル結果ナリ現今盤谷ニ於ケル學校ヲ數フレハ初等小學三十五、中等小學四十二、高等小學六、初等中學三、高等中學三、計八十九校ニシテ生徒ノ總數一萬ヲ出テス

專門學校トシテハ盤谷ニ英語學校、醫學校、師範學校、高等師範學校、文官養成學校、測量學校、蠶業學校法律學校等在ルノミ、又王室附屬ノ男女貴族學校アリト雖モ未タ大學ヲ設立スルニ至ラス概ネ中學校卒業ノ者ヲ普通文官ニ專門學校卒業ノモノヲ高等文官ニ採用スト雖モ高級ノ官吏ハ皆歐洲ニ留學セル王族貴族ノ子弟ヲ以テスルヲ常トセリ

中央ニ於ケル教育制度ハ稍見ル可キモノアリト雖地方ニ至リテハ各州主要ナル都市ニ簡易小學校ヲ有スルニ止マリ猶寺院附屬ノ學校ニ於テ教育ヲ受クル者多シ教育ノ普及前途尙ホ遠シト謂フヘキナリ英國ノ教師ヲ聘用セル學校ニ於テハ歐羅巴ノ運動行ハレ「クリツケット」頗ル盛ナリ此遊戲最初ノ仕合ハ對印度人トノ競争ニシテ當年黒色ノ群集ト茶褐色ノ集團カ火花ヲ散シテ對抗セシ狀況實ニ天下ノ奇觀ナリシト聞ク

第八章 娛樂

暹羅ニハ「フートボール」及毬戲ノ如キ肉體ノ運動ヲ主トスル遊戲稀ナリ是レ氣候ノ熱帶ナル結果トシテ平靜ナル遊戲ヲ欲スルカ故ナリ而シテ其主ナル娛樂ハ由來府中ニ公許セラレタル數十個所ノ賭博場ヲ有スルカ如キ好賭ノ國民トシテ種々ノ方法ニ於ケル賭事ナルカ如シサレハ「クリツケット」ニモ種々ノ物品ヲ賭スル青年アリ賭ノ方法トシテ競争ノ尤モ奇妙ナルハ魚鬪ナリ爭魚ハ小鯉ノ一種ニシテ大サ刺魚ノ如シ腹部ハ美麗ナル孔雀色ニシテ淡紅色ノ鱗ヲ有ス之ヲ飼フニハ硝子瓶ヲ用ヒ常ニ反映スル所ノ自影ヲ攻撃セシメテ之カ練習ヲ怠ラサラシム若シ二尾ヲ水槽ニ入レンカ熱怒シテ赤色ニ變シ相互ニ征服セントスルノ狀甚タ面白ク虛々實々間隙ニ乘シテ敵ヲ嚙ムノ狀頗ル猛烈ナリ

三月風強キトキハ壯年ノモノモ紙鳶ノ道樂ニ耽ルコト恰モ少年ノ者ニ異ナラス二人共同シ一人ハ紙鳶ヲ飛ハシ一人ハ糸ヲ送ル紙鳶ハ尾ヲ有セス其飛フコト甚タ重シ若シ二個ノ紙鳶相接近セハ直ニ糸ニ波動ヲ與ヘテ他ノ糸ヲ中心ニ回運動ヲ爲サシメ以テ相交又セシメ他ノ糸ヲ切ルヲ以テ遊戲ノ終リトスサレハ空中ニ鶉翔スル數多ノ紙鳶風ニ鳴テ聲甚タ盛ナリ

一般ノ娛樂ハ「フートボール」ニシテ其直徑僅ニ六七吋ヲ過キス其遊戲方法ハ他國ト異ナラス而シテ所在遊戲ノ中賭ナキ娛樂ハ演劇ノミ首府僅ニ一ノ固定劇場アルノミニシテ瓦斯燈ナク電氣燈ナキ時代ニアリテ唯月夜ニ開演スルノミナリシナリ個人ノ家ニ於テモ冠婚葬祭ノ如キ悲喜夜共ニ演劇ヲ催スヲ習慣トセリ然モ戲謔者(本邦ノニワカ)ノ外嘗テ一人ノ眞俳優ナク其俳優ハ舞ヒナカラ舞臺ノ全面ニ活動ス臺詞ハ樂隊ヲ伴ヘル唱情隊之ヲ司リ樂ハ太鼓、眞銅盤及ヒ風笛ノ變化乏シキ混合ナリ而シテ劇ハ何レノ場所ニ於テモ演奏セラルヘキカ故ニ必スシモ固定劇場ノ必要ナク地上何レノ處ニモ莖ヲ以テ舞臺ヲ作ルサレハ勿論脊景ナク亦道具立ナシ又一般流行ノ藝題ハ彼ノロビンソン、クルーソーノ如キ舊式ノモノニ屬ス

盤谷在留邦人ニシテ赤手能ク百萬ノ富ヲ作り唯一ノ成功家ト稱セラル、者カ活動寫眞ノ隆盛ナル彼ノ玉座(King box)ヲ有スルヲ見テモ明ナリ

第九章 宗教

暹羅ノ宗教ハ佛教ナリ而シテ其宗派ハニニ過キス一ハ舊教「マハニカイ」派ニシテ他ハ新教「ダマユテ
イカ」派即チ是ナリ新教ハ先王ノ父モンクットノ開宗ニ係リ讀經、法衣ノ制其他托鉢式等ニ於テ多少
ノ差異アリト雖モ唯之レ形式上ニ於ケル改革ニ過キスシテ何等教義ノ綱領ニ差異アルニハアラサルナ
リ而シテ歐西文明ノ主義ニ依リテ信教ノ自由ヲ許スト雖モ佛教ヲ以テ國教ト爲セルハ事實ノ明示スル
所即チ國王ハ信仰ノ最高擁護者ニシテ俗權ノ外更ニ心權ヲ併育ス是レ信仰ニ對スル專制政體必然ノ結
果ナリト雖モ事實一身ニ於テ國家萬般ノ統治ヲ行ハンコトハ到底不可能ナルカ故ニ俗權ノ行政ニ各省
大臣ヲ設クルト同シク心權ノ統治ニ於テモ教長ノ外四名ノ僧正ヲ任シテ之レニ教政ヲ統管セシムルコ
ト實ニ已ム可ラサル所ナリ而シテ大僧正ハ國民ニ代リテ教治ノ大權ヲ執行シ僧正ハ其監督ノ下一ハ南
部一ハ北部一ハ新教一ハ隱遁者ヲ統轄セリ

今佛教傳來ノ徑路ヲ大觀スレハ波羅門教風ニ印度ヨリ國境ニ傳播シ我カ日本ノ奈良ニ比スヘキ古代ノ
都チエンマイニ入りテ榮ヘシカ本邦紀元四百三十年即チ第二十世允恭天皇ノ代次テ來レル佛教漸ク隆
盛ニチエンマイ全都ヲ歴スルニ及ンテ先入ノ波羅門教ハ前驅トナリテ直下シ本邦ノ京都ニ比ス可キ中

古ノ王都アイユーチャニ移リテ佛教ノ遺尾ヲ待チシカ此ニ勢力ヲ培養シタル佛教ハチャクリ王朝ノ移
轉ト共ニ更ニ南下シテ首府盤谷ニ入り終ニ當代隆昌ノ勢運ヲ爲セルモノ現今法主即チ教長ハ先王ノ寶
弟バジラアーンナ親王ニシテ久シク英國ニ留學シ歸朝ノ途次新嘉坡ヨリ出家シタルモノ現ニ先王ノ建
立ニ依リテ當代輪奐ノ美ヲ極メ全國佛教ノ大本山トシテ殿堂ノ葺高ク王都ノ中央ニ輝ク「ワット、ブラ
ケオ」ノ管長タリ皇后ノ尊ニ次ク可キ三層ノ高冠(國王は七層
皇后は五層)ヲ戴キ一國ノ心權ヲ掌握セラル彼ノ戴冠
式第二日國王陛下ハチユージット、マハ、ブラサド宮廷ニ在ル古來ノ戴冠石上ニ座シテ王冠ヲ戴キ玉ヒ
佛教ノ先驅トシテ暹羅國宮中ニ入りタル所謂本邦ノ佛教ニ比ス可キ波羅門教之カ儀式ヲ司ルカ故ニ同
教僧ノ祈禱ヲ受ケラレタル後「ワット、ブラケオ」ニ鹵簿ヲ進メ門ニ達シテ波羅門教ノ服裝ヲ佛教ノ法
服ニ替ヘサセラレ全國八十高僧ノ面前ニ進ミ嚴カニ宣言シ玉ヒテ曰クバジラアーンナ法親王統管ノ下
國王親カラ信仰ノ守護者タル可シト宜ナル哉國教制度ノ暹羅國タルコトヤ(緒言參照)
大僧正以下僧正ハ人民ノ最モ敬虔スル所國王ト雖モ合掌ノ禮ヲ行ハセラル、カ如キ僧侶ノ尊崇ハ外人
ノ豫想外ニシテ佛教ノ信仰全國ニ普シト雖モ其宗教ハ純然タル律宗ニシテ持戒ヲ主トスルカ故ニ到底
世間的佛教ト稱ス可ラサルヲ如何

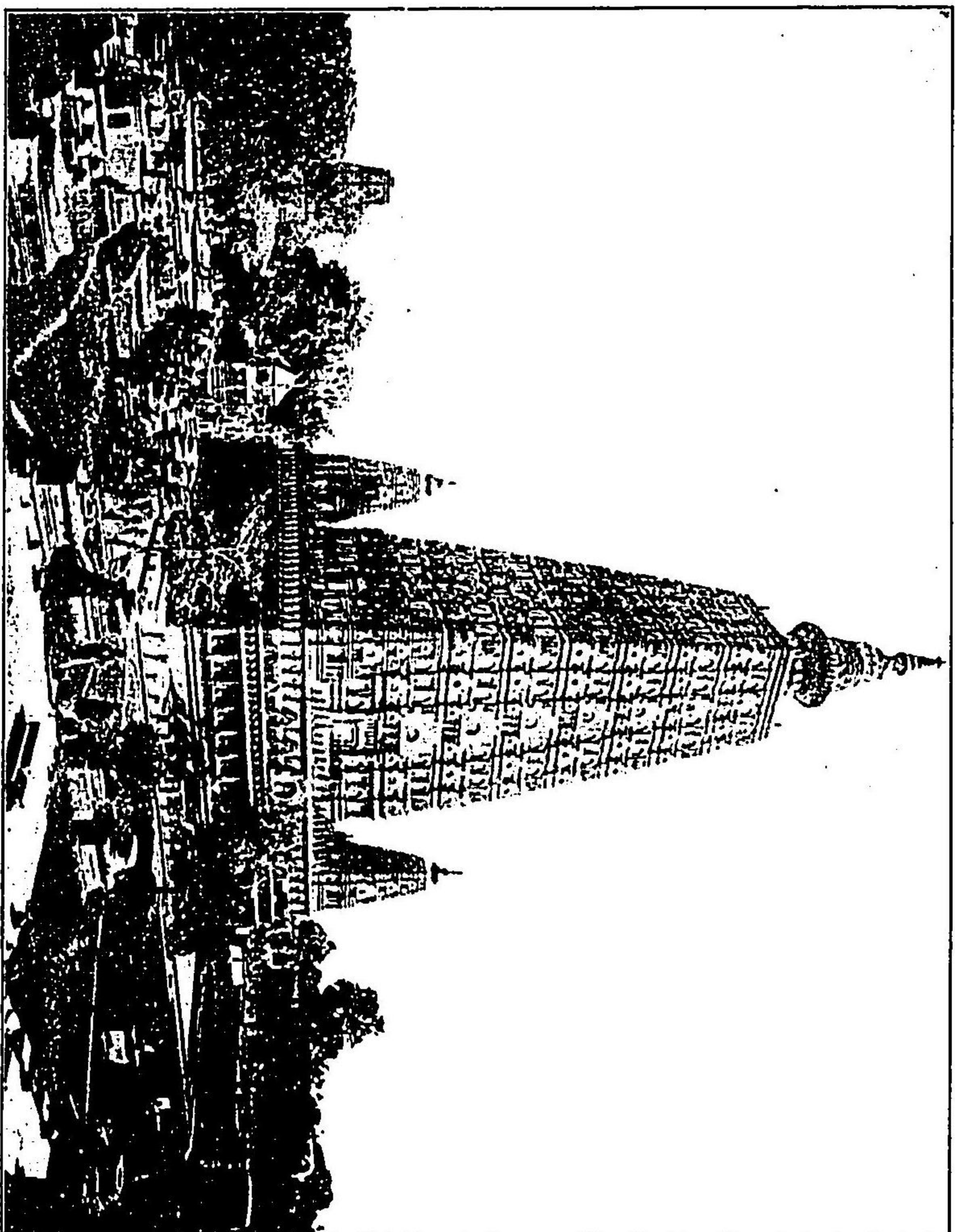
他方外教ノ如何ヲ觀察スレハ今ヲ距ル二百年前佛王ルイ第十四世ノ雄心ヲ東洋ニ集中セシ當時佛國天

主教牧師渡來シテ漸次勢力ヲ擴張シ現今暹羅本邦及ヒ老撾ノ二教區ニ分チ暹羅本部ノ教區ニ五十五ノ會堂ヲ建テ二十三名ノ宣教師ヲ配シ概ネ一學校ヲ各會堂ニ附屬セシメ總數八百五十人ノ生徒ヲ養成スル等大ニ傳道ノ基礎ヲ固ルニ勉ムル羅馬舊教ヲ始トシ首府ニ五會堂其他二十三會堂ヲ有スル米國ハ暹羅ヲ南北兩部ニ分チテ數多ノ宣教師ヲ派シ學校ヲ建テ、五百ノ生徒ヲ養成シ各地ニ貧民救護所ヲ置キテ患者ヲ收容シ又近ク病院ヲ設ケントスル等久シキ歴史ヲ有スル基督教ノ擴張ハ近世泰西文明ノ輸入ト列國ノ信仰ニ對スル關係上信教ノ自由ヲ容レテ歐米ノ宣教師ヲ歡迎セラレタル英國仕込ノ先王以來漸次勢力ヲ高メテ教會堂ノ増加ヲ見ルト雖モ佛教培養ノ根底深キ未タ以テ暹國ノ民心ヲ動カスニ足ル可キ勢力ナシ而シテ異教ノ勢力ヲ獲得シ佛國の宗教政策ノ効果實現ノ期果シテ何レノ年ゾ

第十章 佛陀

佛教三千年ノ源頭ハ佛陀(Buddha)ニ發ス佛陀滅後幾千年間其ノ勢力ト慈悲ト大智識トハ口禪ニ流傳シテ漸次不可思議ナル傳説ヲ爲セリ以下此ノ大聖人ニ關スル論説ニ依リテ佛陀ノ生涯、佛陀ニ關スル古傳及其修行如何ヲ觀察スルノ徒事ナラサルヲ概ル

記憶セヨ佛陀ハ現實ノ人ナルヲ假令無數ニ存在スル禪史小説ハ徒ニ吾人ヲシテ其存在ヲ疑ハシム可シ



塔靈ノ耶伽陀佛ルケ於ニ度印

ト雖之ハ是レ此ノ聖哲ニ關スル一般蒼生ノ觀念ヲ洞察ス可キ資料ト爲スニ過キサレノミ

基督紀元約五百年佛陀ハ印度ノ聖邑ベナレスニ近キ一小村落ニ降生セリ其父ハ釋迦(Sakya)種族ノ王(Rajak)ニシテ佛陀ノ名ヲカウタマ(Chaitanya)ト謂フ七歳ニシテ母ヲ喪ヒ乳母ニ依リテ愛育セラレ佛陀資性靜肅ニシテ沈思毫モ交戰攻伐ノ技ヲ顧ミサリシカハ其族黨大ニ之ヲ憂慮シ一朝敵襲ニ會ヒテ能ク城ヲ守ルノカナキヲ危惧シ父王ニ訴ヘテ曰ハク王子ハ自己ノ愉安ヲ貪ルノ外何等必要ノ技術ヲ修メストカウタマ之ヲ聞キ父王ニ乞フテ曰ハク一日吾カ武カヲ示サント王子ノ手腕ヲ見ント欲シテ集マルモノ無慮數千人皆王子カ荒馬ニ跨リテ馳驅開閉力克ク最モ重キ槍ヲ操リ千人ノ力能ク轉クルコト能ハサル強弩ヲ以テ甲鐵ノ鎧ヲ射弦聲七千里ノ外ニ響キタルニ驚嘆シ爾來敢テ一人ノ誹言ヲ云々スルモノナキニ至レリ

十九歳ノ時翠鸞紅華容顏蓮ノ如ク清ク美シキ從妹ヲ容レ二十歳以後約十年間何等記スヘキモノヲ知ラスト雖モ其平和ニ經過シタルヤ明ナリ二十九歳ノ時一日苑林ニ遊ハントスルノ途次老人ヲ賭テ其衰弱ヲ感レミ數日ノ後病者ニ會ヒテ其苦痛ヲ嘆シ又更ニ葬式ニ遇フテ其死亡ヲ悲ムヤ肅然トシテ人生終ニ生老病死ノ免カル可ラサルヲ悟リヌ

ガウタマ深ク心ヲ無常ナル人生四個ノ難題ニ痛メテ夜半ノ嵐ヲ愛フルヤ驟然起テ塵世ヲ遁カレ一念可

憐ナル衆生ニ對シテ安心立命ノ光明ヲ與フ可キ大道ノ獲得ニ志シヌ
當時既ニ愛兒アリ恩愛去ルニ忍ヒスト雖モ幸福ノ大道ヲ得ント欲セハ須ラク所在現世ノ桎梏ヲ脱却セ
サル可ラスト覺悟シ先ツ名残りヲ惜マント一夜密カニ其妃ノ寢室ヲ訪ヒテ孤檠淡光ノ下ニ妻子ヲ眺ム
眠レル妻ノ腕ハダラシナクモ無心ナル嬰兒ノ頸ヲ擁シ百花室內褥床ヲ繞ツテ撒點セリ、彼レハ此ノ別
離ニ當リ切メテ一度ハ愛兒ヲ抱キテ接吻セント欲スレトモ或ハ其安ラカナル眠ヲ破ランコトヲ怖レタ
リシカハ唯最後ノ長キ愛眄ヲ殘シテ駿馬カンタカニ跨リ馬丁チヤンナノミヲ從ヘテ夜中竊ニ城外ニ出
テ七月ノ月光ヲ浴ヒテ歩ヲ進ムルコト幾里家ト富ト榮華ヲ離レ最愛ノ妻子ヲ棄テ、終ニ放浪ノ身トナ
リヌ然ルニ其出家ノ志ヲ挫カント企圖シタル惡魔マラー現ハレ爾若シ現世ノ財産ト安樂ニ復歸セハ一
週日ノ中ニ世界第一ノ大王タラシメント云ヘリ然レトモガウタマハ毅然トシテ動カス幾里ヲ進ンテ終
ニ或ル河岸ニ來リヌ王子停リ劍ヲ棄リテ己カ丈ナス黒髮ヲ切り自己ノ遁世ノ紀念トシテ金冠玉裳ト共
ニ之ヲチヤンナニ與ヘ城内ニ持チ返ラシムチヤンナハ王子ト別ル、ヲ拒ミ悲泣流涕歸城ヲ請ヘトモ終
ニ聽カレス

ガウタマハチヤンナト別レテヨリ果テシモ分カヌ森ヲ辿リテ仙人ノ住メル洞窟ニ入り此所ニ止リテ斷
食苦行以テ幸福ニ達ス可キ眞平ノ大道ヲ究メント廻メ細ニ辛酸ヲ嘗ムルノ久シキ餓餓疲憊ノ極終ニ彼

ハ倒ル、ニ至リス人皆死セリト思ヒシカ頓テ蘇生シタリガウタマ惟ヘラク其後健康ナラサレハ精神亦
昏睡シ從テ其希求スル大道ヲ悟ルコト能ハサルヘク難行苦行ノ甲斐ナキヲ觀セシカハ此所ニ斷食ヲ止
メテ食餐ヲ取リヌ此ニ於テ平同棲セシ修業者ト論議ヲ闘ハスニ至リ伴侶ハ其無氣力ヲ嗤ヒガウタマヲ
見棄テ、去リヌガウタマ情平トシテ隣河ノ岸ヲ遊歴スル途中村娘ノ食物ヲ獻スルニ會フ之レヲ受ケテ
元氣ヲ恢復シ更ニ大樹ノ蔭ニ坐禪ヲ組ミヌ此樹ハ基督教徒ニ對スル十字架ノ神聖ナルカ如ク所在佛教
信者ニ知ラレタル菩提樹(Po-tree)ナリ此樹下ニ座禪セルガウタマハ過去及將來ニ關シテ細ニ思索ヲ
凝ラシ專心觀念ニ耽リシカ惡魔再ヒ現ハレテ曰ハク愛情、權力、財産及ヒ名譽ヲ娛シメト呷キ家庭及
妻子ヲ省ミヨト從違シタリ斯クテ菩提樹ノ下ニ座シテ冥想ニ耽ルコト四十九晝夜抑モ人ハ何カ爲メニ
生レタルカ、心中麻ノ如ク亂レタル鬪争ノ中一點ノ光明頓ニ疑惑ノ雲ヲ攘ヒ心神忽チ爽カニ終ニ天上
天下唯我獨尊ノ佛陀ト爲リ天真獨明無上正覺ノ人ト爲リヌ而シテ佛陀ハ衆生ニ對シテ安心立命ヲ得ヘ
キ大道ヲ教ヘ如何ニセハ不幸ヲ避ルコトヲ得可キカ又如何ニセハ死ヲ恐レサルニ至ルカヲ闡明スルヲ
以テ自己ノ天職ナリト思惟シタリ然レトモ茲ニハ佛陀ノ教誨如何ヲ詳論スルヲ止メテ專ラ志アル人ノ
研鑽ニ委ネン哉

頓テ佛陀ハ出山ノ釋迦ト現ハレテベナレスニ歸リ天使人間及動物ニ對シテ教ヲ説ケリ而シテ其言語カ

如何ナルモノナリシヤ不明ナリト雖モ人ハ勿論禽獸ニ至ル迄此聖人ノ教誨ヲ了解セリト佛陀ハベテ
レスノ隣村ニ永住シテ老幼男女ノ群集ヲ弟子トシ雨季ヲ過キテ彼等ヲ四方ニ散シ以テ其福音ヲ八方ニ
宣傳セシメ自ラハ父王今ハ老ヒタリ生前ニ再會ヲ切望シテ止マストノ使者三度至ルニ及ンテ出家以來
此二十有餘年全印度ヲ風靡スルノ聲望ヲ擔ヒ心ニ錦ヲ飾リテ故郷ニ歸リシカ豫テ怒レル叔父ハ食ヲ與
ヘサリシカハ鉢(Bowl)ヲ取テ食ヲ市中ニ乞ヘリ父王之ヲ聽テ大ニ怒リ又何トナレハ布衣跣足普通ノ
乞食ノ如ク毎ニ就テ布施ヲ乞フハ王子タルノ體面ヲ汚スモノナリト考ヘタレハナリ父王佛陀ニ會フ
ヤ心常ニ天上界ニ遊フ佛陀ノ相恰ハ襤褸ノ中猶福徳圓滿ノ姿尊キニ怒ハ忽チ變シテ慈愛ト爲リ嘘噉流
涕除々鉢ヲ取ツテ佛陀ヲ王宮ニ導キヌ

庶民佛陀ヲ拜セント爭フテ王宮ニ參リヌ然モ佛陀ハ其妃ノ見ヘサルヲ怪シミ其所在ヲ聞キ數人ノ弟子
ヲ從ヘテ妃ヲ其後園ニ訪フ妃王子ノ姿ヲ見ルヤ忽チ王子ノ足下ニ泣伏シテ心ニ刻ミシ十有年來ノ寂寞
ヲ訴ヘシカ王子ノ姿昔ニ増シテ彌尊ク其聖賢今ヤ何人モ能ク比肩スルモノナキヲ覺リ王子カ衆生濟度
ノ大任ヲ告クルニ及ンテ直ニ佛教比丘尼(Nun)ノ先達ト爲リヌ佛陀カガンヂスノ流域ヲ遊化シテ普ク
中印度ニ使命ヲ傳フルコト前後四十五年間其遺ス所ノ五時教(華嚴、阿含、方等、般若、法華、涅槃)ヲ以
テ五十六億七千萬年ノ後此世ニ現ハル可キ彌勒菩薩ニ託シ終ニ涅槃ニ入リヌ其死ニ近クヤ由來忠實ナ

ル弟子ナリシ叔父アナンダヲ顧ミシ曰ク我ノ死ヲ悲シムヲ止メヨ予ハ嘗テ死ニ際シテハ何人ト雖モ總
テ恩愛ニ別レサル可ラサルヲ告ケタルニ非スヤ爾ハ長ク我ニ侍シテ始終親切ニ仕ヘタリ今爾ノ師カ逝
クヲ以テ更ニ教ヲ受クルコトヲ得スト思フ可ラス宇宙ノ真理ハ永劫不滅ナリ我ノ死後ハ從來爾ニ教ヘ
タル信條カ即チ爾ノ恩師ナリト斯クテ其死ヲ痛ム萬象ノ裡佛陀ハ終ニ此世ヲ去リシト雖モ佛陀伽耶ノ
靈塔ハ長ヘニ其芳名ヲ三千年後ノ今日ニ傳ヘ善男善女ノ參拜シテ祭壇ニ香花ヲ供ヘ當年ノ威靈ヲ渴仰
スルモノ絶ヘス法道永ク宇宙ト殘リテ世界ノ信仰ヲ繫クモノ實ニ八億五千萬

第十一章 僧侶

暹羅ハ黄色袍ノ王國(The Kingdom of the yellow robe)ト稱セラル是レ到處僧侶アラサルナク而シテ其
僧侶ハ階級地位ノ如何ヲ問ハス總テ同一ノ黄色袍ヲ纏フカ爲メニ外ナラス而シテ國教制度ノ下僧侶ハ
一面官吏タルノ格式ヲ有ス上王族ヨリ下庶民ニ至ル迄暹羅人ハ皆一生ノ中一度ハ必ス寺院ニ入りテ僧
侶タラサル可ラス、サレハ一國信仰ノ保護者タル國王モ亦親カラ修業者タラサル可ラサルカ故ニ現國
王陛下モ六ヶ月前既ニ三個月ノ修業ヲ成シ或ハ跣足ニテ日本公使館ニ食ヲ受ケラレタルコトアリト其
修業期間ノ短キハ數ヶ月ヨリ長キハ一生涯ニ渡ルコトアリ、僧侶ト爲ル可キ普通ノ年齢ハ概ネ十九歳

法テ合法ノ最短期間ハ二箇月ナリ（佛陀出家當時ノ年齢ニ付テハ諸説紛々トシテ何レカ其正鵠ヲ得
 タルモノナルヤ明カナラスト雖暹羅ニ於ケル出家ノ習慣年齢ヨリ推究スルモ十九出家三十成道最モ眞
 ニ近キカ如シ何トナレハ暹羅ニ於ケル此ノ十九出家ノ習慣ハ偶然ニアラスシテ確カニ佛陀ノ先例ニ則
 レルモノナルコト想像スルニ難カラサルカ故ナリ）僧侶ノ得度ヲ得ント欲セハ晴衣ヲ着ケ朋友及ヒ親
 戚ニ伴ハレテ寺院ニ行キ米、魚、寸燐、果物、巻烟草、檳榔子、目覺時計、花瓶、焚香棒（Incense stick）等
 ヲ殿堂ノ床上各所ニ配獻ス其ノ觀望口神聖ナル殿堂ヲシテ荒物屋ニ擬スルノ嫌アリト雖モ彼等ハ反ツ
 テ之ヲ以テ莊嚴ノ美ト爲スモノ、如シ時ニ幼年ノ者寺院ニ入りテ黄色袍ヲ被ルコトアリ是レ兩親ノ者
 カ死亡シタル場合ニ於テ往々起ル所ノモノ其ノ理由ハ之ニ依リテ親ノ來世ニ於ケル冥福ヲ祈ラントス
 ル回向ノ爲ニ外ナラス、一方ニ於テ僧侶ハ又一人ノ小僧即チ弟子ヲ有スルヲ慣例トス何トナレハ庵室
 ノ掃除及勝手元ノ働キニ必要ナルカ故ナリ而シテ僧侶ハ金錢ヲ所有スルコトヲ潔シトセサルモ弟子ハ
 其ノ師ノ爲メニ之ヲ貰ヒ受ケ且ツ之ヲ使用スルモ妨ケナシ早朝寺院ノ鐘鳴ルヤ僧侶ハ起キ朝食ヲ乞フ
 爲メニ市中ニ出ツ乃チ手ニ大ナル鐵鉢ヲ捧ケ頭ヲ垂レテ氣力ナク其受持區域ノ市街ヲ徐行ス僧侶除行
 スルヤ市民戸外ニ出テ來リテ食物ヲ鐵鉢ニ容ル或ハ米ノ一握ヲ施シ或ハ「カレー」ノ一匙ヲ獻ス或ハ少
 量ノ「バナ、」或ハ乾魚或ハ鑽片ノ「コ、」ナット」ヲ喜捨スルアリ然レトモ僧侶ハ少シモ側目ヲ振ラス



法衣ヲ着セル僧侶



（暮天朝蚊ハ間夜テシニ衆日ハ間晝）隊行旅業修ノ僧侶

又食物ノ寄進者ニ對シテ何等感謝ノ意ヲ表セサルナリ頓テ寺院ニ歸リ之ヲ檢スレハ鐵鉢ノ中種々ノ雜物滿テルヲ見ル朝食終ハレハ黄色袍ノ一連ハ勤行ノ爲メニ殿堂ニ行ク勤行終レハ志アルモノハ相當ノ仕事ヲナス而シテ僧侶ハ社會ノ各階級ヨリ出テタルモノナルカ故ニ或ハ大工アリ或ハ教師アル等各職業ヲ取ルニ支障ナシ晝餐以後ハ間食若クハ夕飯ヲ取ルコトナシ何トナレハ僧侶ハ翌朝迄何等食物ヲ得サレハナリ、サレハ常ニ茶、檳榔子及ヒ烟草ヲ以テ其ノ饑餓ヲ抑ヘント勉ムルモノ、如シ夕方ニナレハ僧侶ハ寺院ノ境内ヲ流ル、河若クハ池ニ入りテ沐浴ス日没ニ至レハ寺院ノ厨屋ニ退カサル可ラス毎夕約六時半ニ至レハ喚鐘鎖鑰ノ時間ヲ報ス此鐘ハ普通木造ノ三層樓ニ懸ケ檉棒ヲ以テ之ヲ衝ク之ヲ衝クモノハ大抵小僧ナリ

降雨烈シキ九月十月ノ交ハ僧侶夕食ニ會シ終テ殿堂ニ經文ヲ誦誦ス幽カナル蠟燭若クハ燵フル「ランブ」ハ殿堂唯一ノ燈火ニシテ其淡光ハ座セル黄色袍ノ一團ヲ照セリ池蛙ハ響キアル低音ヲ以テ鳴キ蟋蟀ハ和シテ吱啁ノ高音ヲ加ヘ螢ハ灌木ニ閃光ヲ放ツテ共ニ此夕方ノ勤行ヲ助クルニ似タリ僧侶ノ庵室ハ瀟洒ナル一小室ニシテ何等ノ裝飾ナク唯一二ノ莖ト一簍ノ臥榻ト床上ノ打敷、一枝ノ花及ヒ宗教ノ開祖タル佛陀ノ肖像アルニ過キササルノミ戸棚ニハ一個ノ土瓶ト二三ノ茶碗アルノミ而シテ彼等ハ自己ノ欲スルト同様頻リニ客ニ對シテ茶ヲ進ムルヲ以テ喜ヘリ殆ント一般ニ所持スルハ棋盤ト

駒之ヲ以テ觀ルモ暹羅人大多數ノ嗜好カ舊式遊戯ニ在ルコト明カナリ
經文及和讃ハ象牙若クハ鐵條ノ尖頭ヲ以テ「コ、ナット、バルム」ノ葉(多羅葉)ニ記シ葉ニ二個ノ穴
ヲ穿ツテ絲又ハ紐ヲ以テ綴リ之ヲ重ネテ箱ニ藏ム此等ノ經典ハ普通人ノ解スルコト能ハサル語(「バリ
」語)ヲ以テ記サレタルモノニシテ實際ニ於テ晝夜專念返讀スト雖モ其經典ノ含有スル觀念ヲ修得セ
ン、勉ムル者ハ唯寺院ニ永住スル僧侶ノミニ過キサルナリ

僧侶ノ職業トシテ適法ニ許サル、一二ノ仕事ハ廣キ胡桃ノ葉ヲ以テ大團扇ヲ製造スルコト等ニシテ其
用ハ日中ノ炎熱ナル間太陽ノ猛烈ナル光線ヲ避ケンカ爲メ之ヲ其頭上ニ翳シ或ハ塵世ノ俗事ヲ見サラ
ンカ爲メ之ヲ其面前ニ支フルニアリ笑フヲ止メヨ僧侶ハ如何ナル種類ノ帽子ヲモ被ルコトヲ禁セラレ
毛髮ハ悉ク剃ラサル可ラサルヲ以テナリ

各寺院ニ管長アリ以テ勤行ノ遂行ト僧侶各個ノ持戒如何ヲ監督ス若シ一僧ノ爲シタル惡事ニシテ管長
ノ耳ニ入ランカ之ヲ罰スルヤ必然ナリ其ノ罪科ニシテ重大ナランカ寺院ヨリ放逐シテ之ヲ警吏ニ引渡
ス此ノ如キ輩ハ法律ノ命スル所ニ依リテ嚴罰ニ處セラル、ヲ常トス罪人ハ寺院境內ノ撒水掃除ニ從事
シ或ハ普通從僕ノ爲スカ如キ卑賤ナル業務ニ使役セラル、サレハ一般僧侶ノ持戒嚴格ニシテ女色ヲ斥
ケ俗流ノ上ニ超然シテ道義ヲ之レ樂シミツ、アルハ實ニ嘆賞ス可キ所ナリ

普通一般ニ許サル、所ノモノニシテ僧侶ニ容レサル罪科ノ奇妙ナルモノ左ノ如シ

地上十二時ヨリ高キニ眠ルコト、音樂ヲ聞クコト、食ヒ過スコト、眠リ過スコト、歩行中腕ヲ振ルコ
ト、木ヲ焚クコト、瞬クコト、食事中涎ヲ垂ラシ若クハ鼻ヲ鳴ラスコト、象ニ乘ルコト、喧噪スルコト
等即チ之ナリ

全國僧侶ノ總數約十二萬全國人口ノ約百分ノ二ニシテ其多數ナル實ニ驚クノ外ナシ然モ宗教ト國家ノ
關係ニ於テ寺院ト同シク無制限ニ僧侶ノ得度ヲ許スハ徒ニ免稅、免役(此點ニ於テ國民ノ二大義務ヲ
免カルモノ)座食ノ民ヲ作ルモノ之レ豈ニ考究ス可キ一大問題ニ非スヤ須ラク寺院ノ建立ト僧侶ノ得
度ニ一定ノ制限ヲ置クハ暹羅國緊急ノ要策ナルヲ認ム

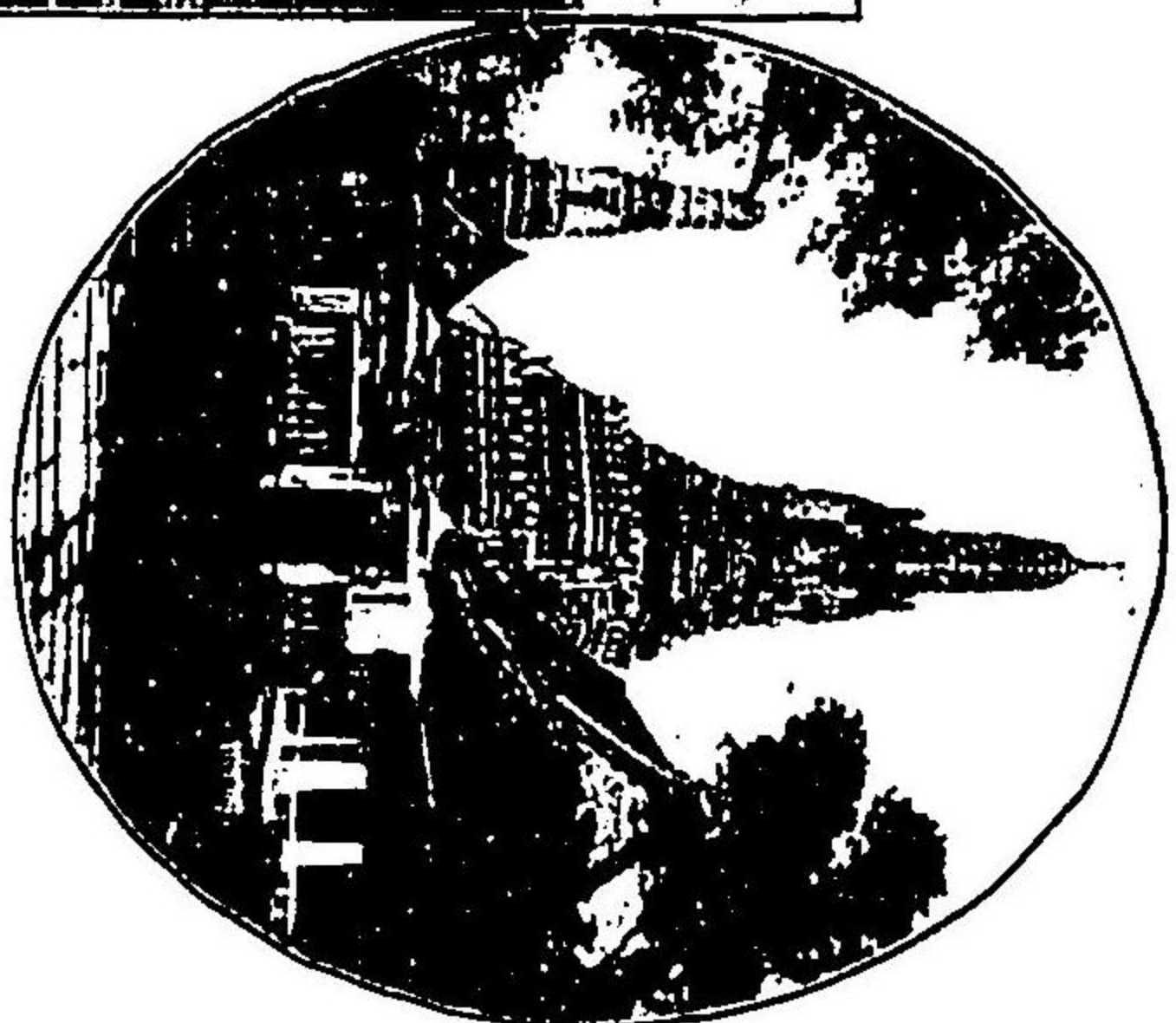
第十二章 寺院

國王ハ一國信仰ノ維持者タリサレハ主ナル寺院ニハ必ス國王ノ御眞影アリ而シテ歲入ノ大部分ハ寺院
ノ修繕及ヒ建立ニ費シ又信仰上ノ儀式及ヒ祭典ニ用フ斯クテ暹羅ノ國中到處ニ寺院アラサルハナク其
小ナルハ納屋ヨリモ小ニ其大ナルハ高廈ノ大建築ニシテ繞ラスニ壯嚴ナル輪奐ノ美ヲ以テス新シキハ
金光燦爛トシテ華美ヲ極メ千變萬化ノ色彩光眩ク古キハ破壞零落寂莫ヲ極ム殿堂ハ普通修繕スルコト

ナク一度建立スレハ唯風雨ノ侵蝕ニ任ス寺院ニハ讀經アリ和讃ノ合誦アリ法話アリ又説教アリ
 全國佛寺ノ總數一萬以上全國ニテハ二萬以上ヲ算ス而モ何カ故ニ斯ク數多ノ寺院カ建立セラル、ヤヲ
 探究セント欲セハ須ラク先ツ拂教研鑽ノ歩ヲ進メサル可ラス佛佗教ヘテ曰ク吾人ノ死スルヤ靈魂ハ他
 ノ體ニ宿ルヘシ吾人若シ現世ニ於テ極惡ナリシカ吾人ハ猫、蟻、蝨若クハ甲虫ノ如キモノニ生替ハリテ
 此世ニ出ツ之ニ反シテ大善ナレハ吾人ハ貴族王族ノ如キモノニ生レテ此世ニ出ツルカ、然ラサレハ他
 ノ天上界ニ生レテ天人タル可シ一生涯ヲ逆シテ何等惡想、惡言、惡行ナキ人ナランカ涅槃ニ入りテ恒
 常不變ノ平和ニ住シ無上安樂ノ盡キセヌ果報ヲ受クヘク涅槃ニ入レハ靈魂ハ永遠ニ安息ス可シ而シテ
 再ヒ天ニ生ル、ナク地ニモ亦生レサルナリト謂ヘリ

人死スルヤ其云爲シタル善惡ノ輕重衡量セラル可ク未來ニ於ケル人間ノ禍福ハ一ニ此衡量如何ニ在リ
 テ存ス而シテ極樂ニ行ク可キ吾人ノ云爲ハ一ニシテ足ラスト雖モ要スルニ功德ヲ爲スニ在リ而シテ功
 德ニ大小アリ此ノ功德ヲ爲スノ最良ナル一法ハ僧侶ニ隨ヒテ殿堂ヲ建立スルニ在リト之ヲ以テ素封家
 ハ佛像ヲ禮拜シ其説教ヲ聽聞シ其和讃ヲ誦スル所ノ道場ヲ建立ス然レトモ一度之ヲ建立セハ更ニ之ヲ
 修繕スルノ必要ナシ佛敎信者ハ曰ヘリ寺院ニシテ破壊センカ其子孫ハ更ニ他ノ寺院ヲ建立ス可シ斯ク
 テコノ功德ヲ爲スノ機會多カルヘク亦數多寺院ハ繁昌ヲ見ルコトヲ得ヘシト

塔尖ルケ於ニ内境ノソモチトツツ



ツツチノ高塔



コーチン、ヒル上ノ鐘塔
(釋迦ノ廟ヲ祭ル)



古刹「ボトツ」ノツバ

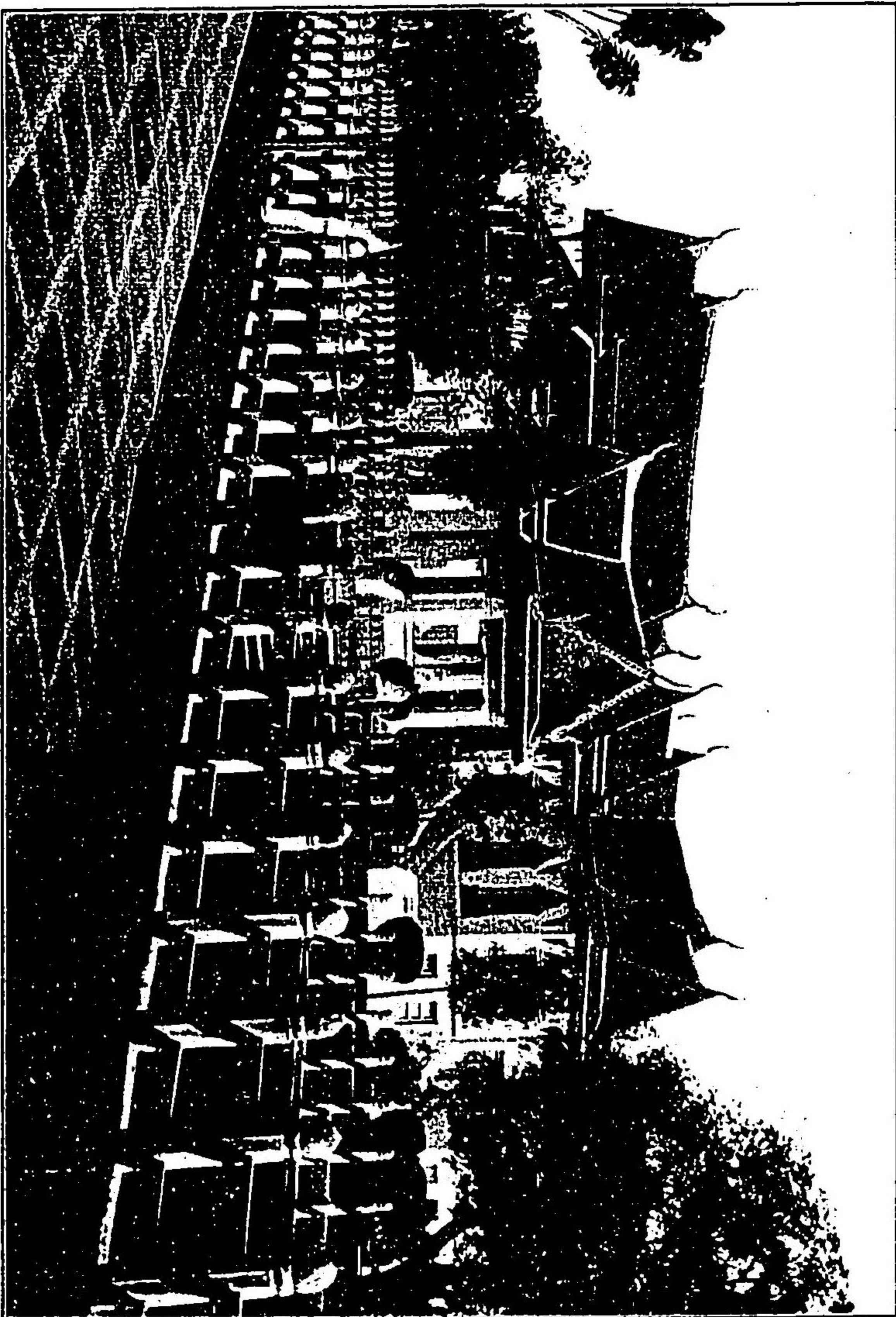
附主人ノ家屋及ヒ空舟ト「ル」ヲチヤンヤス 船

暹羅語ノ「ワット」(寺院)ハ神聖ナル垣ニ依リテ圍マレタル總テノ建築物ヲ意味シ尙ホ僧侶ノ住居スル庵室、佛像ヲ安置セル殿堂其他遺物ヲ蔽フ所ノ幾多螺旋形ノ裝飾尖塔ヲ含有ス此等建築物中ノ最モ神聖ナルヲ「バウト」(本堂)ト稱ス東西南北ノ四隅ニハ「ガウタマ」ノ解脱ニ縁アル菩提樹ノ葉蔭ニ四個ノ彫刻石像アリ「バウト」建立ノ當時清メノ水ヲ此等ノ石像ニ灌キ以テ永久ニ惡魔ノ侵入ヲ攘フト謂フ寺院ノ境內ニハ常ニ遺骨若クハ遺物ヲ蔽フ所ノ宏大ナル尖塔無數アリ或ハ之ヲ殿堂ノ屋上ニ建ツ其故事ヲ探ヌレハ一種ノ傳説アリ抑モ佛陀入滅ノ當時弟子ノ一人佛陀ノ舍利骨ヲ他ノ弟子ニ配分シ己レハ何等之ヲ取ルノ考ナカリシモ佛陀ノ一齒殘留セシヲ見之ヲ己レカ毛髮ノ渦卷ニ秘シタルニ之ヲ見タル天神ハ密ニ地上ニ飛來シ其ノ頭頂ヨリ尊キ遺物ヲ竊ミ之ヲ彼ノ頭頂ニ似タル尖頭ノ一大塚ニ埋メタルヨリ此流行ヲ生メリト又他ノ一説ニ依レハ此等墳墓ノ佛ハ佛陀入滅ノ當時弟子ニ對シテ己レノ遺骨ヲ尖頭塚ニ埋メヨト遺言シタル事實ニ基クモノナリト謂ヘリ本堂ハ矩形ノ窓戸ヲ設ケタル直立ノ壁ヲ有シ美シキ穹門ナク彫刻ナク又一ノ焼付硝子ナシ屋脊ハ重ネ合ハセタル板ノ層ニテ之ヲ葺クニ金色、琥珀色、綠色、猩紅及ヒ青色ノ美彩アル瓦ヲ以テス而シテ立テ續ケタル「チーク」ノ大柱ハ殿堂内ノ通路ヲ陰暗ナラシム然レトモ屋脊ヲ除クノ外外郭ハ清洒ニシテ日中ノ太陽寺院ヲ照サンカ五色ノ瓦ハ閃々トシテ相反射シ恰モ色彩アル戴冠ノ光耀ニ似タリ之ニ反シ内部ハ光微カニ屋脊高ケレハ木角ハ暗黒ノ

間ニ隠レテ見ヘス遙カ後方ニ群小ノ佛像ヲ下ニ見テ巍然聳ユル金光佛陀ノ座像ヲ見ル其周圍ノ小佛像ニハ或ハ手ヲ上ケタルアリ或ハ恰モ惡魔ト浮世ノ悲愁ヲ避ケントスルカ如ク團扇ヲ以テ面ヲ蔽フアリ舊都アイユーチャノ一寺院ニ於テハ此等佛像ノ數二萬以上ニ及フモノアリ而シテ各寺佛像ノ多キハ死者アル毎ニ遺族ノ者必ス其ノ資力ニ應シテ一體ノ佛像ヲ獻スルカ如キ正ニ本邦ノ位牌ニ相當スルヲ以テナリ

堂塔棟梁ノ兩端莖等ニハ角形ノ大彫刻突出セルヲ見ル之レ佛陀カ菩提樹ノ下ニ於テ惡魔ノ攻撃ヲ受ケタル時其身邊ヲ渦卷テ之レヲ保護シ以テ安全ナラシメタリト稱スル七頭蛇即チ印度ノ神祇タル龍神ノ頭ニ象レルモノナリ

寺院ト離ルヘカラサルハ「サラ」即チ休憩所ナリ此休憩所(木造)ノ建立ハ功德ヲ爲ス一法ニシテ殿堂ノ建立ニ比較シ入費少ナキカ故ニ暹羅國中數千ノ休憩所ヲ見ル乃チ河流若クハ運河ノ岸上叢林ノ空漠ナル場所及ヒ市町村ニ近キ荒野等到處是アラサルハナク此ノ休憩所ハ地上幾尺ノ「ブラツトホーム」ヨリ成リ之ヲ蔽フ所ノ屋脊ハ數本ノ柱ニ依リテ支ヘラレ壁ナク又調壁ナシ旅行者此所ニ休息シ食事シ又ハ宿泊スルモ何等ノ妨ケナシト雖モ料金ヲ支拂ハサル代リニ何等ノ慰安モ與ヘラル、コトナシ或ハ數多ノ集團一時ニ會スルコトアリト雖モ何等不平等ヲ訴フルモノナシ何トナレハ此ノ休憩所ハ總テ



大木山ツトブラツトホームノ側面觀

ノ來者ニ對シテ開放セラレタルモノナルヲ以テナリ

盤谷ニ於テワット、ブラケオノ外其名高キ古刹ノ一ハゴールデンヒル上ノ寺院ニシテ此丘陵ハ瓦ト灰泥ニ依リテ建築セラレタルモノ其高サハ約二百呎灌木、喬木及ヒ草蔓之ヲ蔽ヘリ一見到底人力ヲ以テ成レルモノトハ思ハレサルナリ頂上ニハ白色ノ尖塔アリ尖塔ノ下金光ノ神龕アリ中ニ佛陀ノ齒ノ模型(硝子製)アリ毎歲三日間此齒ヲ參拜スルモノ幾千人皆金箔ノ一片若クハ花ヲ買ヒ丘陵ノ頂上ニ登リテ神龕ヲ繞レル鐵柵ニ金箔ヲ附着シ蠟燭ヲ點シ大篝火ノ中ニ花ヲ投シテ太鼓ヲ打ツ之ヲ終レハ再ヒ麓ニ下ル下ニハ緑日ノ露店見世物等群集雜鬧ス又古刹「ワット、チエン」殿堂ニハ釋迦ノ涅槃像アリ高サ百七十五呎建築材料ハ瓦ニシテ蔽フニ金色ノ「セメント」ヲ以テス基礎ノ直徑十八呎足ノ長サ五碼ニシテ足指ノ長サ一碼ナリ又盤谷第一ノ高塔アリ高サ二百五十呎

第十三章 剃 髮

河流及ヒ運河ニ沿ウテ船遊センカ手ニ取ルカ如ク音樂ノ聲ヲ聞クコト往々ナリ、船ヲ岸ニ漕キ寄せテ觀ヘハ樂隊ノ一群總テノ動物ヲ髡センカ爲メナルカノ如ク聲ノ有ラン限リ秘術ヲ盡シテ演奏スルヲ觀ル此所ニ集マルモノハ晴衣ヲ着タル男女、最上ノ黄色袍ヲ裝ヘル僧侶、繪取レル顔及ヒ恐シキ面ヲ被

リタル俳優、犬猫、及ヒ兒童等種々雜駁ナリ此群集ノ中央ニハ年齢十二三歳ニシテ頸紐、金鎖、手頭輪、腕輪及ヒ踝飾等ノ寶玉裝ヘル一人ノ兒童アリ人集リテ祝宴ヲ開キ劇ヲ演シ景氣良ク太鼓ヲ打ツテ燕飲スルハ即チ此兒童ノ爲メナリ之レ本邦ノ元服ノ式ニ似タルモノニシテ兒童ハ此ニ剃髮シテ之ヨリ青年ノ群ニ入ルコトナルカ故ニ其ノ大切ノ式ナルハ結婚式若クハ葬式ト撰フ所ナキナリ

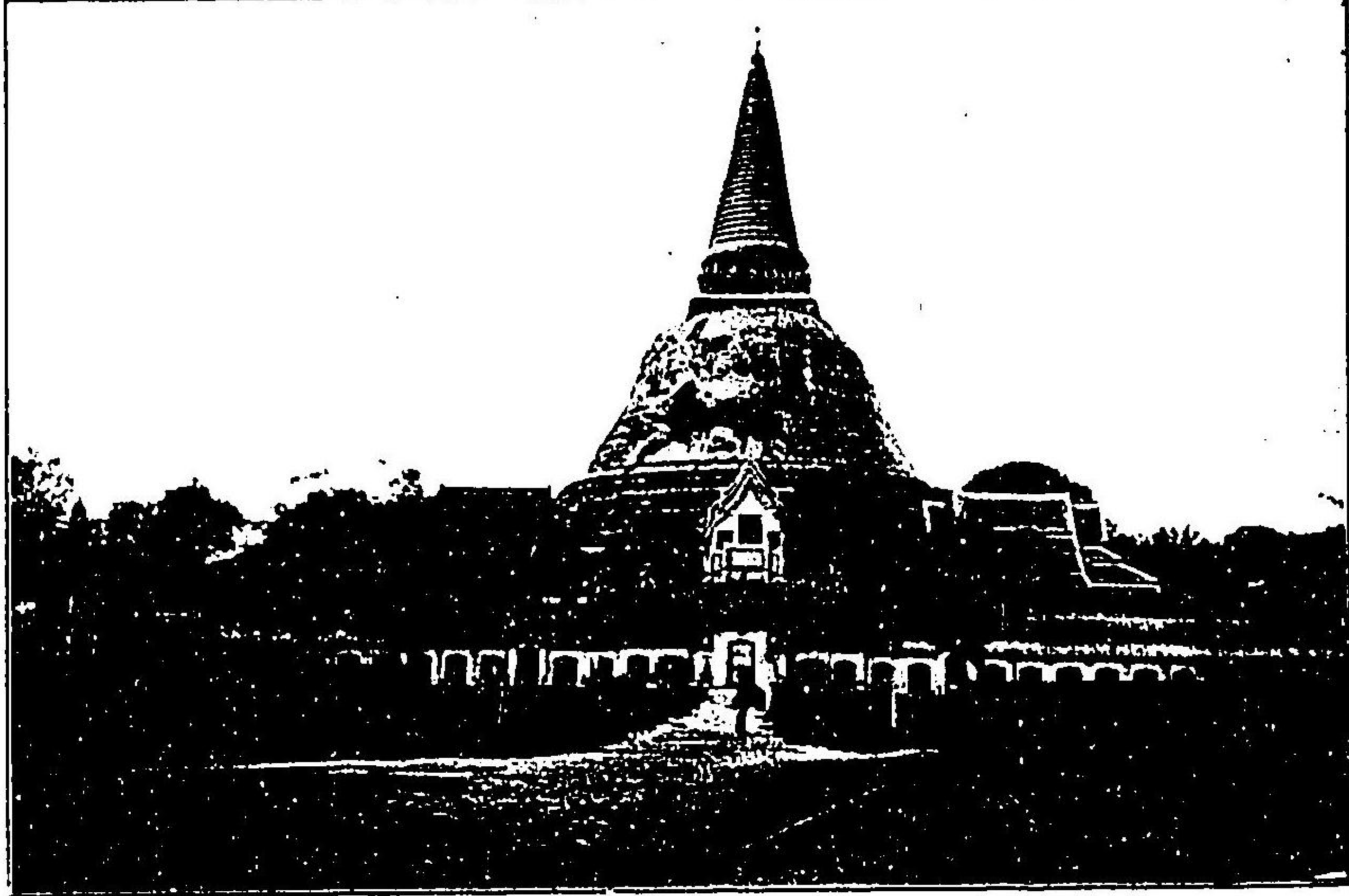
元來兒童ノ毛髮ハ幼少ノ時ヨリ頭頂ノ中心ニ於ケル小サキ房即豚尾ヲ除クノ外悉ク剃ルヲ以テ例トス此ノ大切ナル房ハ毎日油ヲ以テ潤シ之レヲ卷キ石入りノ針ニテ止メ纏フニ小サキ輪簪ヲ以テス長シテ十一歳ヨリ十五歳ニ至ル迄之レヲ剪ムコトヲ許サス其間髮ノ伸フルコト或ハ一呎以上ニ達スルモノアリ

兩親若シ適當ノ剃髮時期到來セリト考フルトキハ其吉日ヲ撰ハンカ爲メ先ツ占星家ヲ訪フ何トナレハ若シ剃髮ノ日ニシテ凶ナランカ兒童ハ乃チ疾病ニ罹リ或ハ死シ或ハ惡魔來リテ其兒童ニ宿ル等如何ナル災厄ニ會フヤモ測リ知ル可ラサルカ故ナリ去レハ其注意周到ナル決シテ理ナキニ非ス占星家吉日ヲ指定スレハ乃チ人ヲ招ク俳優、僧侶、親友等此處ニ集リテ二三日間祈禱シ演奏シ燕飲シテ大ニ噪クヲ例トス聞ク戴冠式ノ好機ヲ利用シテ此ノ祝典ヲ擧ケタルモノ甚タ多シト此式ハ僧侶ノ執行ニ依リテ始マル僧侶地上數尺ノ壇上ニ登リ座禪ヲ組ミテ聖典ノ一節ヲ誦シ鬼神ニ祈ルニ兒童ニ對スルノ慈愛ト總

婦人ノ服裝ト剃髮式前ノ兒童



剃髮式ノ盛裝



(ル祭ヲ跡是ノ迦釋) 塔靈ノトーバラプトンウマ

テノ惡魔ニ對スル兒童ノ保護トヲ以テス僧侶ハ經文讀誦ノ間ニ手ニセル絲ノ一端ヲ兒童ノ合掌セル手ニ卷キ付ケテ上ヨリ寶物ヲ下ス此寶物ハ絲ヲ俤フテ兒童ノ手ニ達ス斯クテ祝福兒童ノ精靈ニ達セリト爲ス又家屋及庭園ノ周圍ヲ繞ラスニ絲ヲ以テス之レ前述ノ寶物ヲ竊マントスル惡魔ノ侵入ヲ防カンカ爲メナリ

翌日ニ至リ會合者ノ首長剪刀ヲ取リテ兒童ノ房髮ヲ切ルヤ散髮商銳利ナル剃刀ヲ携ヘ來リテ奇麗ニ之ヲ剃ル兒童自ラ白袍ヲ着ルヤ僧侶導テ壇上ニ登ラシメ白布ノ天蓋ヲ以テ之ヲ蔽フ次キニ父母、親族、朋友ノ順序ヲ以テ兒童ノ頭上ニ清メノ水ヲ灌ク終レハ兒童ハ濡レタル袍衣ヲ去リ其有スル衣服ノ中尤モ華麗ナル衣ニ更ヘテ(或ハ一時之ヲ賃借スルコトヲ得)上座ニ就ク兒童ノ周圍ニハ天神ニ獻センカ爲メ堆高ク米、果實、花及ヒ種々ナル物ヲ積ム樂隊奏樂ヲ始ムルヤ行列ヲ作りテ五度兒童ノ周圍ヲ繞ル各人點燈シタル蠟燭ヲ持チ五度目ノ回轉ヲ終ル時之レヲ吹キ消シテ其烟ヲ兒童ノ方ニ追フ烟天蓋ヲ周レハ兒童ハ勇氣ニ滿チ終生幸福ニ終ハル可シト謂フ

以上ノ經過ニ依リ兒童ハ其受クル尊敬ヲ以テ喜フヨリハ寧ロ迷惑セリト雖第二ノ式ニ移レハ大ニ満足ス可シ即チ親族及ヒ朋友ハ各自其財産ノ多寡ニ應シテ金錢ヲ兒童ニ贈ル故ニ若シ其兒童ニシテ富裕ナル親族ヲ有セハ巨額ノ金錢ヲ獲ルコトアル可シ是レ兒童ニ限ラス何人モ亦喜フ所ナランカ此寄贈ノ金

額ハ不同ニシテ殆ント半「クラウン」ヨリ十磅ニ至ルコトアリ然リト雖モ之ヲ以テ式ハ全ク終ハレリト爲ス可ラス何トナレハ長ク樂シキ祝宴カ大切ナル儀式ノ結末トシテ缺ク可ラサルモノナレハナリ而シテ先ツ饗應セラル、ハ僧侶ニシテ僧侶終レハ他ノ人爭フテ馳走ニ與カルカ如シ貧ニシテ且ツ朋友ヲキモノハ或ル寺院ニ行キ僧侶ニ乞フテ其房髪ヲ剪ム之ニ反シテ富者ハ朋友ヲ饗應シ又ハ兒童ニ寄贈スルカ爲メニ巨額ノ金錢ヲ費スコトアリ此ノ如キ場合ニ於テハ王妃ニ對スル贈金一萬磅ニ上ルコトアリト謂フ

此ノ切リタル髪ヲ長短ノ二束ニ分チ短髪ハ車前ノ葉ヲ以テ作レル小舟ニ載セテ干潮時ニ最近ノ河流若クハ運河ニ流ス而シテ髪ハ共ニ其前所有者ノ有セシ惡性ヲ運ヒ去ル可シト謂ヘリ斯クテ剃髪セル兒童ハ人生ニ新シキ出發點ヲ得テ其惡性ヲ一掃ス可シ其長髪ハマウント、フラバートノ靈丘ニ於ケル佛陀ノ足跡ニ巡拜スル迄之ヲ保存シ其足跡ヲ拂フ處ノ刷毛ヲ造ル爲メ之レヲ寺院ニ獻スト云フ其足跡ハ其大サ其形共ニ「バス」ノ如シ

第十四章 家屋

家屋ハ木造ニシテ礎高シ是レ雨季河水ノ氾濫ニ備フルカ爲ナリ乾燥期ニ於テハ家禽ヲ其床下ニ飼養ス

主ナル建築材料ハ「チーク」及ヒ竹ニシテ「チーク」ハ極メテ堅キ樹ナルカ故ニ濕氣ヲ感セサルノミナラス所謂白蟻(White ant)ノ害ヲ蒙ルコトナシ固有家屋ノ床ハ「チーク」板ニシテ一般ニ用ヒラル、ハ竹床ナリ此竹床ノ間隙ヲ通シテ下方ヨリ來ル空氣ハ室内ヲ冷涼ナラシムルノ効アリト雖モ之ト同時ニ最モ厭フ可キ惡臭ヲ伴ヒ來ルヲ常トス是レ其間隙ヨリ少ナカラサル飲食物ノ殘屑ヲ床下ニ投棄シテ腐敗セシムルカ爲メナリ

家屋ハ一般ニ奇數ノ室ヲ有シ小家屋ト雖モ必ス三室ヲ有ス座敷、寢室、臺所即チ之ナリ此ノ臺所ニ就テハ後章ニ述フル所アルヘシ座敷ニハ椅子ナク机ナク「ピアノ」若クハ額面ナク床上座スル處ノ筵以外更ニ何等ノ裝飾アラサルナリ來客ニハ先ツ茶呑茶碗ヲ以テ茶ヲ進ム又來客ニ進ムル主ナル茶菓子ハ檳榔子、果實、小機欄ノ實ニシテ胡桃ノ缺乏スル憂ナカラシカ爲メ家屋ヲ建築スルニハ機欄ノ森ニ近キ土地ヲ撰定ス檳榔子ハ口熱ヲ去ル可キ清涼劑トシテ士民ノ日常生活ニ缺ク可ラサルモノ薑黃、「セリー」葉、石灰及烟草ト共ニ之ヲ食ス之ヲ嚙メハ紅血ノ如キ唾液ヲ生シ木石ニ投スレハ容易ニ擦リ去ルコト能ハル汚血ノ斑點ヲ殘ス故ニ痰壺ハ到底缺ク可ラサル家具ニ屬スサレハ搖籃ヲ搖ル母ノ側、學校ニ於ケル先生ノ傍、法廷ニ於ケル司法官ノ側、殿堂ニ於ケル朝夕ノ梵唄勤行席タル僧侶ノ傍、玉座ニ在ル王ノ側ニモ之アルヲ觀ル而シテ其齒ノ黒クナルヲ貴フ宜ナル哉白色ノ齒ヲ有スルモノハ犬ニ似タリト云

フ俚言ノ存スルコトヤ、盤谷ニ於ケル亞米利加ノ齒科醫ハ賈造ノ黒齒ヲ販クアリ固有ノ齒ヲ失フモノハ此黒齒ヲ求メテ以テ爲メニ其容貌ヲ害スルコトナキヲ得ト

次ノ室ハ寢室ニシテ又物置部屋ニ使用セラレ又家屋ノ一人カ疾病ニ罹リタル場合ニ於テハ數多金色ノ佛像ヲ安置スヘキ室トモ爲ルコトアリ室内一ノ寢寮ナク人ハ床上一種ノ筵ニ臥シ此室ヲ繞ラスニ蚊ヲ防クヘキ帳ヲ以テス此ノ蚊帳ナクシテ寢ルコトハ到底不可能ナリ而シテ寢ル時ハ西ニ頭ヲ向ク可ラス何トナレハ太陽ハ日々西方ニ没スルカ故ニ西方ハ不吉ノ方角ナリト爲セルカ故ナリサレハ眠ル者ハ必ス南又ハ北ヲ枕ニシテ寢サル可ラス而シテ是レヲ以テ暗黒ナル夜間ニ於ケル惡魔ヲ除クヘキ最良ノ方法ト爲ス

家屋ノ壁及ヒ床ハ木造ニシテ家屋ハ「アツタツブ」櫻桐ノ葉ヲ以テ葺ケルカ故ニ乾燥季ニ入レハ住家ノ各部ハ極度ニ乾燥ス故ニ若シ浮浪ノ徒之ニ放火セハ忽チ大火ト爲ルヤ必セリ是レ暹羅ニハ一ノ消防隊ナク假令之アリトスルモ公共給水ノ設備ナキカ故ニ何等其ノ用ヲ爲サ、ルカ故ナリ火災起レハ武裝ノ兵小銃ノ代リニ斧ヲ携ヘ火災場ニ趣クヤ速ニ其周圍ノ家屋ヲ破壊シテ以テ延焼ヲ防ク

暹羅人ハ少クトモ一日ニ二三回入浴シ其身體ノ汚ル、ヲ厭フコト深キカ故ニ清潔ナル國民ナリト雖其住家ハ決して清潔ナラサルナリ家屋ハ塵埃ヲ以テ日ニ汚レ各種ノ昆蟲ハ隙間ナク集ヒ蚊帳ハ寧ロ蚊カ

恐レテ入ルコト能ハサル程不潔ニ又管テ床又ハ壁ノ塵ヲ掃フコトナク祝融起リテ家屋、殘屑若クハ動物ヲ燼滅スルカ如キ場合ヲ除カンカ何等大掃除ノ如キ清潔法ノ施行ヲ見サルナリ

白壁瓦葺ノ如キ家屋ハ外郭ハ勿論室内ノ構造ニ至ル迄本邦家屋ノ建築法ト酷似セルヲ觀ル殊ニ土藏ノ錠前及僧侶ノ用フル雪駄ノ如キ本邦ノモノト同一ナル轉ニ祖先ノ近邇ヲ想見セシム而シテ斯ク人種及ヒ風俗習慣ノ接近セル結果ニヤ一般暹羅人ノ本邦人ヲ親愛スルハ寔ニ豫想外ニシテ現ニ國王陛下ノ如キモ全然英國式ノ教育ヲ受ケラレタルニモ拘ハラズ夙ニ日本ヲ好ミテ痛ク西洋ヲ嫌ハセ玉フトカヤ殊ニ日露戰爭ニ於ケル大捷ノ影響トシテ暹羅國上下ノ人心ハ著シク日本人敬愛ノ度ヲ高メ來リタリト宜ナル哉戴冠式第三日國民代表者ニ對スル國王ノ謁見ハ歐羅巴人及ヒ日本人ヲ同一ノ假屋ニ於テシ支那人及ヒ印度人ヲ他ノ假屋ニ於テセラレタルコトヤ是レ盤谷ニ於ケル支那人印度人ノ多クハ勞働若クハ商業ニ從事スル等其地位ノ卑キニ因ルモノ然モ歐洲列強對ロスチヤイルド家ニ於ケルカ如ク盤谷ノ全權ヲ掌握セルハ寧支那人ニ外ナラサルカ如キ豈ニ一考ノ値ナシトセンヤ

第十五章 衣 食

暹羅人ノ住屋ニ於テ缺ク可ラサル第三ノ室ハ日常ノ二回ノ食事ヲ調理ス可キ寮所ニシテ歐式ノ如キ竈

ナク又火床ナシ食物ハ一般ニ土製ノ木炭爐即チ七輪ヲ以テ烹煮ス各家皆此炭爐ニ三ヲ有セリ
 主タル食物ハ米ニシテ之ヲ炊ク方法ハ全ク本邦ニ異ナラス「ライス、カレー」ノ各種ヲ製ルニハ野菜果
 物及ヒ魚ヲ用ヒ献立ニハ蛙、小海老、乾魚其ノ他ノ雜品ヲ主トス「カレー」ハ總テ酢、胡椒及ヒ香強キ
 藥味ヲ以テ白露鶏若クハ乾葡萄酒入り饅餅ノ食物ヲ甚シク調味スルノ習慣アルカ故ニ全然風味ニ對スル
 ノ嗜好ナキカ如シ又普通ニ使用スル「ソース」ノ一種ニハ乾小海老、黒胡椒、大蒜、洋葱、「シトロン」
 液、「ジンジャー」及ヒ鹹水ヲ調味セリ、家族ノ者食事セントスルトキハ皆床上ニ踞リ米飯ノ大鉢ヲ中
 心トシテ輪ヲ成ス飯鉢ノ側ニハ「カレー」ノ小盤ヲ列ネ各人大ニ勉ム何トナレハ最モ速ナル者最モ多量
 ニ食フコトヲ得ヘケレハナリ嘗テ肉又、小刀ヲ用ヒス往々ニシテ又匙ヲ缺クコトアリ此ノ場合ニ於テ
 ハ指ヲ以テ匙ニ代用ス而シテ何等不便アルコトナシ固ヨリ之カ爲メニ指ノ汚ル可キハ勿論ナリト雖モ
 速ニ口中ニ投シテ巧ミニ舐メ清ムルコト極メテ容易ナリ

調理ノ皿數ハ二三ニ過キス從テ調理ノ方法極メテ簡短ナルカ故ニ家族ノ者ハ父母及子供共ニ皆料理法
 ヲ知ル一日二食ニシテ一食ハ朝一食ハ早夕ナリ其間ニハ茶ヲ飲ミ烟草ヲ喫シ檳榔子ヲ嚼ム食事ノ時間
 ハ寧ロ不規則ニ若シ食慾盛ナル者食事時迄待チ兼スルトキハ直ニ飯ヲ炊キテ食ス富家ニ在リテハ男子
 先ツ食シ妻子之ニ次キ最後ノ殘物ハ皆犬ニ與フ



四、紫紺 五「シヤキ」六「ネーブル」十、無花果
 十二「ザエーリア」十六、林檎「十八「マヨース」

十九「マヨース」ナット
 二十「マヨース」ナット
 二十一、葡萄
 二十二「マヨース」ナット
 二十三「マヨース」ナット
 二十四「マヨース」ナット
 二十五「マヨース」ナット
 二十六「マヨース」ナット
 二十七「マヨース」ナット
 二十八「マヨース」ナット
 二十九「マヨース」ナット
 (此外ノ名目未定)

尾品即チ食後ノ添品ハ各種ノ果實ニシテ多クハ本邦ニ見サル所ノモノナリ其ノ最モ普通ニ食スルハ若
イ「コ、ナツト」熟シタル甘蔗、椀果、(「テレメン」油及ヒ胡蘿蔔ヲ混セタルカ如キ味アリテ最初ハ之ヲ
喫スルコト難シト雖モ勉メテ食スレハ後ニハ林檎若クハ梨ト同様大ニ滋味アルモノナルコトヲ覺ユル
ニ至ルヘシ)山竹果(深紅色ノ殼ノ中ニ美味ナル雪ノ如ク白キ球實アリ)「デューリアン」(溝泥ノ如
キ惡臭アリト雖モ慣ルレハ草莓、氷砂糖、蜂蜜其他種々ノ味ヲ混セタル如キ美味アリ)「マンコーチン」
等ナリ就中本邦人ノ嗜好ニ適スルヲ「マンゴースチン」ト稱ス「バナ、」、「ジャボン」味美ニシテ柑橘類
ハ一般ニ實軟シ

食事終レハ各人自ラ碗ヲ洗ヒ再ヒ之ヲ使用スル迄半ヲ垂ラシテ乾カス爲メニ室ノ隅ニ在ル筥ノ中ニ之
レヲ伏ス

衣服ハ甚タ簡單ニシテ何等ノ流行ナシ是レ元來熱帶ノ氣候ニ對シテハ裸體最モ適當ナレハナリ極メテ
幼少ナル兒童ハ珊瑚若クハ念珠玉ノ頸飾ノ外何等衣服ヲ纏フコトナシ而シテ衣服ハ唯體ノ上部ニノミ
之ヲ被ルコト上國王ヨリ下庶民ニ至ル迄老幼男女皆然ラサルナク其形ハ繪若クハ寫眞等ニ見ルカ如ク
襪ノ如キ半股引ニ類シ「バス、タオル」ノ如ク同型ノ纏縮アリ然モ水泳、沐浴ニ際シテモ猶ホ之ヲ離ス
コトナキハ感ス可シ之ヲ體ニ纏フ方法ハ筆紙ニ盡シ難シト雖モ一言スレハ留針、釧、紐若クハ何等ノ結

付ケナクシテ所謂「パースーング」(Pansong)ヲ纏フコト極メテ容易ナリ而シテ之ヲ着ケ走り、眠リ、泳ク可ク又常ニ冷シク着心地善キカ如シ之レ都鄙ノ論ナク唯一ノ國服ナリト雖モ白人ノ居留地ニ於テハ或ハ白「リンネル」ノ上衣ヲ着習フモノアリ、サレト頸ニ釦ヲ附ケタルノミニテ襟又ハ襯衣ヲ用ヒヌ又歐羅巴人カ其使用法ヲ教ヘタル個處以外靴若クハ長靴ヲ用フルモノナク足ノ裏ハ^{オシカハ}鞣皮ノ如ク堅クシテ足ヲ傷クルコト稀ナリ

婦人ハ體ノ上部ニ色アル頸飾ヲ用フ所謂「パホム」(Pahom)即チ是ナリ是暹羅ニ於ケル唯一男女ノ區別服裝ニシテ帽子ト雖モ店番ノ婦人カ用フル麥莖製ノ高帽子(其觀恰カモ「バケツ」ヲ逆ニシタルカ如シ)ノ外何等帽子ト稱ス可キモノナク而シテ其男子ト同シク散髮セルハ奇ニシテ醜ト謂フ可シ現今日本ヨリ歸朝セル留學女子ノ結髮ニ習ヒテ束髮ノ貴婦人社會ニ流行スル兆アリトカ俗ニ之ヲ日本髮ト稱セリ、「パースーング」及ヒ「パホム」ハ共ニ輝ケル着色ノ材料ニテ製レルモノ殊ニ「パホム」ニハ金銀珠玉ヲ鏤ムルヲ以テ例トス從テ暹羅人集團ハ常ニ繪ノ如キ觀ヲ呈ス國中ニ流行スル數多ノ迷信ノ一ニ依レハ週ノ各日ハ皆特殊ノ星ニ依リテ支配セラル、カ故ニ其日ノ幸運ヲ祈ランカ爲メ各人皆當日ノ星ト同色ノ衣服及飾玉ヲ用フルノ習慣アリ而シテ富者ハ實際ニ此ノ習慣ヲ勵行シ日曜ニハ太陽ニ因ンテ紅絹ノ衣服ト紅寶石、月曜ニハ月ノ日ナルヲ以テ白色ノ衣服ト月長石、火曜ニハ火星ノ日ナルニ因リ光

紅色ノ衣服ト珊瑚、水曜ニハ水星ノ日ナルカ故ニ綠色ノ衣服ト綠柱石、木曜ニハ木星ニ綠アル縞ノ衣服ト猫眼石、金曜ニハ金星ナルカ故ニ銀青色ノ衣服ト金剛石、土曜ニハ土星ナルヲ以テ黒青色ノ衣服ト青玉ヲ裝フヲ常トス

衣食住中最モ不便ヲ感スルハ飲料水ノ缺乏ニ在リ土人ハ常ニ湄南河ノ濁流ヲ汲ミ明礬等ヲ用ヒ澄マシテ飲料ニ充ツルト雖モ一般ニハ各戸皆共ニ數多ノ水甕(土製ニシテ之ニ容ルレハ水澄ミテ冷蔵ニ適スルカ故ニ腐敗ノ恐ナシト)ヲ備ヘ雨季之ニ天水ヲ取リテ次期ノ雨節(二三月ノ交)迄之ヲ保存シテ凌クト云フ現ニ本邦公使館ニモ此等ノ「タンク」ヲ備フルヲ見ル固ヨリ盤谷水道ノ敷設工事ニ關シテハ殊ニ昨年來公債ニ係ル特別會計歳出豫算ヲ高メ來リ本年度ニ於テハ二百一萬一千三百九十九銖ノ工事費ヲ計上シタルカ如キ銳意之カ完成ニ努メツ、アリト雖水源トシテハ尙且ツ湄南ノ上流ヲ撰ブノ外ナク然モ甚シキ濁流汚水ナルヲ以テ漉過ニ關スル特別設計ノ必要アル等前途ニ横ハル種々ノ困難ハ之カ實現ヲシテ益ニ遲延セシムルヲ如何、サレハ^{Artesian well water}井水(Artesian well water)供給ノ方法ヲ講シ現ニ本艦盤谷碇泊中ハ此供給ヲ受ケタリト雖供給力小ナルカ如キ未タ盤谷ノ文明府タル將來ヤ遠シト謂ハサル可カラ

第十六章 漁 撈

佛教ノ主タル戒律ノ一ハ殺生ノ禁戒ナリ(Thou shalt not kill)而シテ之レ當ニ人類ノ生命ニノミ關スルニアラスシテ總テノ動物例ヘハ蚊、蚤、蠅ノ微ヨリ象ノ大ニ及ホスヘキ信條ナリ此ノ戒律ヲ設ケタル理由ハ前既ニ述ヘタルカ如ク人ノ靈魂ハ他體ニ宿リテ再生スヘキモノニシテ其體或ハ動物ナルヤモ圖ラレサルヲ以テノ故ナリ

サレハ若シ蚊ヲ殺サンカ或ハ自己若クハ他人ノ長逝シタル親族ヲ殺スコト、ナルヘキカ故ニ此ノ信條一般ニ嚴守セラルヘシト雖モ然モ漁リノ場合ニ於テハ此ノ信條ノ無視セラル、ヲ觀ル是レ暹羅人ハ漁リハ魚ヲ殺サスト云フ基礎ニ於テ自ラ之ヲ容ルス詳言スレハ人ハ唯、河水ヨリ魚ヲ離スニ過キスシテ魚ノ死スルハ自然ノ結果ナリト信スルカ故ナリ

南方暹羅ニ於テハ漁ヲ以テ人民食物ノ至要部分ヲ獲ルノ途ト爲シ北方暹羅ニ於テハ之ヲ以テ愉快ヲ貪ル輩ノ贅澤事ト認ムルカ如シ何トナレハ北方ノ河ニハ魚ノ稀ナルカ故ナリ而シテ北方暹羅ノ河流ニ魚ノ少ナキ理由ハ乾燥季ニ於テハ河水淺少ニシテ魚ノ住ムニ適セス又濕潤季ニ於テハ激雨ニ依リテ汎濫シ流急勢ニシテ下流ニ魚ヲ驅逐スルニ歸スルカ如シ

漁獵ニ使用セラル、種々ノ方法中都合善キ手段ハ大陷罪ノ使用ニシテ陷罪ハ本邦琵琶湖ノ南淺ニ多ク見ル所ノモノト大差ナシ又運河中ニ大扁平ナル草葉ヲ以テ延長數哩ニ亘ル樞ヲ作り一年ニ一二回之ヲ四方ヨリ圍ミ網ヲ以テ其下ニ隠レタル魚ヲ漁スルコトアリ、サレハ魚ハ神聖ナル寺院前ノ河岸以外遊カル、コト能ハス寺院ノ前面ニ於テハ總テノ生物禁獵ナルカ故ニ魚ハ安全ナリ捕魚ニ使用スル普通ノ網ハ圓形ニシテ本邦ノ投網即チ之ナリ、之カ使用ノ許可ヲ得ント欲セハ各網ニ付十四「ペンス」ノ納稅ヲ要ス此國ニハ小海老多ク之ヲ捕フルニハ目ノ小サキ網ヲ用ヒ二船ノ間ニ之ヲ張リテ岸ニ曳ク、小海老ハ鹽ヲ加ヘテ搗テ粉ニシ「ヒシコ、ソース」ノ如キ滋味アル藥味ヲ製シ新嘉坡、香港及ヒ瓜哇ニ輸出ス之レ馬來人及ヒ支那人ノ大好物トスル所ナリ

胎貝及ヒ其他ノ貝ハ水中ニ棒ヲ投シ之レニ附着セシメテ漁スルヲ常トス
捕魚ノ一法トシテハ水ニ白色板ヲ浸シ夜中空舟ウツボネヲ岸ニ近ク漕キ上レハ木板ヲ越ヘントシテ水上ニ躍ル魚ヲ他ノ舷ヨリ差出セル網ニテ掬ヒ二三听ノ鮮魚ヲ獲ルコト極メテ容易ナリ然レトモ瀧壺ノ魚ハ之ヲ捕フルコト能ハサルカ故ニ常ニ魚鱗ノ潑刺トシテ躍ルヲ見ル若シ河岸ニ立ツテ躍ル群魚ノ噪響ヲ聞カハ或ハ岸ニ打寄スル波浪ノ音ト疑フコトアル可シ

河魚ノ外最モ普通ナル海魚ノ一種ハ「フラ」、チユニシテ大サ略ミ鯡ノ如シ其味生ナレハ鱈ニ類シ干

物ナレハ干鮓ニ似タリ北東半年風季ノ間暹羅灣ニ於テ之ヲ漁ス漁船ハ早朝ニ歸來シ魚ヲ水牛車ニ移シ田舎ニ送ル而シテ之ヲ洗ヒ鰓、腸其他無用ノ雜物ヲ去リテ強キ鹽水ニ漬ク其片屑ノ混合物ハ後ニ魚「ソース」トシテ販賣ス

又水ヨリ出テ、粘土中ニ匍廻ハル泥魚アリ或ハ岸ノ下ニ隠レ時ニ水上ニ舞フ蠅ヲ取ラントシテ躍ル所ノ魚鱗アリ魚類ハ海河共ニ肉弛クシテ味美ナラス殊ニ河魚ハ一種ノ臭氣ヲ有スル等到底吾人ノ嗜好ニ適セサルナリ

第十七章 米

米ハ暹羅國最要ノ收穫ニシテ其産額ハ百萬噸ニ達シ（八十萬噸ヨリ九十萬噸ノ間ヲ上下スルヲ普通トス）上天子ヨリ下庶民ニ至ルマテ殆ント各人唯一ノ食物ナリ馬、鶏、犬及ヒ猫亦皆米ヲ喰フ以テ「ピール」若クハ酒精ヲ作り或ハ炊キ「フライ」ニシ煮且ツ炕キテ「カレー」ニシ菓子又ハ「ソース」ニシテ之ヲ食シ凡テノ祝祭ニハ信仰ノ聯結ニ依リテ米ヲ用ヒ耕作季ノ始終ニハ特殊ノ祝祭ヲ催ス富家ハ稻田ニ資本ノ大部分ヲ投下シ司法官ハ稻田ニ關スル繫争事件ニ時ノ大部分ヲ費ス人何等語ル所ノ材料ナケレハ來ル可キ米穀收穫ノ豊凶ニ就テ談話ス之レ恰モ吾人カ天候ニ就テ話スト同一ナリ河流ヲ上下スル船



暹羅ノ米田

舟ノ大部分ハ米ヲ運ヒ港ヲ出ツル汽船ノ大半ハ此ノ產物ヲ他國ニ輸出スルヲ常トス而シテ其價格ハ三千餘萬圓ニ達スト云フ

流石ハ大陸トテ西北國境ニ至ルマテ一目千里ノ茫々タル大平野唯南方馬來半島ニ通スル咽喉トシテアラバトムノ一小丘アルニ過キス、サレハ全國稻田ノ開拓自由ナリ而シテ國土ハ舉ケテ國王ノ領有ナリト雖モ之ヲ耕作セント欲スルモノハ何人ト雖モ叢林ニ往キ長草荆棘ヲ燒キテ地面ヲ開拓スルコトヲ得可シ若耕夫ニシテ其土地ニ對スル地代ヲ拂ハサル時ハ所有者ハ直ニ之ヲ罰スルコトヲ得ルト同時ニ他方政府ニ對シテ一定ノ租稅ヲ納メサル可ラス農夫ハ小ニシテ一人平均約三十五反ノ比例ニ過キスト雖モ皆安樂ニ家族四五人ノ家計ヲ支ヘ得ヘシ

土地ヲ開拓スレハ之レヲ犁クニ便ナル所ノ雨季ヲ待ツ鋤ハ木製ニシテ深サ約二吋幅約五六吋ノ淺溝ヲ犁ク可ク彎曲線ニ沿フテ測レハ時ニ或ハ尖頭迄八九呎ニモ達スルカ如キ兩角ヲ有スル所ノ水牛之ヲ曳ク田地ヲ犁キ終レハ數多ノ齒ヲ有スル竹製ノ方形耙ヲ以テ土ヲ搔キ粘泥ト爲スコト本邦耕耘ノ方法ニ異ナラス

米ハ水田ニ生ス水ノ供給ハ一方降雨ニ由リ他方河水ニ賴ル而シテ洪水ハ水ヲ供給スルノ外豊壤ヲ留メテ肥料ヲ用フルノ必要ナカラシム

米ノ種類四十アレトモ普通ニ作ルハ約六種ニ過キス農夫ハ之ヲ大別シテ野米ト作米トス野米ハ種ヲ田野ニ撒播シテ自然ノ生長ニ放任シ作米ハ苗代ニ種ヲ播キテ苗ヲ作り之ヲ稻代ニ移植シテ始終ノ手ヲ入ルルコト本邦耕作ノ方法ニ異ナラス働手ニシテ四段餘リ植フルニハ三日ヲ要スト云フ

米ヲ刈ル方法ハ稻田ノ状態ニ依リテ異ナリ田地乾燥ナレハ鎌ニテ莖ヲ刈リ束ネテ之ヲ滑車輪ニ積ミ更ニ水牛車若クハ牛車ニ依リテ之ヲ運フ稻田ニ水アレハ船ヲ浮ヘ鎌ニテ穂ノミヲ刈ル若シ刈手ニシテ不注意ナレハ穂ヲ水中ニ落スヘシ斯クテ殘存スル莖ハ水乾レタル後之ヲ燒ク

穀打ヲ爲スモノハ水牛ニシテ其場所ハ土、牛糞及ヒ水ヲ混シテ固メタル漆喰ノ上ニテ中心ニ結ヒ付ケタル棒ノ兩端ニ水牛ヲ配シ四運動ヲ起サシメ以テ水牛ニ穀ヲ踏ミ付ケシム穀打ハ多月夜ニ行ハル陽氣ニ且ツ面白キカ故ニ兒童モ眠ラスシテ藁ノ間ニ遊ヒ提琴銅鑼及ヒ太鼓ノ響ニ連レテ篝火ノ周圍ニ舞フ其兩親ハ徹夜煙草ヲ啣ヘ青光ヲ放ツ螢飛ヒ交フ間ニ談笑シ穀打終レハ農夫ハ收穫ヲ祝スル爲メ隣人ヲ饗應シ米ハ漆喰上平カニ之レヲ擴ケ藁ハ稻堆トナシ周圍ヲ繞ラスニ惡魔ヲ攘フ可キ神聖ナル白絲ヲ以テス

米ヲ簸ルニハ木ノ鋤ヲ以テ掬ヒ之ヲ空中ニ投スルカ、然ラサレハ一ノ淺廣ナル器ヨリ他ノ器ニ移ス去レハ風能ク稔ヲ吹去リテ米粒ヲ殘ス、米舂ハ普通自家ニテ之ヲ行フ之ヲ舂クニ踏臼ヲ用フルコト本邦

ニ於ケルト同一ナリ若シ田舎ニ行カンカ踏臼ノ音晝夜間斷ナク響クヲ聞カン然レトモ赤米ハ勿論白米ニシテモ粘氣乏シク惡臭ヲ帶フルコト甚シキカ故ニ本邦人ノ食料ニ適セス而シテ熱帶地ノ氣候ヨリ觀レハ年ニ二回若クハ三回ノ收穫ヲ得可キカ如キモ耕耘ノ時期トシテ待ツヘキハ一年唯一度ノ雨季ニ外ナラサルカ故ニ收穫モ亦自然ノ制限ニ依リテ年ニ一回ヲ越ヘス在府中ノ精米所三十三、工場ノ大ナルハ一萬ノ職工ヲ有ス

農業ニ次ク産業ハ林業ニシテ北方山地ノ「チーク」伐採ヲ第一トシ年輸出金額ハ六百萬圓内外ニ達ス其ノ他各地ニ金、銀、銅、鐵、錫、石油、石炭、硝石、各種寶玉等ノ礦產物アリ多クハ歐人ノ經營ニ任セリ

之ヲ要スルニ暹羅ニ於ケル各産業ノ資源ハ實ニ豊富ヲ極メ一トシテ有望ナラサルモノナシト雖モ其ノ振ハサル所以ノモノハ一ニ道路鐵道等交通機關ノ發達セサルニ在ルヲ觀ル

第十八章 祭典

米ハ暹羅國民ノ生命ナリサレハ年歲耕作開拓ノ時ニ當リテ大切ナル祝祭ヲ行フコト決シテ理ナキニ非ラサルナリ之レ即チ田作祭ニシテ此祭ヲ行ハサレハ人民皆耕耘ノ開始ヲ思惟スルモノナシ農業國ノ耕

作祭ヲ重視スル又宜ナル哉

四五月ノ交雨節來レハ農夫耕作季ノ到來ヲ知ル而シテ占星家先ツ田作祭ノ吉日ヲトスルヤ人皆爭フテ其日ノ至ルヲ待ツ何トナレハ序テ來ル可キ收穫季ノ豊凶ヲトス可キ緊要ナル當日ナレハナリ

此祭典ヲ統管スルハ國王ノ御名代タル王族ニシテ當日ハ戴冠式第三日古代式行列(Ancient coronation procession)ニ見ルカ如キ尖塔形ノ王冠ヲ着ケ王傘ヲ戴キテ此式ニ列ス此ノ王族ハ租稅一部ノ徵收權ヲ有ス或ル時代ニ於テハ其個人的從僕スラ猶其鹵簿ノ通過スル沿道ノ店ヨリ無償ニテ貨物ヲ徵集スルコトヲ許サレタルコトアリト云フ

當日朝王族ハ錦衣ヲ纏ヒ更ニ金銀ヲ以テ果實及ヒ花ノ刺繡ヲ凝ラセル白網ノ長羽織ヲ裝ヒ金色ノ椅子ニ座ヲ構フルヤ八人ノ強力之ヲ肩ニ擔ヒ貴族ノ一團之ニ從ヒ或ハ祝祭日ノ成功ニ必要ナリト思ハル、所ノ珍物ヲ運フ中ニハ大團扇、飾花ノ劍及ヒ頸邊ニ美香花ヲ纏ヘル小金牝牛等アリ

御椅子ノ前面ニハ緋衣ヲ着ケ太鼓ヲ打ツモノアリ舊式軍裝ノ陸兵、黃色袍ノ僧侶、錦衣ヲ纏ヘル貴族及ヒ晴衣ヲ着ケタル各階級ノ男女等徐ロニ御椅子擔夫ノ前面ニ沿フテ進ム其後ニハ角笛及ヒ法螺貝ヲ吹奏スル所ノ數多僧侶從ヒ最後ニ見物人ノ長キ行列續ク

行列郊外ニ行キ竹、「アツタツブ」ノ葉板及ヒ汚レタル紅白ノ幕ヲ以テ作レル舞臺ニ入ル此假舎ノ前面ニハ地上ニ三本ノ竹ヲ樹テ以テ王族ノ耕作ス可キ區劃ヲ定ム又小舎ノ近クニハ鋤ヲ曳クヘキ牡犢アリ假舎、小舎及ヒ舞臺ノ周圍ニハ人ヲ欺罔シテ祭典ノ進行ヲ阻碍セントスル惡魔ノ侵入ヲ防クヘキ神聖ナル白絲ヲ張り耕作區域ノ地面ニハ「リボン」及ヒ花ヲ以テ飾リタル鋤ヲ備フ

御名代到着スルヤ三枚ノ衣物ヲ獻ス其衣物ハ巧ニ摺ミテ殆ント同一ナルカ如ク見セタルモノナリト雖モ各其長サヲ異ニセリ御名代此ノ三着ヲ熟視セラレタル後其一ヲ撰定ス其最モ長キモノナランカ其年ハ雨少ナク蹊途「バーヌーング」ヲ垂ラスコトヲ得可シ之レニ反シテ最モ短キモノナランカ降雨甚シク耕夫皆膝ヨリ高ク「バーヌーング」ヲ紫ク可キヲ知ルヘシト云ヘリ斯クテ御名代ハ其撰衣ヲ身邊ニ纏ヒ耕作ノ用意ヲ整ヘ鋤ノ柄及ヒ長鞭ヲ取り竹ヲ以テ定メタル耕作區域ノ周圍ヲ九度廻ハリテ鋤ヲ導ク一貴族牡犢ノ前面ニ進ミテ地上ニ清メノ水ヲ撒ク三周ノ後數人ノ老婦出テ、式ニ加ハル此婦人ハ最モ老ヒタル婦人ヲ選抜シタルモノニシテ美服ヲ纏ヘル者當日ノ役目終ハレハ之レカ褒美トシテ其衣服ヲ賜フヲ例トス其擔ヘル金色棒ノ兩端ニハ金銀二個ノ籠ヲ吊ルシ中ニ神聖ナル米ヲ容ル、犁クコト猶三周ノ後御名代ニ隨ヘル老婦ハ左右ニ其種ヲ撒ク而シテ各人皆此ノ種ノ幾粒ヲ得ント勉ムルカ故ニ王族更ニ三周ノ後退場シテ神聖ナル白絲ヲ切ルヤ爭フテ亂入シ粒種ヲ拾得シテ之ヲ家ニ持チ返ル何トナレハ普通ノ種ニ交セテ播カハ其收穫大ナリト謂フカ故ナリ

然レトモ之ヲ以テ式ハ未ダ全ク終ハレリト爲ス可ラス何トナレハ猶大切ナル儀式ノ存スルモノアレハナリ、乃チ御名代ハ牡犢ヲ牽ヒテ小舎ニ行キ數多「バナ」、葉製ノ籠ニ種々ノ種ヲ盛リテ之ニ與フ若シ牡犢玉蜀黍ヲ喰ヒテ米ヲ殘サンカ其年ハ米凶作ニシテ玉蜀黍豐作ナリト謂フ斯クテ來ル可キ季節ノ天候ト穀類ノ豐凶ヲトスルコト實ニ此ノ式日ニ在リテ存ス

御名代ノ歸還セラル、ニ當テハ太鼓ヲ打チ角笛ヲ吹キ、陸兵、貴族及ヒ農夫ノ隨行セル鹵簿ヲ以テスルコト前述ニ同シ

古來此ノ祝祭ニ於ケル諺ヲ眞ナリト考フル者アリ教育ノ進歩ニ伴ヒテ漸次迷信ノ減退スルヤ必然ナリト雖モ全ク其跡ヲ絶ツヘキ曉ノ到來ハ猶幾十年ノ後ソ、何トナレハ之レ暹羅人カ一年唯一度ノ命ノ洗濯日トシテ喜ヒ祝フ極樂日ナルヲ以テナリ

第十九章 象

暹羅ノ主タル動物ハ象ニシテ北方及ヒ南方荒野ノ間ニ棲ム其ノ高サ或ハ十呎ヨリ十一呎ニ達スルモノアリ而シテ象ノ高サハ普通最大足ノ周圍ノ二倍ヲ以テ算スルヲ例トス

象ノ馭者ハ「マフート」(Muhoot)ト稱ス「マフート」象ニ乘ラントスレハ象ハ足掛ヲ作ル爲メ其右前足

ヲ屈ク人其ノ足掛ニ乗ルヤ象ハ急ニ其足ヲ引キ馭者ヲシテ其脊上ニ昇ラシム馭者ハ象ノ運動最モ鈍ク從テ最モ動搖少ナキ頸ニ跨リテ乘リ一端ニ鐵ノ鈎ヲ付ケタル棒ヲ携ヘ象若シ荒ルレハ此桿キ武器ヲ以テ殘酷ナル打撃ヲ加フルヲ例トス

象ハ多ク「チーク」ノ森ニ使役セラル長牙ヲ有スル牡象ニシテ能ク訓練セラレタルモノハ其價百磅ヨリ二百磅ニ及フ牝象ハ一般ニ使役セラレス且ツ總テノ象ハ氣候ノ熱キカ故ニ午前十時ヨリ午後三時迄ノ間ハ働カサルナリ、象ハ普通二十五才ヨリ働キ七十才ヲ以テ盛リトス故ニ此年ニ達スレハ半噸ノ重量アル木材ヲ牙ニテ捧ケ且ツ三噸アル木材ヲ地上ニ曳クコトヲ得ヘシ象ノ年齢ハ甚ク長ク百五十才以上ニ達スルモノアリ

森ニ於テハ樵夫重キ長柄ノ斧ヲ以テ樹ヲ截倒ス此ノ事業ハ多ク濕潤季ニ行ハル何トナレハ柔軟ナル地上ニ倒スニアラサレハ樹ヲ傷ムルノ恐レアレハナリ大木材ハ象之レヲ平行ニ竝ヘテ河流ノ方向ニ曳キ出ス小材ハ枕木トシテ大木材ノ下ニ置ク森ト河トノ距離ハ普通十哩ニシテ近キモ尙五哩ヲ出テス象ノ歩調ハ弛緩ニシテ一時間平均三哩ニ過キス象河岸ニ到着セハ木材ヲ積ミテ商人ノ評價ニ供ヘ次ニ之ヲ取リテ河流ニ投ス木材河ニ入レハ急流ニ浮ヒテ南方ニ送ラル

材木鋸木廠ニ到着スルヤ他ノ象之ヲ揚陸ス而シテ象ハ能ク自己ノ勤務ヲ了解スルカ故ニ殆ト「マフー

ト」ノ指揮ヲ要セサルナリ若シ午鐘鳴レハ忽チ其運フ木材ヲ放棄シテ嘯ケ出シ禱シ相ニ叫フカ如キ其
伶俐ナルコト恰モ學校ニ於ケル兒童カ終業ノ時間ニ報スル鐘ヲ聞テ校外ニ出ツルト異ナラサルナリ、
サレハ悪戯ニ於テモ甚タ巧ミニシテ或ハ夜中鐵鎖ヲ切ツテ遁走シ或ハ其意ニ適ハサレハ急ニ馭者ヲ地
上ニ投ケテ踏付ケルコトアリ又象ハ其怠惰ナル伴侶ヲ働カシムル爲メニ使ハル、コトアリ而シテ善良
ナル象ハ其大長牙ヲ怠惰ナル象ノ腹部ニ刺シテ以テ木材ノ運搬ヲ強フルコトアリ又象相闘フトキニハ
敵ノ尾ヲ狙ヒ之ヲ喰切ラントス

象ハ氣儘ニシテ拗ネ易キ動物ナリ即チ彼等ハ三日働キテ三日休ムヲ例トス象病氣ニ罹レハ丸藥ヲ眼中
ニ擦リ込ム眼ヨリ丸藥ヲ服スルモノハ恐ラク象ノミナラン象ハ少クトモ一日ニ一回沐浴ス又一木材ヲ
長距離ニ運フコトヲ好マス四分ノ三哩ヲ運搬セハ歸來更ニ他ノ木材ヲ運搬シ之レヲ一處ニ集メテ積ミ
上ケタル後復タ四分ノ三哩迄往復運搬ス象ハ橋カ安全ナルヤ否ヤ其一脚ヲ以テ檢シタル後ニ非レハ決
シテ之ヲ渡ラス又小馬ヲ驚カスコト甚シキカ故ニ暹羅ノ法律ニ依レハ馬ニ出會フタル象ハ道ヲ避ク可
キコトヲ規定セリ一二年前汽車象群ト衝突シ爲メニ汽罐車ハ三頭ノ象ヲ犠牲トシテ破壊シタルカ他ノ
象ハ之カ復讐ノ爲メニヤ爾來毎回群リ來リテ列車ヲ阻害シ大ニ車掌ヲ困却セシメタル珍事アリタリト
云フ野生ノ象性ヤ可憐ナリト謂フ可シ

年一二回舊都アイユーチヤニ象ノ大獵行ハル先ツ象ヲ集ム可キ大命下ルヤ數多ノ人禁獵區域タル平野
ヲ過キテ象ヲ市街ノ方向ニ追フ所在階級ノ人之ヲ觀ントシテアイユーチヤニ趣ク王族モ農夫モ歐人モ
亞細亞人モ僧侶モ俗人モ皆然ラサルナク各人皆興奮ス

慣レタル象ハ徐ロニ前方ニ進ミ先導者トシテ象群ヲ導ク象群ノ周圍ニハ槍ヲ携フル人ヲ乗セタル慣レ
タル象アリ象群先導ノ象ニ隨ヒテ河岸ニ到ルヤ之ヲ渡ルニ躊躇スト雖モ先導ノ象ハ範例ヲ示シ殿群ノ
象後ヨリ之ヲ從遊シテ皆河ヲ渡ラシム此間象群ノ信任ヲ得タル先導ノ象ハ群ヲ率ヒテ柵内ニ入り更ニ
門ヲ過キテ第二ノ柵内ニ進ム象群ノ中或ハ其陷穽ニ罹リタルヲ悟リテ引キ返サントスルモノアリト雖
モ門番ノ象ハ嚴然トシテ門口ヲ扼シ脊上ノ獵者巧ミニ其槍ヲ操縦スルカ故ニ終ニ遁走スルコトヲ得サ
ルナリ斯クテ捕虜ト爲レル象ハ之ヲ嚴重ナル壁ヲ以テ繞ラセル方形ノ柵内ニ運フ之レ獵象ノ第一日ナ
リ
翌朝ニ至リ六頭ノ象ヲ柵内ニ入レ各象ノ脊上ニ在ルモノハ二人宛協力シテ將來訓練ノ見込アルヘキ幼
象ヲ追ヒ用意ノ輪索ヲ其足ニ掛ケテ柱ニ繫ク斯クテ希望ノ象數ニ滿ツルヤ他ノ象群ハ之レヲ柵外ニ解
放ス幼象ハ慣レタル象ノ教導ニ依リ約三年間經過ノ曉ニハ其野性ヲ失ヒテ柔和ト爲リ以テ働クコトヲ
教育シ得ルニ至ルト云フ

十二州ニ於テ調査シタル象ノ數ハ二千餘頭ナリ(因ニ曰ク馬ハ三五、八〇〇頭牛ハ一、一〇四、〇〇〇頭水牛ハ一、一四四、五〇〇頭アリ)

第二十章 白象

暹羅ハ白象洲ト稱ス、サレハ白象ニ關スル注意ヲ缺カンカ之レ暹羅ニ關シテ完全ニ觀察シタリト謂フコトヲ得サルナリ

國旗ハ緋ノ地ニ白象ヲ印ス商船旆ハ青色ニ白象ナリ各官衙公署寺院殿堂皆此白象ノ彫刻ヲ裝飾トセリ昔時王ハ白象ヲ有セサレハ自ラ以テ王タラサルカ如キ觀念ヲ懷キタリシモノ、如ク從テ此ノ動物ヲ得ンカ爲メニハ如何ナル戰爭モ敢テ辭スル所ニ非サリシナリ本邦三種ノ神器ニ關スル古來ノ觀念ヲ想合スレハ思索ノ同一轍ナル思半ニ過タルモノアラシク暹羅ニハガウタマモ嘗テ一時白象ニシテ其母摩耶夫人ハ夢ニ天國ニ於テ其形ノガウタマニ會ヘリト云フ傳説アリ、又他ノ古譚ニ依レハ何時カ全地球ヲ支配ス可キ君王現ハルヘク而シテ其所有ス可キ七寶物中ノ一ハ白象ナレハ白象ヲ有スルナクンハ世界ノ王タルコト能ハスト云フ、サレハ暹羅人ハ象ヲ以テ過去ノ大人物若クハ未タ生レサル大豪傑ノ精靈ヲ宿シ必然ノ時ニ於テ將來一度ハ大偉人ト爲ル可キコトヲ信セリ

昔時ハ白象ノ所有ヲ臣下ニ許サス若シ臣民ニシテ敢テ之ヲ所有セント欲スル者アラシカ王ハ直ニ兵力ヲ以テ之ヲ攻メ徹頭徹尾白象ヲ奪ヘリ然レトモ嚴格ニ云ヘハ白象ナシ何トナレハ其色眞白ニ非ス唯多少普通ノ象ヨリモ白キノミニシテ其尾若クハ其頭下ニ白毛ヲ有スルニ過キサレハナリ

白象發見ノ報アラシ平上國王ヨリ下庶民ニ至ル迄歡喜措ク能ハサルモノアリ王ハ直チニ王族貴族ノ一隊ヲ送り絹絲ノ索ヲ以テ之ヲ捕ヘシメ馴象師之ヲ養育スル間侍臣之ヲ守衛ス人民ハ之ヲ見舞ヒ且ツ之ニ贈呈セントシテ國ノ八方ヨリ來集ス

其間宮中ニハ此白象ノ爲メニ家ヲ造リ家成ルヤ之レヲ迎フルニ公ノ儀式ヲ行ヒ王自ラ鹵簿ヲ統管シテ出ツ白象ニ會フヤ其前ニ膝キテ贈品ヲ獻シ終ツテ宮中ニ還幸ス象ノ新屋ニハ象ノ衣裳及ヒ金若クハ寶石ヲ以テ刺繡ヲ施シタル天鵝絨及絹ノ覆ヲ備フ象ノ頭ニハ其名及ヒ尊號ヲ記セル金札ヲ結付ケ之ニ附屬セシムルニ從僕ノ一隊、僧侶ノ一團、音樂隊及數名ノ舞踏女ヲ以テス象眠ラント欲スル時ハ僧侶睡眠ノ歌ヲ誦シ起キントスレハ舞踏女歌舞シ饑フレハ銀皿ニ盛ルニ最上ノ美食ヲ以テス然レトモ原則トシテ此怠惰安逸ノ生活ハ象ヲシテ短命ナラシム

此クノ如キ約三十年前ノ俗習モ現今漸ク之ヲ改メ行列ナク、守衛ナク、僧侶ナク、舞踏女ナク、厩壁半壞頽シテ屋脊塵ヲ以テ蔽ハレ冷酷ナル厩僕之カ飼育ニ當リテ食物亦粗惡ナリ

年毎一回僧侶神聖ナル水ヲ以テ象ヲ沐浴セシム是レ惡魔ヲ攘ハンカ爲メナリ、象死スルヤ之ヲ郊外ニ運ヒテ埋葬シ其牙ヲ收ム其死後三日間僧侶ハ象ノ屍中ニ祈願ヲ籠メ以テ其靈ノ再歸シテ害ヲ爲スヲ得サラシム

戴冠式第八日癸キニ捕獲シタル白象觀覽ヲ兼ネバンバイン (Bang-Pa-In) ノ離宮ニ藏セル支那ノ珍寶 (暹羅人曰ハク暹羅國ハ符テ支那ノ封冊ヲ受ケタリト云フハ否ナリ支那カ暹羅國ニ隸屬シタルノ事實ハ此貢獻ニ徴シテ見ルモ明カナリト然レトモ予ヲ以テ之ヲ觀レハ支那ノ貢獻ハ一ニ暹羅ノ貢獻ニ對スル返禮ノ獻品ニ外ナラサル可シト信ス) 觀覽ノ爲メアイユーチャニ臨時列車ヲ出ス可キ計畫アリタリト雖時日ナクシテ中止セラレタリ

第二十一章 行政

政體ハ君主專政ナリサレハ生殺與奪ノ權ハ國王ニ在リ國土ハ舉ケテ國王ノ財產ナリ而シテ未タ憲法ナキカ故ニ國家ノ統治機關ハ國王ノ四肢ニシテ大權流通ノ溝渠ニ外ナラス若シ之ヲ三權分立ノ主義ヲ採レル立憲政體國ノ統治機關ニ比センカ形式ニ於テハ大差ナシト雖其精神ニ至リテハ全然異ナル性質ヲ有ス

今中央行政機關ノ組織ヲ見ルニ内閣ノ制ハ明治二十五年四月一日ノ法令ニ依リテ定メラレ他ニ諮詢機關トシテ立法參議院ヲ設置セリ然レトモ國王ハ親ラ百般ノ行政ヲ綜攬セラル、カ故ニ別ニ總理大臣ナルモノヲ設ケス左ノ十一省ニ各大臣ヲ置クノミ

- 一、 内務省
- 二、 外務省
- 三、 大藏省
- 四、 宮内省
- 五、 陸軍省
- 六、 海軍省
- 七、 司法省
- 八、 盤谷省 (Local government)
- 九、 工部省
- 十、 文部省
- 十一、 農務省

各省大臣ノ職務権限ハ各國ノ例ニ比シテ大差ナシト雖王室ト國家ヲ同一視スル暹羅國政體必然ノ結果トシテ宮内大臣ヲ國務大臣トシテ閣議ニ列セシムルカ如キハ全ク其類例ヲ見サル所又盤谷大臣(所謂我日本ノ東京府知事ト東京市長ヲ兼ネタルカ如キモノ)ノ國務大臣トシテ重要ナル地位ヲ占ムルカ如キハ頗ル珍ニシテ殊ニ内務大臣ノ下ニ隸屬セシム可キ警視廳、盤谷州收稅署、衛生局、港務局等ヲ以テ盤谷大臣ノ管轄ニ置キ内務大臣ノ下ニ森林、鑛山ノ兩局ヲ設ケ工部大臣ノ下ニ建築及ヒ郵便、電信、電話、鐵道等ノ遞信事業ヲ屬セシメ文部大臣ニ宗教局ヲ隸シ農務大臣ヲシテ測量、土地記錄及灌溉事業ヲ管セシメタルカ如キハ暹羅國獨特ノ組織ナラスンハアラサルナリ

立法參議院ハ所謂貴族院ニシテ衆議院ナキ立法府ナレハ法律ノ制定ニ關シ國王ノ裁可ヲ受ク可キ法案ノ議定ヲ司ルモノ議長、副議長、書記官ノ外王族、國家ニ對スル功勞者若クハ特別ノ學識アルモノ、中ヨリ勅撰セラレタルモノ及ヒ各省大臣ヨリ成ル、議員ノ任免ハ國王ノ任意ニシテ現今議員ノ數ハ三十六七名ニ過キササルナリ

現今各省大臣ノ過半及ヒ立法參議院議員ノ半數ハ王族ニシテ暹羅ノ統治ハ即チ國王ノ家族的政治ナリ是レ專制政體必然ノ結果ニシテ全ク統治精神ノ立憲國ト異ナル所以ナリトス盤谷府中王宮及ヒ王族貴族ノ宏大ナル邸宅ハ實ニ歐風壯嚴ノ美ヲ極メ出入自働車ノ威風四圍ヲ拂フニ反シテ一般人民衣服住ノ

劣等ナル眞ニ隣ムヘキモノアルヲ認ム乃チ盤谷府ハ壯嚴ヲ中央ニ集メテ周圍醜陋ヲ以テ繞ラスカ如キ所謂玉ヲ包ムニ繼繼ヲ以テセルノ都會ニ外ナラス而シテ貴族ハ富裕ナルカ故ニ多クハ歐羅巴ニ留學シテ泰西文明ノ皮相的吸収ニ走セツ、アルニ反シ一般人民ハ無教育ノ蠢乎タル動物ニ外ナラサルカ如キ天壤ノ二極ニ懸隔セル貴族(爵位ハ凡テ一代限リ)平民ノ極メテ不健全ナルニ社會組織ニ外ナラス、サレハ一方ノ榮華ニ伴フ物價ノ高騰ハ他方人民ノ疾苦ニ堪ヘサル所若シ暹羅國眞乎ノ文明ト確乎タル國運ノ隆昌トヲ計ラント欲セハ須ラク國家ノ中堅タル中等民族ノ發展ト國民教育ノ普及トヲ圖リテ民權ノ向上ヲ促サ、ル可カラサルナリ

各省政權ノ分立ハ稍其形ヲ成サ、ルニハ非スト雖モ到底立憲政體ノ國家ト比較ス可クモ非ヌ、サレハ大臣ノ權力如何ニヨリテ分立ノ事實ヲ危フスルノ惡弊甚シク由來權力強大ニシテ事實上總理ノ地位ニ在リシ現内務大臣ダムロン(Damrong)親王ヲ凌駕セントスル當代ノ外務大臣バロプラカーン(Varo-prakar)親王ノ隆威ハ大ニ注目スヘキモノアリト雖モ元來暹羅政府ニ於ケル實權ヲ盛衰ハ一ニ財政ニ對スル豫算議定權ノ強弱ニ依ルモノナルカ故ニ漸次大藏大臣ノチャンダブリー(Chandaburi)親王ノ權勢ヲ高メ來リテ容易ニ侮ル可ラサル勢威ヲ示スカ如キ寧ロー一考ノ値アルニハ非サルカ之ヲ我カ國技館ノ勇士ニ比センカ内務大臣ハ梅ヶ谷外務大臣ハ常陸山ニシテ大藏大臣ハ太刀山ト謂フ可ク此等三大

臣カ中央政府ニ在リテ鼎足ノ形勢ヲ成セルハ注目スヘキ事實ナリ
中央行政ノ状態ヤ此ノ如シ時暈一轉地方行政ノ状態ヲ觀察スレハ行政區畫ヲ十八州ニ分チ内盤谷州ハ
中央行政ノ管轄ニ委ネ盤谷大臣ヲシテ盤谷府及其附近ノ地方行政ヲ掌ラシムルコト前述ノ如シ其他ノ
十七州ハ之ヲ縣(一萬人以上)、郡、邑(五乃至十箇村)、村(約十戸人口約百名)ニ別ツ此制度ハ明治二
十七年現内務大臣ノ制定セシ地方行政條例ニ依ルモノニシテ今猶ホ遊牧ノ民族往來シ土侯ノ存在スル
北方國境、南方馬來半島ノ如キ未タ國王ノ權力及ハサル地方ヲ除キテハ専ラ中央集權ニ勉メ各州ニ總
督、副總督、行政部長、法務部長、收稅部長、憲兵隊長、出納部長、土地記錄部長、工務部長、總督
秘書官以下諸種ノ官吏ヲ置キテ行政ヲ掌ラシム

以上地方行政官ノ任免ハ一ニ内務大臣ノ權限ニ屬ス副總督ハ兼テ州内縣知事ノ職務ヲ執ラシム現今土
地記錄部長ヲ置キタルハ僅ニ三州ニ過キサカ如キ全州土地ノ未整理ナルヲ察スルニ難カラス而シテ
四年前來中央集權ノ一策トシテ内務大臣ハ毎年九月總督會議ヲ首府ニ開キ各政務ヲ報告セシメ將來ノ
計畫ヲ討議シテ其政見ヲ訓示スルノ手段ヲ取リヌ

又内務大臣ノ權限ニ依リテ縣ニ相當ノ官吏ヲ置キ郡長ハ縣知事ノ推舉ニ依リテ總督之ヲ任命シ邑長
ハ村長會議ノ撰舉ニ對シテ知事之ニ承認ヲ與ヘ村長ハ郡長監督ノ下村民ノ投票ニ依リテ之ヲ決定

ス

中央集權ノ政策ニ依リテ成レル地方行政ノ制度ヤ此ノ如シ而モ土侯勢力範圍ノ地方行政ニ對シテハ一
部或ハ全部放任セルモノアルカ如キ暹羅國地方行政ノ普及ト中央集權ノ確立ハ前途猶ホ遼遠ナルヲ認
ム何トナレハ此等ハ一ニ交通機關發達ノ曉ヲ待タサル可ラサレハナリ

第二十二章 司法

本邦ニ於テ犯罪ノ有無ヲ檢センカ爲メ探湯ノ法ヲ採リ以テ神靈ノ裁判ヲ仰キ傷ツケル者ヲ有罪トシ傷
ツカサル者ヲ無罪ニ爲シタルカ如キハ已ニ二千年以前ノ事ニ屬シ今其跡ヲ留メスト雖モ暹羅ノ法廷ニ
於テハ古刑罰法ニ依ル試驗近世ニ至ル迄存在シ今猶種々ノ目的ニ依リテ私ニ之ヲ行フモノアリ
探火法ニ於テハ原被兩造ニ跣足ノ儘十吋ノ厚サニ積メル活火石炭ノ上ヲ歩マシム火ハ長サ十呎廣サ深
サ共ニ各々十吋ノ溝ヲ設ク繫爭者赤熱ノ石炭上ヲ歩ムニハ其歩ヲ弛緩ナラシムル爲メ官吏其肩ニ重量
ヲ加フ試驗ノ結果兩人ノ足ヲ檢シテ火腫ナキ者ヲ勝訴ト爲ス若シ共ニ傷ツカサレハ更ニ探湯法ヲ以テ
檢ス若シ共ニ傷ケハ兩者共ニ犯罪アリトス而シテ内地ノ小市街ニ於ケル法廷ニアリテ此ノ種ノ試驗ヲ
行ヒタルハ僅ニ四十年前ノ事ニ過キササルナリ

置シ漸次各種ノ法律ヲ制定シテ司法行政ノミ地方廳ニ委ネ同二十八年裁判所構成法及ヒ立證法ヲ發布シ翌年民事訴訟法ヲ實施シ同四十二年現行刑法ヲ頒布スルニ及ンテ漸ク其ノ面白ヲ一新スルニ至レリ

盤谷ニ治安裁判所三、民事、刑事、土地及宗教裁判所各一ヲ設ケ各州各縣ニ各一個ノ裁判所ヲ設キ州裁判所ヲシテ縣裁判所ノ判決ニ對スル控訴ヲ掌ラシム

大審院ハ必要ニ際シテ臨時ニ開廷シ國王親ヲ院長タルヲ以テ原則ト爲スト雖數百千ノ發生事件ニ對シテ一々審判センコトハ事實不可能ナルカ故ニ國王ノ任命ニ係ル五六ノ法官ヲシテ國王ノ名ニ於テ最終ノ判決ヲ爲サシム

宮中裁判所ハ王族ニ關スル事件ノミヲ掌リ國王ノ命スト雖モ何等準據ス可キ法規アルコトナシ

西曆紀元一千八百八十三年ノ英暹條約ニ基キテ國際裁判所ヲ盤谷及チエンマイニ設ケ英國及ヒ之ト同一ノ條約ヲ締結セル列國ノ歐人並ニ保護民タル亞細亞人ニ關スル司法ヲ掌ラシム

今現行刑法ヲ一覽スルニ法律顧問政尾法學博士ノ草案ヲ基礎トシ佛人ノ修正ヲ得テ暹羅語ニ譯シ更ニ之ヲ英譯シタルモノ而シテ其効果ハ宮中裁判所、宗教裁判所及ヒ陸海軍裁判所ノ司法ニ及ハサルコト

、シ先ツ總則ノ劈頭ニ於テ用語ノ解釋ヲ列記シタルハ奇トス可ク法ノ適用ニ關シテハ第一絕對的屬地主義、第二或ル程度迄屬人主義、併合罪ニ關シテハ吸收主義ヲ採ル等各論ヲ通シ大體ニ於テハ本邦ノ新刑法ニ似タリト雖モ專制國ノ特徴トシテ王室ニ對スル罪比較的ニ重視セラレ又宗教國ノ特色トシテ宗教ニ關スル罪ヲ獨立ノ一章ニ規定シ又財産ニ對スル罪ヲ規定シタル章ニ於テ海賊ニ關スル規定ヲ掲ケタルカ如キ注意ノ周到ト規定ノ緻密ヲ期シタルニモ拘ハラス刑ノ執行猶豫ト假出獄ノ規定ヲ設ケス且ツ賭博富饒及ヒ阿片ニ關スル罪ヲ認メサル等聊カ文明國ノ資格ヲ疑ハシムルモノアリ然ルヲ況ンヤ姦淫罪ヲ認メサルニ於テヲヤ固ヨリ熱帶國民早熟ノ結果トシテ姦褻罪ニ對スル男女ノ年齡ヲ十二歲以下ト爲シタルハ理由ナキニ非スト雖モ猥褻強姦罪トシテ姦通及ヒ重婚ニ關スル規定ナキハ一方民法ナク(目下草案中)他方戶籍法ナク(目下調査中)從テ夫タリ妻タル法律上ノ身分不確實ナル結果トシテ姦通及ヒ重婚罪ノ成立ヲ認ム可キ理由ナキニ外ナラスト雖モ元來教育乏シク道德ノ標準低キ暹羅國民ノ狀態トシテ父母、夫婦、兄弟、姉妹タル上一般ノ親族關係曖昧ニシテ亂倫ヲ極メ姦通離婚淫々トシテ社會組織ノ根底ヲ殘賊スルト共ニ相續關係亦頗ル曖昧ニ沒却セラレ、カ如キハ實ニ社會組織ノ精隨ヲ蹂躪スルモノニシテ暹羅國文明ノ前途遼遠ナリト謂フヘシ若シ夫レ國家組織ノ基礎トシテ家族組織ノ堅實ヲ計ラントセハ須ラク根本的社會政策ノ必要上民法ノ如キ私法制定ノ緊急要務ナルヲ認ム

第二十三章 支那ト暹羅トノ關係

暹羅ニ於ケル外人ノ總數ハ二千四百五人ニシテ外人ノ勢力ハ英、獨、佛ノ順位ニ在リ爾テ我カ日本人ノ勢力ヲ觀ルニ明治四十三年末ノ調査ニ依レハ其數僅ニ百九十人ニ過キス固ヨリ年歲増加ノ傾向アリト雖其勢力ハ未タ歐洲第二流ノ列國ト相距ル遠カラス若シ夫レ三百年前ノ過去ニ遡リテ日暹兩國ノ密接ナル關係ヲ回想センカ轉々今昔ノ感ナクンハアラサルナリ而シテ邦人ノ暹羅ニ移住セシハ第十五世紀ノ末葉ニ當リテ彼ノ志ヲ得サリシ豐臣遺臣ノ渡航ニ始マリ國際的交通ノ開始ハ慶長十一年徳川家康カ御朱印船ノ特許ヲ與ヘ暹羅國王ニ鐵砲ト奇楠香ヲ求メントシテ使者ヲ遣ハシタルニ始マリ同十七年ニハ暹羅ノ使者曠府ニ來リ元和七年ニハ更ニ江戸ニ至リテ隣交ヲ修ム當時抑フ可ラサル霸氣ヲ懷キテ御朱印船ニ潛ミ臺灣ヨリ暹羅ニ入りテ豐臣ノ遺臣カ當代ノ首府アイユーチヤノ外郭ニ建テタル日本人町六七百人ノ首領ト爲リ第二王朝ヲ援ケテ大功ヲ樹テ大臣ニ進ンテ公女ノ降嫁ヲ得タルイヒルノ大守山田長政ハ王ヲ輔佐シテ本邦ニ修交ヲ勸メ屢々使者ヲ派シテ國書及ヒ方物ヲ獻セシメタルハ事實ナリ後長政王宮ノ逆臣ヲ除カントシテ事ヲ舉ケ成ラスシテ斃ル、ヤ日本人モ亦遣放セラル時方ニ寛永十年ナリキ而シテ一方幕府ノ鎖國政策ハ更ニ同胞ノ足跡ヲ暹羅ニ印スルコトヲ許サ、ル結果トシテ終ニ兩

國ノ交通絶ヘタリシカ幕府ノ末葉ニ至リ外交ノ禁解ケテ以來日本人ノ暹羅ニ渡航スルモノ漸ク多ク明治二十一年ニ至リテ友好宣誓ヲ交換シ明治三十年稻垣公使ヲ派シテ更ニ修交通商條約ヲ締結シタリ而シテ議定書中暹羅ノ法制完結ノ曉迄日本ニ於テ領事裁判權ヲ留保シタリシカハ暹羅國ハ法典ノ改完ヲ急キ邦人法學博士政尾藤吉氏ヲ招聘シテ以テ法律顧問タラシムルニ至リヌ然モ近年政府ノ方針タル利權回收政策ノ結果トシテ一般僱聘官吏ノ勢力衰ヘタルノミナラス在留邦人中大事業家ナクシテ本邦人ノ勢力微弱ナルハ實ニ悲シム可キ所此點ニ於テハ彼ノ支那人ニ及ハサルコト遠シ然ラハ支那人ノ地位ハ如何

支那人ハ全人口ノ三分ノ一ニ近ク中央盤谷ノ人口五十萬ノ中五分二以上ヲ占ム而シテ支那人本來ノ性質トシテ其目的トスル所ハ利殖ニ在ルカ故ニ暹羅人ノ凌辱甚シキニモ拘ハラヌ商權ハ既ニ勤勉ナル支那人ノ獨占ニ歸シ經濟上ノ勢力ハ優ニ懶惰ナル下層暹羅人ノ上ニ立ツテ陰ニ中等社會ノ實質ヲ形勢セリ然ルニ支那人ニ對スル人頭稅ハ從來三年目ニ一回六銖(暹羅人ハ年六銖)ヲ課スルノミナリシカ其利權ノ保護ニ關シテハ毫モ暹羅人ト異ナル處ナキニモ拘ハラヌ支那人ニ對シテ僅ニ其三分ノ一ノミヲ課スルハ不公平ノ嫌アルノミナラス一國ノ財政上ヨリスルモ年ニ依リテ歲入ノ増減不定ナル一國財政ノ基礎ヲ不確實ナラシメ國家事業ノ繼續經營ニ對スル收支豫算ノ根柢ヲ危フスルモノナリトノ説勢力ヲ

得客春之ヲ均等ト爲シタル結果豫テ虐遇ニ不平ナル支那人ハ同盟シテ閉店シ市中一臺ノ力車サヘナキニ至リ首府一般日常需用ノ食品ニモ窮スルニ至リタルヨリ俄然暹羅政府ハ府中ニ戒嚴令ヲ布キ兵力ヲ以テ各戸ニ閉店ヲ迫リ尙ホ應セサル者ハ直ニ捕ヘテ牢獄ニ投スルカ如キ高壓手段ヲ取リシカハ漸次開店スルニ至リ旬日ナラスシテ殆ント平靜ニ歸シタリ而シテ此ノ事件ノ結果トシテ在留支那民團ノ訴願ニ出テタルモノナルヤ否ヤハ之ヲ知ラスト雖清國政府ハ過去ノ歷史的關係ニ依リ從來暹羅ヲ以テ朝貢屬國ト見做スカ故ニ嘗テ條約ヲ締結スルコトナク從テ未タ公使領事等ヲモ派遣セサリシモ暹羅國政府ノ壓制ニ苦シム自國人民ノ利權保護ニ對シテハ代表者駐劄ノ急要ヲ感シ之ヲ派遣スヘシトノ聲高シ但シ其ノ實現ノ期果シテ何レノ時ナルヤ不明ナルカ如シト雖モ之カ實現ノ曉ニ至リ百四十萬ノ支那人カ准暹羅人ノ地位ヲ脱シテ純然タル清國民ノ地位ニ立ツヲ得ハ一國商業ノ霸權ヲ掌握セル彼等ノ向上ヤ管ニ商業上ノミニ止マラスシテ頗ル注目ス可キ有爲ノ地歩ヲ占ムルニ至ルコト必然ナリト信ス

第二十四章 貿易

暹羅ハ良好ナル港灣ニ乏シク從テ盤谷ニ於ケル外國貿易ハコーシチャンニ於テ貨物ノ積卸シヲ爲サ、ルヘカラサル等河口ノ門洲ニ妨ケラレ外洋トノ關係ニ於テ隔靴搔痒ノ感アリト雖元來天產物ノ富裕ナ

ル結果トシテ貿易額年一年増加シテ二億餘ニ達シ輸出超過四千萬餘ノ好經濟狀態ニ在リ

輸出品ノ主ナルモノハ米、「チーク」材及ヒ魚類等ニシテ輸入品ノ主ナルモノハ衣服材料及ヒ食料品等ナリ輸入地ノ主ナルモノハ新嘉坡、香港、支那、英國、印度、獨逸等ニシテ輸出地モ亦之ニ準ス而シテ貿易ノ實權ハ英國ヲ第一トシ支那、獨逸之ニ次ク等凡テ外人ノ手ニ歸スルニモ拘ハラヌ暹羅ニ對スル佛國ノ商業關係極メテ薄キハ考一考ノ値アリ

今本年度大藏省財政豫算年報ニ依リ輸出入貿易統計表ヲ掲クレハ左ノ如シ

輸		出				輸		入			
項目	區分	一九〇九	一九一〇	一九一一年	項目	區分	一九〇九	一九一〇	一九一一年		
米	一、七、七、〇、〇〇〇	一、七、七、〇、〇〇〇	一、七、七、〇、〇〇〇	一、七、七、〇、〇〇〇	雜貨	一、七、七、〇、〇〇〇	一、七、七、〇、〇〇〇	一、七、七、〇、〇〇〇	一、七、七、〇、〇〇〇		
糖	一、七、七、〇、〇〇〇	一、七、七、〇、〇〇〇	一、七、七、〇、〇〇〇	一、七、七、〇、〇〇〇	酒類	一、七、七、〇、〇〇〇	一、七、七、〇、〇〇〇	一、七、七、〇、〇〇〇	一、七、七、〇、〇〇〇		
雜貨	一、七、七、〇、〇〇〇	一、七、七、〇、〇〇〇	一、七、七、〇、〇〇〇	一、七、七、〇、〇〇〇	阿片	一、七、七、〇、〇〇〇	一、七、七、〇、〇〇〇	一、七、七、〇、〇〇〇	一、七、七、〇、〇〇〇		
再輸出	一、七、七、〇、〇〇〇	一、七、七、〇、〇〇〇	一、七、七、〇、〇〇〇	一、七、七、〇、〇〇〇	金箔	一、七、七、〇、〇〇〇	一、七、七、〇、〇〇〇	一、七、七、〇、〇〇〇	一、七、七、〇、〇〇〇		
寶石	一、七、七、〇、〇〇〇	一、七、七、〇、〇〇〇	一、七、七、〇、〇〇〇	一、七、七、〇、〇〇〇	計	一、七、七、〇、〇〇〇	一、七、七、〇、〇〇〇	一、七、七、〇、〇〇〇	一、七、七、〇、〇〇〇		
計	一、七、七、〇、〇〇〇	一、七、七、〇、〇〇〇	一、七、七、〇、〇〇〇	一、七、七、〇、〇〇〇	計	一、七、七、〇、〇〇〇	一、七、七、〇、〇〇〇	一、七、七、〇、〇〇〇	一、七、七、〇、〇〇〇		

第二十五章 財政

本年度大藏省財政豫算年報ニ依レハ選維ノ歳出入ハ年々増加シ近年概ネ剩餘アリ國債モ亦多カラス財政ハ極メテ良好ノ状態ニ在リ今過去十年間ニ於ケル歳出入ヲ示セハ左ノ如シ

年	歳入	歳出	過	不足
一九〇〇	五、六二、三六六	三、八四、一五七	一、七七、〇〇九	
一九〇一	五、一七、六三三	四、六四、六五九	四八、九七四	
一九〇二	五、二五、三四三	五、二四、八四四	一〇、四九九	
一九〇三	五、四〇、二〇三	四、九八、八九二	四、四一、三一〇	
一九〇四	五、三〇、三〇四	四、六四、四六四	六、六五、八四〇	
一九〇五	五、四〇、四〇五	五、〇〇、五三三	三、三九、八七二	
一九〇六	五、一五、〇〇六	五、〇〇、四六〇	一、一四、五四六	
一九〇七	五、〇六、〇〇七	五、〇〇、三〇三	五、〇五、七〇四	
一九〇八	五、〇七、〇〇八	五、〇八、四六八	一、四一、四六〇	
一九〇九	五、〇八、〇〇九	五、〇四、四六九	三、〇三、五四〇	
一九一〇	五、〇九、〇一〇	五、〇六、四七〇	二、四二、五四〇	
計	四八、四四、三九九	四八、六七、三六七	一、二二、八七三	二、四四、〇一〇

本年度豫算ヲ以テ昨年度ノ豫算ニ比較スレハ

科	區	分	一九一〇	一九一一
歳入	歳入	歳入	六〇、五二三、五二〇	六二、三二〇、〇〇〇
歳出	歳出	歳出	六〇、五二二、九六二	六二、二三五、五三九
差引	差引	差引	五五八	八四、四六一

歳入ノ主ナルモノハ第一阿片税、第二地租及ヒ漁業税、第三人頭税、第四酒精税等（歳入豫算表ハ省略ス）ニシテ其ノ増加セル大原因ハ商業及産業ノ發達ト收税制度整理ノ結果ニ外ナラサルナリ然モ遊惰ノ弊風ヲ一新センカ爲メ漸次公許賭博場ヲ閉鎖シ且ツ體格ノ改善ヲ計リテ阿片税ノ増率ヲ行フ等ハ歳入額ニ對スル影響少ナカラサル可シト雖モ隆昌ナル國運ノ進歩ハ之ヲ償フテ餘アリ

今歳出ニ對スル各省ノ豫算ヲ舉クレハ左ノ如シ

項	區	分	一九一〇	一九一一	前年度トノ比較
内務	内務	内務	二、八七、九八〇	二、九六、九八〇	増
陸軍	陸軍	陸軍	二、三六、四〇〇	二、三六、四〇〇	同
海軍	海軍	海軍	一、〇七、〇〇〇	一、〇七、〇〇〇	同
外務	外務	外務	九、六〇、〇〇〇	九、六〇、〇〇〇	同
計	計	計	一、六八〇、〇〇〇	一、六八〇、〇〇〇	同

治權ト宗教トノ關係ヲ論シタル編ニ於テ暹羅ニ關スル論議ヲ載セタルコトアルヲ去レハ今復舊底ニ探
リテ之ヲ緝キ轉ミ懷舊ノ感ニ堪ヘサル儘左ニ其一節ヲ摘録シテ跋ニ代ヘント欲ス
夫レ洋ノ東西ヲ問ハス建國當初ノ狀態ハ所謂神權政治ノ社會ニシテ政教一致ハ國家統治ノ精神ナリ然
リ而シテ祭祀ノ長ハ即チ政治ノ長ナリ宗教ノ長ハ即チ司法ノ長ナリ當時法ハ神意ニ出ツルモノ司法權
ハ神意ヲ判斷シテ人間ニ制裁ヲ加フル所ノ權力ナリト思惟シタリ、サレハ一國ノ首長ハ心俗兩界ノ權
力ヲ掌握シ一方ニ於テハ人民ノ精神界ヲ支配シテ其宗教上ノ信仰ヲ左右スルト同時ニ他方ニ於テハ國
民ノ統治ヲ執行シテ其外部ノ行動ヲ拘束シタルハ内外法制史ノ共ニ明示スル所(中略)神聖萬能ナル統
治權ハ一ニ幾千年來國民ノ頭腦ニ印セル宗教上ノ信仰ニ由リテ生ル、モノ國體ノ精華ハ實ニ千古不動
ナル國民信仰ノ結果ニ因リテ成ルモノナルヲ觀レハ宗教ハ統治ノ根本的一大要素ニ非サル乎加之宗教
ハ國家維持ノ政策上亦甚タ必要ナリ而シテ信仰ナキ國民ノ末路憐ム可ク之ニ反シテ宗教上ノ信仰ニ由
テ一致シタル國民ノ團結強固ナルハ各國歴史ノ明示スル所ニシテ彼ノ東洋ニ於ケル暹羅カ四境洋西ノ
羈絆ニ苦ミ唇衰ヘテ齒漸ク寒キ逆境ニ介シナカラ猶一小國域ヲ以テ獨立國家ノ體面ヲ保持シ列強ト對
峙シテ以テ悠悠々天南ニ割據スルハ他ニ頼ム可キモノアルカ故ニ非ス唯宗教上ノ信仰ニ依リテ一致シタ
ル國民ノ團結鞏固ナルニ由ルノミ而シテ國家維持ノ目的ヲ完ウセンカ爲メニハ國民ノ信奉スル宗教ハ

須ラク同一ナルヲ要スヘシ何トナレハ若シ國民ノ信教區々ナランカ是レ既ニ信仰上根本的ニ分裂セル
モノ國體ノ全部ニ流通一貫セル精神的一致ノ要素ヲ缺ク以上ハ爭テカ其團結ノ強固ナルヲ得ンヤ從テ
團體ノ目的即チ國家維持ノ目的ヲ成徹スルコト能ハサルハ明ナル事實ナレハナリ例ヘハ印度カ英國ノ
羈絆ヲ脱セントシテ屢々獨立自由ノ叛旗ヲ翻スニモ拘ハラス毎ニ忽然中途ニ萎縮シテ徹頭徹尾成敗ノ
域ニ進ム能ハサルモノ是レ各種ノ宗教混淆ノ結果人民ノ信仰一ナラスシテ團結ノ確固ナラサルニ由ル
之ニ反シテ暹羅カ國知智識及ヒ人口其他種々ノ點ニ於テ悉ク印度ニ及ハサルコト遠キ國情ニ在リナカ
ラ前述ノ如ク獨立國家ノ體面ヲ汚ササルハ輒チ唯一宗教ヲ奉スルノ結果國民ノ信仰一致シテ團結力ノ
強大ナルニ由ラスンハアラス(中略)此點ニ於テ國教制度ノ必要ナルヲ觀ル云々
此ニ暹羅王國ノ實況ヲ瞥見シテ思半ニ過クルモノアルヲ認ム若シ夫レ本稿ノ大成ヲ期スルカ如キハ時
日ノ餘裕ト更ニアーンスト、ヤングノ最近原著 The Kingdom of the Yellow robes 研覈ノ曉ニ讓ラン
ト欲ス

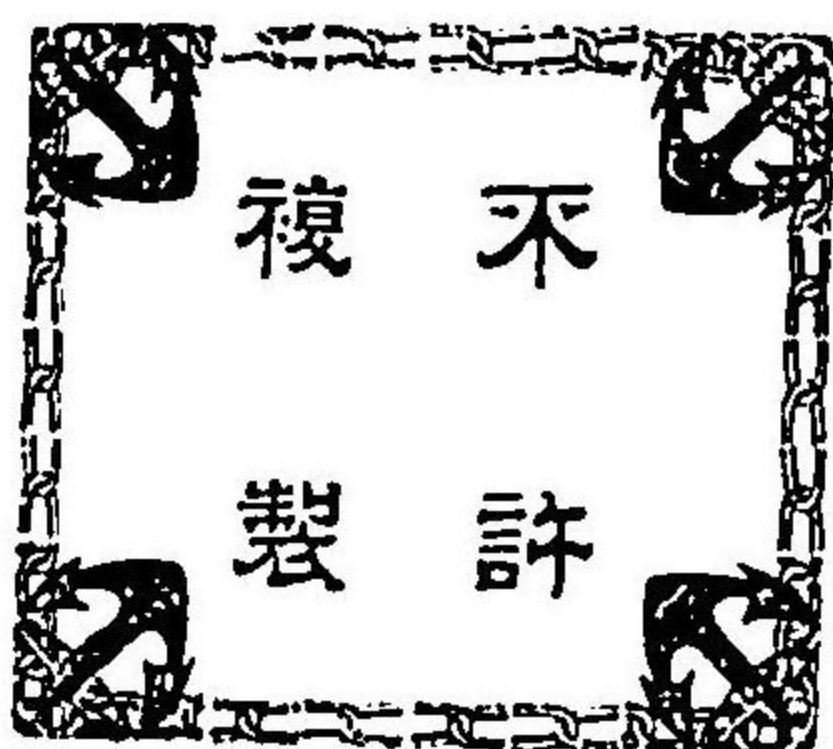
(終)

0040

14

47639

明治四十五年三月三十日印刷
明治四十五年三月卅一日發行



發行所

東京市京橋區築地四丁目一番地

水交社

(電話一三四〇番)

編輯者兼

東京市京橋區築地四丁目一番地

吉田力作

印刷者

東京市神田區美土代町二丁目一番地

島連太郎

印刷所

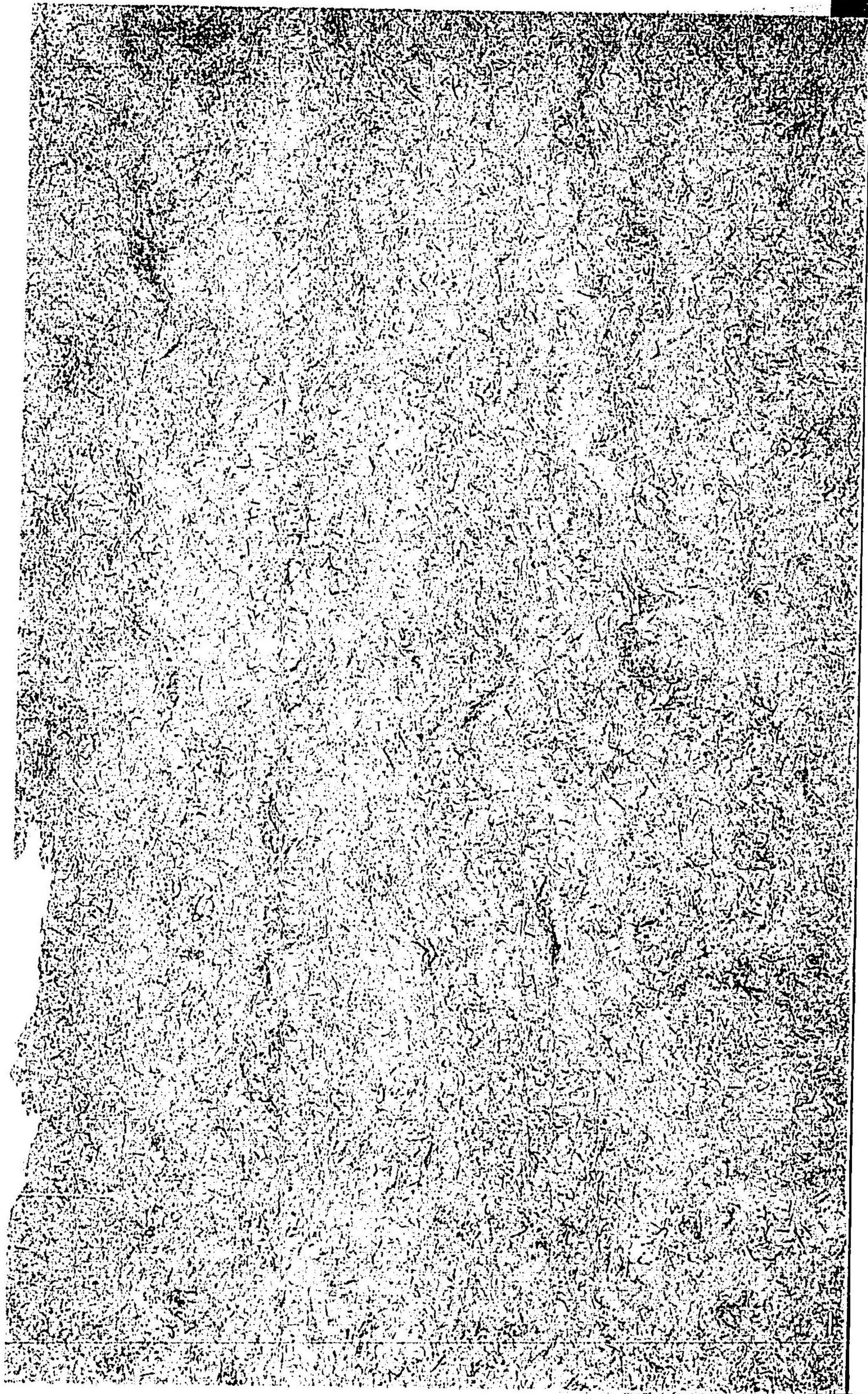
東京市神田區美土代町二丁目一番地

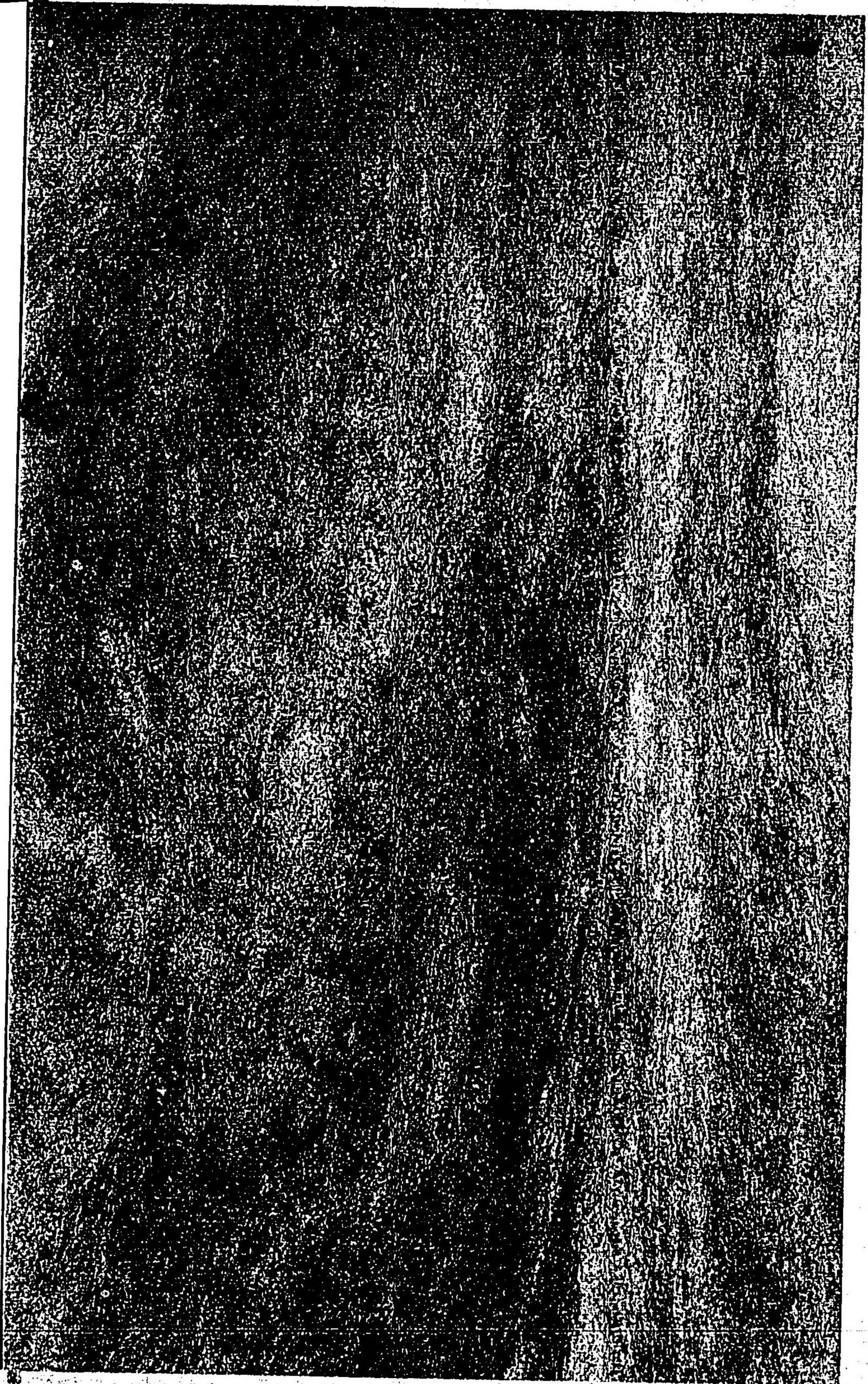
三秀舍

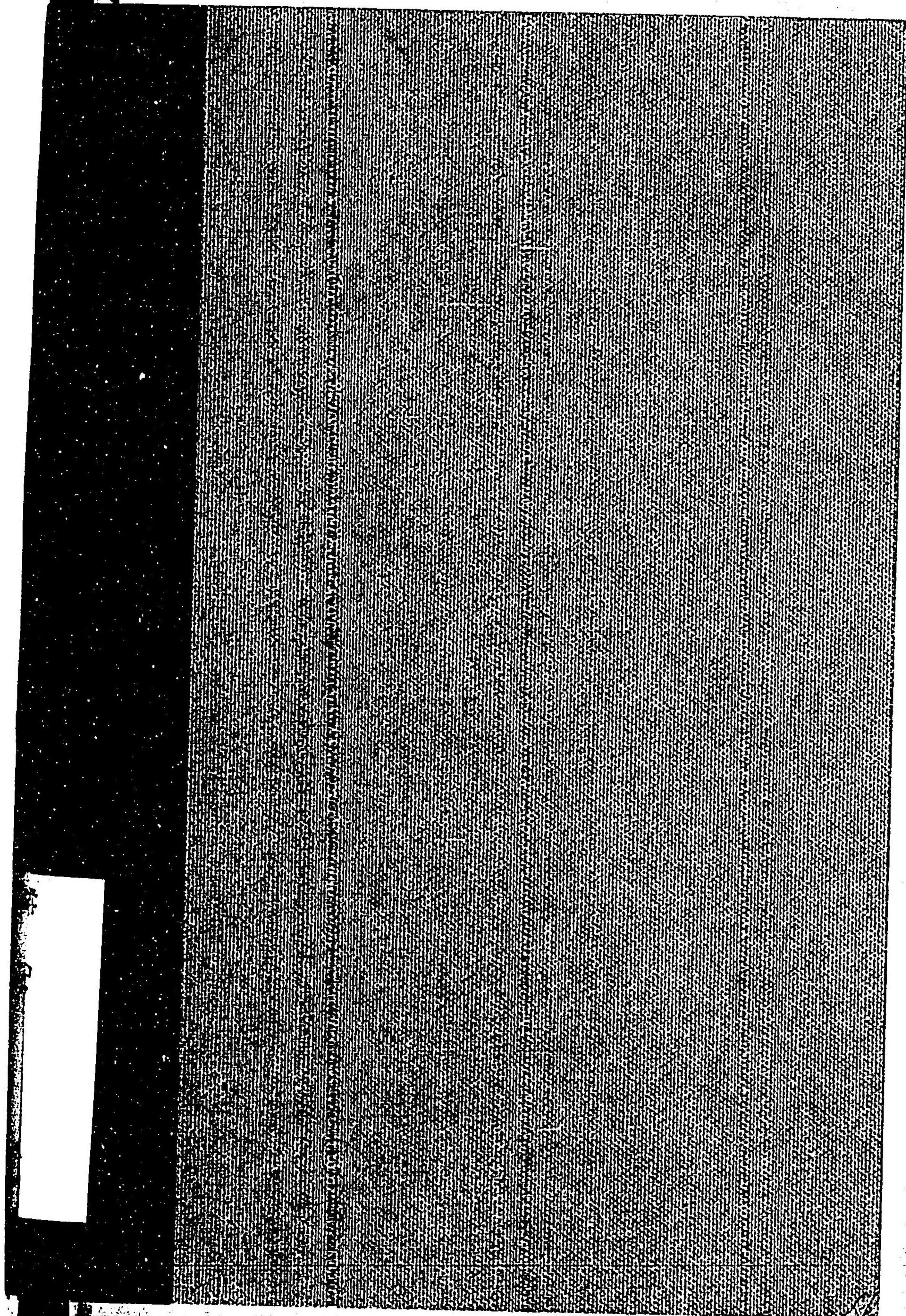
(電話三〇八七四番)

〔非賣品〕









特 70

57

暹羅王国之瞥見

国立国会図書館

026763-000-2

特70-57

暹羅王国之瞥見

吉田 力作/編

M45

ADD-0462

